

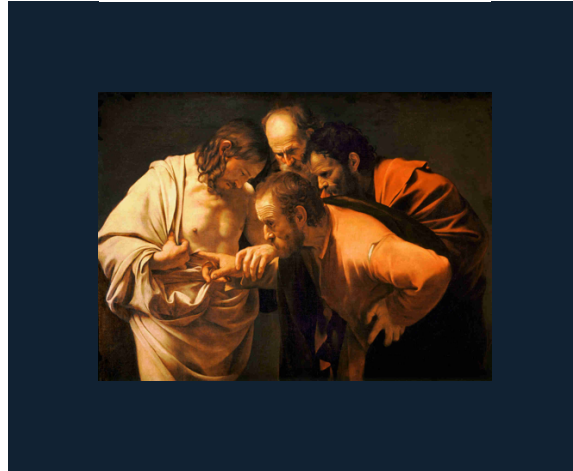
BOIT MSLQ GL66U



Rolf Ward Green



BOIT MSLQ GL66U



## The Incredulity of Saint Thomas (Caravaggio, 1601-2)

ば，存続するものの栄光はなおさら大きいはずです。  
(コリント第二 3:11)

# 生まれて、求められて。 メシア

## Rolf Ward Green

第1章：天文年代測定と真の地球

第2章：昨日のことを振り返る

第3章：ティベリウス、ヘロデ、天文学、証言

第4章：数値的に内部の端点として発見されたダニエル

第5章：公明正大なラムジーが勇気づけられる話をしてくれた

第6章：ローマ人定期的な登録、アウグストゥス、ルカ

第7章：確実な証しでローマを耐えるクリスチャンたち

第8章：神はアブラハムの新生児を永遠の日に救い出される

**第9章：異邦人の観察された年代測定  
のまとめ**

**第10章：予告されていた普遍的な義  
への違反**

**第11章：改革的総年限における歴史**

**第12章：エッセネ派を考える**

**Chapter 1: Astronomical Dating And  
True Earth**

**Chapter 2: Back-dating Yesterdays**

**Chapter 3: Tiberius, Herod,  
Astronomy, Testimony**

**Chapter 4: Daniel As Numerically**

# **Internal Endpoints Learned**

**Chapter 5: Principled Ramsay Offers  
Very Encouraging Story**

**Chapter 6: Roman Enrolments,  
Augustus, Luke**

**Chapter 7: Christians Handle Rome  
In Secure Testimony**

**Chapter 8: God Reprieves Abraham's  
Newborn To Everlasting Days**

**Chapter 9: Gentile Observed Dating  
Summarized**

**Chapter 10: Foretold A Violation Of  
Universal Righteousness**

**Chapter 11: The History In  
Reformative Total Years**

**Chapter 12: Considering Essenes**



# 第1章：天文年代測定と真の地球

**Right:** Adoration of the Magi, Museo del Prado, Madrid (c. 1510 painting by Hieronymus Bosch, c. 1510, Oil on wood, 138 x 72 cm)

**The heavens are declaring the glory of God; And of the work of his hands the expanse is telling.  
(Psalms 19:1, New World Translation (1984))**

天は神の栄光を知らせ、大空は神の偉業を伝えている。

**(詩編 19:1, 新世界訳聖書 (スタディー版) 2019, 2020)**



<sup>11</sup> 天文学を用いた年代測定は、天体の動きを利用して歴史上の出来事を年代測定するもので、天文年表または天文年代測定れています[1]。天体の軌道は現在まで一定であることを大前提としていますが（例外として、地球-月系の潮汐加速度を考慮していますが、この加速度も時間的に一定であると仮定しています）。天体年代測定は、理論的には他の方法に比べて非常に高い精度が期待でき、相対的な年代測定ではなく絶対的な年代測定が可能です。これらの不変性の仮定が有効であるかどうかは絶対的にはわかりません。天体年代測定は、二次的な確認のためには有効ですが、あまり深刻に考えすぎないようにしなければなりませんし、その限界を認識した上で使用しなければなりません。年表を確認するとき

は、その価値が最も高くなりますが、不変性の仮定には限界があり、年表を確実に排除することはできません。天文学的な年代測定法によって、すべての年代が確認されている年表は（おそらく私たちの年表を除いて）ありません。

[1](創世記 1:14,15)



**Above:** NASA, Earth and Moon, Oct 17 2000, Terra satellite, MODIS sensor

*(WG Feb 24 2021 modified dimensions and JPG quality to reduce file size)*

oooooooooooooooooooooooo

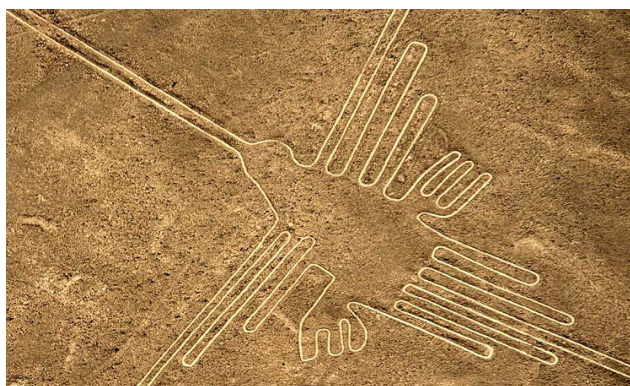
<sup>12</sup> 地球の歴史を語る理論の中には、ある時期に彗星などの天体との衝突によって地球の軌道や自転軸が乱れたとするものがいくつかある。しかし、これは一般的に、乱れた後の数年間の議論には関係ない。地球の自転軸に対する以前の擾乱の有効性も疑問視されるかもしれませぬ。なぜなら、宇宙空間における地球の位置は、ハイスピードではない「precess」または「nutate」しないからです。地軸が揺れる18.6年の周期でわずかな狂いが生じます（「ジャイロスコープのように」）ことでわずかな狂いが

生じ、地球の軸が360度の空間で歳差運動をすることで、星の位置が26,000年サイクル。さらに、そのような擾乱が起こる前に、地球がどのように向きを変え、回転していたのかについての知識も不足しています。なぜ乱れの理論を考える必要があるかということ、時間の研究の非常に魅力的な側面の一つに、古代文明が現代人以上の知恵を持っていたと考えられるからです。ピラミッドをはじめとする高度な建造物の例は世界中にあります。巨石建造物は、後世の文化がその上に劣った建造物を建設したため、大災害を経験したようです。また、海の底に沈んだ高度な文化であるアトランティスの話もあります。

oooooooooooooooooooooooo

13 絶滅の証拠に基づいて、攪乱に関する理論の理由を知ることができるかもしれませんが。恐竜の絶滅もこのモデルに当てはまるかもしれない。進化論の観点からは厄介な「巨大な」人型の遺跡の証拠は、恐竜の骨の近くに形成された人間の化石の足跡によって補強されている。現代の理論家にとっては厄介な事実なので、尊敬する博物館はそのような遺物を隠したり、破壊したりしています。エジプトのピラミッド、ストーンヘンジ、イースター島のモアイ、ペルーのナスカの地上絵などの偉大な作品は、地球外生命体によるものとする説もあるが、主流の理論家は人間によるものとしている。1970年に公開されたドキュメンタ

リー映画「神々の戦車」"Chariots of the Gods"は、エーリッヒ・フォン・ダニケンの著書「神々の戦車」"Chariots of the Gods?"を基にした長編作品で、このような天才的な業績を地球外の宇宙船が関与していると説明している。



**Above:** Nazca lines, hummingbird (*Nazca region, Peru*)

oooooooooooooooooooooooo

<sup>14</sup> このような物語は 私たちの新発見の欲求や娯楽の欲求を満たすだけでなく、過去の真実を求める精神的な欲求の材料となるものであり、はるかに深いものです。これらのことは、相互に接続されたテクノロジーに縛られた高度な文化によって感情のプライバシーが危険にさらされている現代のパラダイムという斬新な文脈の中で重く受け止められている。エドワード・スノーデンがこう言えるのも、この文脈の中でのことだ:

**隠すことがないからプライバシーの権利を気にしないと主張するのは、言うことがないから言論の自由を気にしないと  
言うのと変わらない。**

**(エドワード・スノーデン)**



スノーデン氏の発言は、プライバシーやその権利と真実との関係、そして密接に絡み合っていることを強調しています。

oooooooooooooooooooooooo

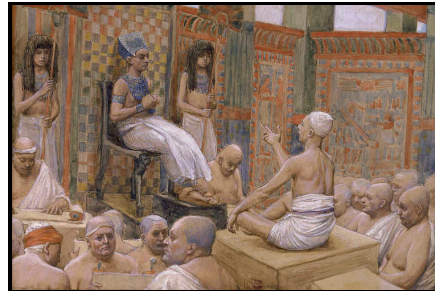
<sup>15</sup> 私がこれまでに共著で発表した17本の記事では、私自身の家族の歴史や人間の家族の歴史に関連して、歴史における家族の役割とその真の年代を考察してきました[1]。その過程で、多少の単純化が生じています。同様に、古代に地球を浸水させた地球規模の大洪水の概念は、高度な文化に何が起こったかの説明を単純化する可能性がある。我々の文化が進歩したからといって同

じ運命をたどることはなく、我々は年表を聖杯として支え、その年表によって古代世界も浄化されたのである。私たちの運命がわからないのと同じ理由で、今回の記事のタイトルはまだ決まっていなくても構いません。しかし、選択が自由を制限することは基本的なことであり、ナニー・ロウが言ったように、「真実はあなたを自由にするでしょう」[2]。この告白で、親愛なる読者は、私が負担している困難を理解するよう求められるかもしれません。もし私が、私が書いているこの言葉の結果や完全な意味を、その最終的な痕跡を視野に入れて、今知ることができたら、私のメッセージの平易さは戦略に入ってしまうでしょう。また、もし私が自分の書いたものを前もって知っていたとしたら、共有したいという私

自身の気持ちと、全体としての世界の好奇心が、当然のことながら、私たち全員のプライバシーを守ってくれたかどうか、重大な疑問を抱くことになるでしょう。

[1](過去に"*My Story*"を含む18記事)

[2](ルカ 8:32)



**Above:** Joseph Interprets Pharaoh's Dream, Jewish Museum, New York (c. 1896-c. 1902 painting by James Jacques Joseph Tissot, gouache on board, 15.1 x 22.6 cm)

oooooooooooooooooooooooo

<sup>16</sup> プライバシーの問題については、この技術的な時代において、私が使用しているシステムとLinuxについて少し触れておく必要があると思います。リーナス・トーバルズが1991年にUnixをベースにしたOSのフリーカーネルを開発し、彼の名前をとって「Linux」と名付けて以来、Linux OSはコンピュータソフトウェアの分野では非常に長い歴史を持っています。AT&Tベル研究所のケン・トンプソンとデニス・リッチーが書いたOSを、カリフォルニア大学バークレー校が1977年にBerkeley Software Distribution (BSD) に改編したもので、このシステムがベースとなって「Mac OS X」(2001年)が誕生した。LinuxもMac OS XもBSDも、少なくとも部分的にはUnixを

「ベース」ににしており、この意味で、UnixをベースにしていないうMicrosoftの「Windows」OSとは区別されています。プライベートについては、プロプライエタリなコードには秘密の「バックドア」（セキュリティホール）が存在するのに対し、パブリックなコードは誰もが不具合を確認・修正することが可能であり、最も本質的な秘密性の欠如により安全性が保たれているということです。



**Above:** Landscape with the Prophet Elijah in the Desert, The Hermitage, St. Petersburg (1610s painting by Abraham Bloemaert, Oil on canvas, 72 x 97 cm)

oooooooooooooooooooooooo

<sup>17</sup> Windowsは、Mac OS X（「Ten」）と同様に、その実装にプロプライエタリなコードを使用しているが、Unixはほとんどがフリーである:

**PDP-7を使って、ThompsonとRitchie**

が率いるベル研究所の研究者チームは、Rudd Canadayを含めて、階層的なファイルシステム、コンピュータプロセスとデバイスファイルの概念、コマンドラインインタプリタ、プロセス間通信を容易にするパイプ、そしていくつかの小さなユーティリティプログラムを開発した。  
(*Wikipedia, "Ken Thomson" (ie. about Unix)*)

"Free"とは、ソースコードが公開されていることを意味しており、1983年にUnixがきっかけとなって、後にLinuxやその多くのディストリビューションを含む、フリーソフトウェア運動が起こった。1994年にカリフォルニア大学を相手取った訴訟の結果、BSD Unixはどこでも無料で配布できるようになり、Linuxは1991年から始まっていた。

1981年以前のUnixは、AT&Tが無償でライセンスしていた。1984年にAT&TはBell Labsを手放し、Unixに関する独占禁止法上のライセンス義務から解放されたが、その後Bell LabsはプロプライエタリなUnixの販売を開始した。

oooooooooooooooooooooooo

<sup>18</sup> このような近代的なコンピュータ・オペレーティング・システムの使用は、インターネットという現象を可能にし、その結果、前にも書いたように、歴史的、科学的な自然の中のリソースにアクセスすることができるようになりました。ユダヤ人であ



る彼らの視点から見た聖書の作者の特徴の一つは、外国の王の年号をかなり独特な方法で記していることです。つまり、王の国の公式な習慣に基づいて1年目を設定するのではなく（当時は距離的にも、また現代の通信手段がなかったためにも困難であったに違いありません）、即位の年や共同統治による違いはあっても、外国の王の王権を想定した最も古い報告が1年目となっているのです。もちろん、これは全く論理的であり、驚くべきことではない。例えば、ネブカドネザル王の「18年目」に対して「19年目」とされていることなどが挙げられます[1-3]。素人目には違和感があり、可能性のある年代を疑うようにさえ見えますが、熟練した観察者には何の問題もありません。ここで重要なのは、聖書の根本的な無謬性

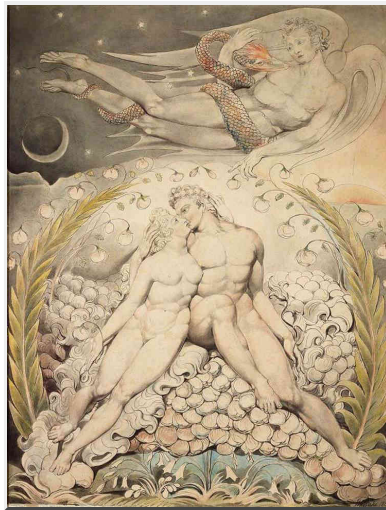
です[4]。

[1](列王第二 25:8)

[2](エレミヤ 52:12)

[3](エレミヤ 52:29)

[4](テモテ第二 3:16)



**Above:** Satan Watching the Caresses of Adam and Eve, Museum of Fine Arts, Boston (1808 painting by William Blake, Pen and watercolour on paper, 505 x 380 mm)

oooooooooooooooooooooooo

19 聖書の無謬性については、多くの情報源から引用されています。聖書に含まれている特定の予言に関する正確さの度合いは、世界的に精査されており、主観的な視点に左右されることが多いのです。したがって、ユダヤ人の長老たちは、神の関心と配慮の対象に近いところにいたので、イスラエルが聖書を解釈する際に頼るべき権威でした。彼らの主観は、エホバ自身の予言と矛盾するような口伝になると好ましくありませんでした[1,2]。このような伝統を文書化したものがミシュナであり、それをさらに詳しく説明したものがゲマラであり、ともに文書化されたのは、エルサレムの第二神殿が破壊された後のことでした。この70

年という日付が確実であると信じられていることから、私たちは自信を持ってこの日付を出発点とし、そこから時間を遡って日付を計算し、ユダヤ人の歴史、特に私たちの主イエスの日付をより確かなものとし、その上で、ダニエル9:24-27をどのように理解すればよいのかを模索します（ダニエルの70週の預言）。そのためには逆算するのが普通であり、最良の方法です。それならば、ユダヤ人の賢者の教えを利用して理解を助けることは、どれほど適切なことでしょうか？

[1](マタイ 15:6)

[2](マルコ 7:13)

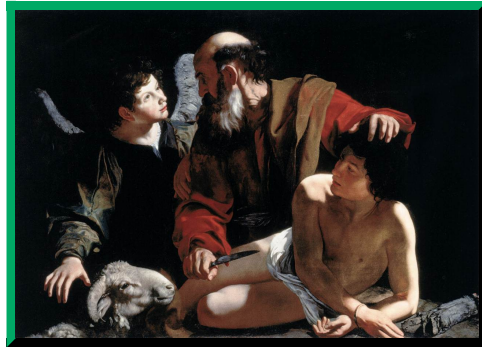
[3](ミシュナーとゲマラはタルムードを構成しています。タルムードの名前は「学ぶ」という意味ですが、ゲマラだけを指している場合もあり、後の名前は「研究」という意味です。)

oooooooooooooooooooooooo

<sup>110</sup> 始める前に、エホバが自分の選択をユダヤ人に限定しているわけではなく、ネブカドネザルを使って彼らを征服し、キュロスを使って彼らを解放し、他の意欲的な者もエホバを助けることを証明していることに注目することが重要です。さて、キリスト教の信仰のためには、ユダヤ人の賢者たち自身がキリストの主張を理解し、信じたり反論したりすること以上に関心を持つ人がいるでしょうか。この点について、バビロニア・タルムードのヨマ39bには次のように書かれています。「第二神殿が破壊される前の40年間、大祭司の右手には神のための籤が全く生じなかった... 聖所の扉は、やがて敵によって開かれることを示すしと

して、ひとりでに開いた」(ラバン・ヨ  
ハーン・ベン・ザッカイに叱られるまで)  
とあり、西暦30年から70年までの間に起  
こった最もありえない出来事を示していま  
す。すなわち、神に有利な籤が出ないとい  
うことは、1年に1回、**40年間連続して必ず  
神に不利な籤が出る**ということであり、そ  
の確率は2の40乗(1,000億)に1つしかあり  
ません。このことは、ヨマ39bによれば、40  
年間エホバへの罪の捧げ物がなかったこと  
を意味し、まるで捧げ物に関して何かが変  
わったかのようです。しかし、これらの出  
来事を西暦30年の出来事と結びつけること  
は、ユダヤ人祭司たちはそれほど多くの言  
葉を使っていません。また、なぜこの期間  
がこの40年に限定されているのでしょうか。

[1](*Yoma 39b, The Babylonian Talmud, from the translation in The William Davidson Talmud*)



**Above:** Sacrifice of Isaac, Private collection (1597-1599 painting by Caravaggio, Oil on canvas, 116 x 173 cm)

oooooooooooooooooooooooo

<sup>111a</sup> タルムードは、アボダ・ザラ8bで、西暦70年の破壊の前の40年間について、さらに詳しく述べている: 「神殿が破壊される40年

前に、サンヘドリンは石造りの部屋から追放され、神殿の山の近くの店に座っていた」[1]。これは、西暦30年のことも指しており、西暦70年の40年前に起こった出来事がここに関係しているかのようです。この出来事が何であったかを考える前に、エゼキエル書4章6節の予言に注目してみましょう:

2度目には、体の右側を下にして横たわり、40日の間ユダ国民の罪を負う。私はあなたに、1年に対して1日、1年に対して1日を与えたのである。

(エゼキエル 4:6)[2]

<sup>111b</sup> エゼキエルのこの預言は、ダニエル 9:24-27の預言よりも前の時代にも成就していましたが、ここでは簡潔にするためにコ

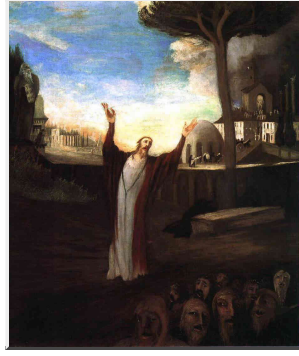


メントを控え（その成就に関連してです、エゼキエル自身はエゼ14:14に見られるようにダニエルを知っていますが）、西暦30-70年に焦点を当てることにします。エゼキエル4:6は、40日に象徴される40年の期間を指しており、そこに書かれているように、後のエルサレム包囲戦である西暦70年のちょうど40年前の期間について、エホバの声のエゼキエルに語りかけているのです[3]。しかし、なぜ西暦70年のちょうど40年前の期間なのでしょう。

[1](*Avodah Zarah 8b, The Babylonian Talmud, from the translation in The William Davidson Talmud*)

[2](*エゼキエル 4:6*)

[3](*The Persian Problem Resolved (2019), by Floyd Nolen Jones, Chapter 7, p. 131, footnote 2*)



**Above:** Praying Saviour, Janus Pannonius  
Museum, Pécs (1903 painting by Tivadar  
Csontvary Kosztka, Oil on canvas, 100 x 82 cm)

oooooooooooooooooooooooo

<sup>112a</sup> ユダヤ人は、第二神殿が破壊されるまでの出来事に、他の誰よりも興味がないわけではありません、その出来事は、西暦70年4月14日に始まった包囲戦から始まり、その年のニサン14日（エルサレムではPLSV3.1.0、アレクサンドリア/バビロンではRita Gautschy）と一致し、Josephusが提

示した日付（ニサン14日）と一致しています[1-3]。その40年前ということ、世俗史では、ティベリウス・シーザーの下で西暦26年から36年まで仕えたポンテオ・ピラトの統治時代である西暦30年のニサン14日に近い時期です。では、ポンテオ・ピラトがユダの総督を務めていた時代に、何か重要な出来事があったのでしょうか。もしそうであれば、西暦70年以前の40年間、アザゼルのためのくじで犠、神殿の祭司を当惑させ、牲を妨げていたことも説明できるのではないのでしょうか。ダニエル9:27の予言では、ユダヤ人の犠牲と供え物を終了する「週」が予告されていました。この週は、7年の69「週」、すなわち483年の後になり、490年、すなわち70週の後に関わります。今のところ、私たちが持っているのは、西暦

70年のニサン14日という日付だけです。真理を求める者として、天文学、歴史の知識、ユダヤ人の習慣、イエスに関する福音などを用いて、ダニエルの預言をブレスド・グリーンアロジの年表で理解できるかどうかを知りたいと思います。エホバについて書く以外に、私たちのBGの歴史の中で初めて、正確な歴史的事実を用いて、（私たちの主であり、救世主である）イエス・キリストの主題を正当に表現することが必要であり、また可能であると感じる立場に置かれることは、困難な仕事であると同時に、想像できる最大の特権でもあります。

<sup>112b</sup> ユダヤ教の神殿が壁1枚を残して取り壊

される前の西暦70年に、イエスはまさにこの出来事について預言しており（マタイ24:2、ルカ19:44、21:6）、それが実現したのです。しかし、この予言をした後の約40年前に、イエスはユダヤの律法の要件を満たす生け贄を捧げ、神殿の必要性を取り除きました。その3年後、ペテロがコルネリウスを迎えたときに、エホバはアブラハムにした約束を成就するのに適していると考え、すべての国の人々を平等に神の契約に受け入れましたが（創世記22:18、ガラテア1:18、使徒9:24-43、10:1-35）、パウロが書いているように、イスラエルは非常に重要な存在であり続けています。なぜならば、彼らはエホバが最初に選んで祝福を受け、「神の神聖な宣言を託され」[4]。このため、預言を良い知らせとして解明しようとする

するときに、ユダヤ人の賢者たちを無視するのは間違っています。イエスはどのような犠牲を払ったのでしょうか。そしてそれは、当時のユダヤ人神権が経験したこのような損失をどのように説明するのでしょうか。

[1](*Wars of the Jews, Book V, Chapter 3, paragraph 1 (c. 75 CE), by Flavius Josephus, transl. by William Whiston (1737)*)

[2](*Planetary, Lunar, and Stellar Visibility v. 3.1.0, Nov 20 2006, by Rainer Lange and Noah M. Swerdlow, using code developed by Steve Moshier*)

[3](*R. Gautschy, "Monddaten aus dem Archiv von Illahun: Chronologie des Mittleren Reiches", Zeitschrift für Ägyptische Sprache und Altertumskunde 178, Vol. 1, 2011, 1-19. <http://www.gautschy.ch/~rita/archast/mond/mondeng.html>* )

[4]([ローマ 3:2](#))



**Above:** Christ Healing the Blind, Metropolitan Museum, New York (c. 1570 painting by El Greco (Domenikos Theotokopoulos))

## 第1章 結束： 天文年代測定と真の地球



# 第2章： 昨日のことを振り返る



**Above:** Adoration of the Magi, Musée du Louvre, Paris (c. 1510 painting by Ulrich Apt *The Elder*, Oil on panel, 125 x 71 cm)

One day after another  
day causes speech to  
bubble forth, And one  
night after another  
night shows forth  
knowledge.  
(*Psalms 19:2, New  
World Translation  
(1984)*)

日が昇るごとに言葉  
を発し， 夜が来るご  
とに知識を明かす。  
(*詩編 19:2, 新世界訳聖書  
(スタディー版) 2019,  
2020*)



21 西暦70年に第二神殿が破壊されたとき、祭司は、祭司として活動する権利を持つ家系の唯一の系図を失ったのです:

ユダヤ人の公式な系図は、3世紀初頭にアフリカヌスが主張したようにヘロデ大王によってではなく、西暦70年のエルサレム破壊の際にローマ人によって破壊されたことが明らかになっている (Against Apion, by F. Josephus, I, 30-38 [7]; The Jewish War, II, 426-428 [xvii, 6]; VI, 354 [vi, 3])。それ以来、ユダヤ人は、ダビデとレビという最も重要な2つの系統でさえ、その子孫を証明することができませんでした。

*(Insight On The Scriptures, Vol. 1, p. 909 (2018))[1]*

彼らの祭司の系譜が失われることは、確かにユダヤの伝統的な神殿礼拝の継続に反対

してする有効な保証であり、それによって律法が終わることになる。しかし、ユダヤ教が終わったとして、その代わりに何が行われたのか。

[1](*Insight On The Scriptures, Vol. 1, p. 909 (2018)*)

oooooooooooooooooooo

<sup>22</sup> エゼキエルの預言は、第一神殿が破壊された時にも成就しており、ヨシヤの13年目から始まった40年の終わりに成就していた[1]。ヨシヤの統治期間は31年で、その後、エホヤキムの11年、ゼデキヤの10年が続いたので、 $31 + 11 + 10 - 12 = 40$ 年となる[2,3]。そして、エルサレムは紀元前587年の夏に破壊された[4,5]。ソロモン1年（紀元前1017

年) から北王国が紀元前977年 (レハブアム Y1年) にユダとベニヤミンから離脱するまで40年あったことも紹介しました[6,7]。しかし、これらの成就是他の年表でも当てはまる。ユダヤの第二神殿を終わらせた西暦70年の破壊に先立つ40年間は、正確に成就していれば西暦30年の出来事としか関連づけられない。それは、西暦26年から西暦36年までの間に、あるユダヤ教の祝典が、いくつかの宗派のために、**同じ週に3つの別々の日付**を現した唯一の年が西暦30年であるという、驚異的な偶然の一致です。その宗派とは、エッセネ派、サドカイ派、パリサイ派のことです。死海写本の研究によると、エッセネ派の曜日は、私たちが知っている基準とは一致せず、毎年、ニッサン月一日を水曜日としていたのです。つまり、

彼らにとってニッサン目の14日は常に火曜日であり、月曜日の夕方、あるいは火曜日たぶんの夕方に始まりました。しかし、この火曜日は、彼らにとっては毎年春分の日から13日後の日であり、それが1年の始まりだったのです。西暦30年には、エッセネの過ぎ越し祭はサドカイ派の過ぎ越し祭よりも1日か2日早かったようです。このことを抜きにしては、イエスに関する福音書で語られている出来事を説明する簡単な方法はありません。願わくば、この重要なポイントを後ほど再確認し、この後の議論を強化したいと思います。

[1](エレミヤ 1:2-3, 25:3)

[2](列王第二 22:1; 歴代第二 34:1)

[3](列王第二 23:36; 歴代第二 36:5)

[4](列王第二 25:2; エレミヤ 52:5)

[5](*B4 Chronology- History of Babylon (2015), Ch. 1*)

*paragraphs 1-4, 1-8a, 1-8b, by Ward Green et al.)*

[6](*The Uncut Tut (2016), Ch. 10 paragraph 2, by Ward Green et al.*)

[7](*The Crucible of Credible Creed (2012), Ch. 9 paragraph 2, by Ward Green et al.*)

oooooooooooooooooooooooo

2<sup>3</sup> このことを書くまでに今までかかった理由は多岐にわたりますが、以下の通りです。1) 多くの人にとって宗教的に重要な問題であること、2) 複雑な問題であること、3) 知識が不足していたこと、などです。暦を司る様々な要素をしっかりと理解していても、それはほとんど論理的ではありません。また、解決したと認めても、しばらくは論理の二番煎じが続くこともあります。この非常に重要なテーマに論争を持ち込む

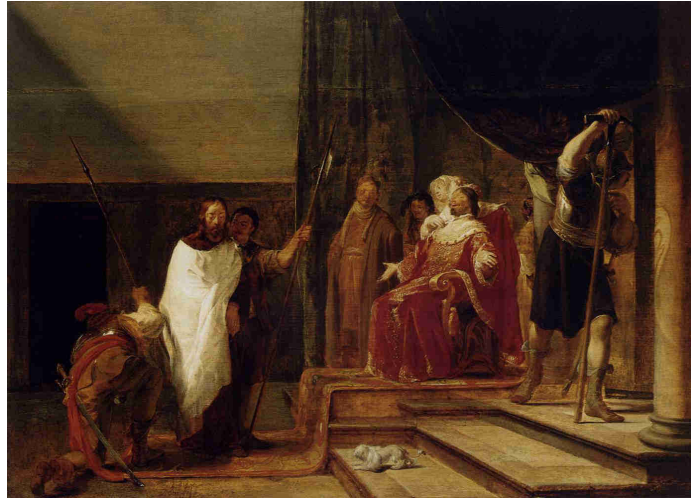
ことは私の望みではありませんので、始めることをためらいました。注意しなければ、信仰者や自分自身の信仰を損ない、イエスから注意をそらすことにもなりかねません。一方で、主への信仰の正当性を確認するものを書かないことは、明らかに悪いことです。この西暦30年という年号を自分の頭の中で磔刑の日として確定して初めて、例えばイエスの誕生やダニエル9章27節のような先行する出来事がどのように成り立つのか、成り立たないのかが見えてきます。注意しなければならないのは、聖書のどこにも、ダニエルの「週」の**真ん中**とその意味が示されていないことです。預言の常として、多重成就が最もよく理解される、あるいは最もよく成就される方法で

す。問題は、ダニエル9:27の週の真ん中は、西暦30年にどの程度影響するのか、ということです、あるとすれば。また、西暦30年は生まれた年にどのように影響するのでしょうか。これを考える前に、改心してから「諸国に使徒」となったパウロの著作や、ルカの『使徒言行録』、そして当時の市民の歴史などから、特定の年についての理解を深めることができます[1-3]。

[1](ローマ 11:13)

[2](ルカ 1:3)

[3](使徒 1:1)



**Above:** Christ before Herod Antipas, Museum of Fine Arts, Budapest (17th century painting by Nicolaus Knüpfer, Oil on panel, 18 x 24 in)

oooooooooooooooooooooooooooo

2<sup>4a</sup> ルカはテオフィルスへの説明を論理的な順序で書くように努めたと書いており（ルカ1:3）、その正確さを求める姿勢は同じ節から注目されます。ルカは医師であり、愛されていました（Col 4:14）から、教



育を受けていたことは明らかであり、彼が書いた使徒言行録は、そこに書かれているテオフィロとルカの福音書の記述からも、その帰属が正当であることがわかります。使徒言行録では、パウロ（すなわちサウロ）がダマスカスへの旅の途中で失明したことが書かれています[1]。ルカの使徒言行録に書かれているダマスカスへの道でのパウロのイエスとの出会いは、おそらくパウロが2コリント12章2節で「第三の天に」「連れ去られました」と表現している出来事と同じです。パウロがダマスカスの近くでキリスト教に改宗したことを示す出来事は、私たちの議論の中で年代的な目印として使うことで、その価値を下げないように祈っています。パウロはキリスト教に激しく反対し、キリスト教の預言者ステファノ

の死を前もって承認していました[2]。

2<sup>4b</sup> 2コリント11:30-33で、パウロはダマスカスでの逃亡について書いていますが、ガラテヤ人への手紙によると、道で明るい光を見てから3年後のことです[3]。ガラテヤ人への手紙1:18で、彼は3年が過ぎたことを述べていますが、その後、彼はセファ（ペテロとしても知られている）を訪ねるためにエルサレムに行きましたが、これはガラテヤ人への手紙1:16の文脈では、単に彼が改宗してから3年後という意味になります [4,5]。パウロはガラテヤ2:1で続けて、14年という間隔はバルナバと一緒に行った2回目のエルサレム訪問に適用されると述べており、最も単純に最初の改宗から14年と理解されています[6]。これによると、パウロはキリ

ストを受けてから14年間に2回エルサレムを訪問しており、最初の訪問は3年後、2回目はバルナバと一緒にいったこととなります。このような論理で理解されています。この3年と14年という間隔は、いずれもパウロがダマスカスへの道で改心したという出来事の時から測ったもので、私たちの考えでは、包括的であっても排他的であってもよいと考えているにすぎません。つまり、13年を除いた期間は14年を含んだ期間に相当します。パウロの改心が西暦30年であれば、彼がエルサレムを訪れたのはおそらく  $30 + 13 =$  西暦43年（排他的 = 西暦44年）です。しかし、もしパウロが西暦31年に改宗したとすれば、包括的 = 西暦44年となります[7]。このように、論理は可能な限り明確で単純です。

[1](使徒 9:3-9; 13:9)

[2](使徒 8:1)

[3](ガラテア 1:15-18)

[4](すなわち: ガラテア 1:16: 「...私はこのことについてすぐに人に相談したりはしませんでした...」 ガラテア 1:18: 「3年後...」)

[5](これが私たちが行った仮定であり、この仮定に基づいてこの仮定に基づいて、次のことを見ていきます)

[6](すなわち: ガラテア 2:1 「それから14年後、私はバルナバと一緒に再びエルサレムに上りました...」 「バルナバと一緒に」 バルナバと一緒にエルサレムを複数回訪れたことは必須ではありません。)

[7]( $31 + 13 =$  西暦44年;  $44 - 31 + 1 = 14$  年包括的)

oooooooooooooooooooo

<sup>25</sup> これは重要なことです。というのも、パウロの2回目の訪問は、使徒11:28-30でも言及されているからです。単純な論理でここ

に留まるのであれば、この状況を複雑にするだけです。まず、使徒言行録でパウロの最初のエルサレム訪問を探してみると、パウロは回心してから「何日も」ダマスカスを出て、ガラテヤ人への手紙1:18の3年間と一致し、ダマスカスを脱出した後にエルサレムに到着していますが、これは明らかに2コリント11:32-33（使徒9:22-26）で繰り返し述べられている通りです。パウロがエルサレムに最初に到着したのは、使徒9:26に記載されている通りで、2回目の訪問は、使徒11:28-30と使徒12:1-25に見られる通りで、2回目の訪問の時期に関しては、聖書の公民の記録とかなり奇跡的な一致が起きています。ここでは、パウロとバルナバが救援活動のためにエルサレムに派遣されてから（使徒11:30）、その後出発するまでの間

(使徒12:25) に、ルカが伝えたところによると、ヘロデ・アグリッパ1世が死んだことが記されています(使徒12:1-23)。このヘロデ王は、イエスの誕生直後に死んだヘロデ王ではなく、後世のヘロデ王で、その死因は市民の歴史上、西暦44年と記録されています[1-3]。さらに、ヨセフス、クスピウス・ファドゥスとティベリウス・ユリウス・アレキサンダーのプロクラトルの州知事について、「おそらく」西暦44年から西暦48年の間に飢饉があったと報告しており、これにはパウロがエルサレムを訪問した西暦44年も含まれています[4-6]。学者のF.F.ブルース氏(1962年)によれば、使徒の歴史のための1つの近似した年代表示である[7,8]。

[1](*The Cambridge History of Judaism, Volume 3, The Early Roman Period* (2008), Chronological Table, p. xxxvi, Edited by William Horbury, W. D. Davies, and John Sturdy. ヘロデ・アグリッパ1世の死亡年は西暦44年とされています。使徒行伝12:1で「ヘロデ」と呼ばれ、その後すぐに使徒行伝12:23で「虫」で死んでいます。"Bearing Thorough Witness" *About God's Kingdom* という本 (2009年)、by the Watch Tower Bible and Tract Society of Pennsylvania、の第10章、19項、と書かれていますある参考文献が次の。「ルークの医師としての専門的な正確さが、[ヘロデの]死の恐ろしさを引き出す。」 一次資料: *A Bible Handbook to the Acts of the Apostles* (1999), edited by Mal Couch, p. 297)

[2](*The Cambridge History of Judaism, Volume 3, The Early Roman Period* (2008), p. 142, Edited by William Horbury, W. D. Davies, and John Sturdy, states: "in CE 44 King Agrippa I died suddenly," see [1], above.)

[3](イエスの誕生時にはヘロデ大王が統治しており、次にヘロデ・アンティパス、そしてヘロデ・アグリッパ1世が統治していたというのが市民の歴史の通説のようです。)

[4]("Christianity Under Claudius," *Bulletin of the John Rylands Library* 44 (March 1962): 309-326. p. 309, by F.F. Bruce)

[5](*Antiquities*, XX, Ch. 5, sec. 2, by Josephus. これはユダの複数のプロクラトルの州知事を指します、ファドゥスの統治時代に飢饉が始まったことを示唆しています。See [6], below.)

[6](*Ibid.*, XX, Ch. 1, sec. 1, See [5], above.)

[7](*"Christianity Under Claudius," Bulletin of the John Rylands Library* 44 (March 1962): 309-326. p. 309, by F.F. Bruce)

[8](Paragraph 7-4, below)



**Above:** Conversion on the Way to Damascus, Santa Maria del Popolo, Rome (1600-1601 painting by Caravaggio, Oil on canvas, 230 x 175 cm)

oooooooooooooooooooooooo

26 ブレスト・グリーネアロジーで



の、真実の日付が、人がより多くの事実を追加することを可能にするように見えることを前に見てきました[1-3]。これは、事実の深刻なバックログが私たちを圧倒することができます。私はこれまでに関連したアイデアに急いで到達したわけではありませんが、控えめにしてゆっくりと進めるのが賢明です[4]。聖書の使徒パウロの記述を見ると、イエス・キリストが磔刑にされてから、パウロが2回目のエルサレム訪問をするまでに13年以上経過していることがわかります。また、使徒言行録12章のルカの証言によると、パウロがバルナバと一緒にエルサレムを訪問したのと同じ時期に、ヘロデ・アグリッパ1世が亡くなっています。私たちは、聖書の「使徒行伝」以上に市民の歴史を信用しているわけではありません

が、そのような利用可能な歴史的証拠によれば、ヘロデ・アグリッパ1世の死は西暦44年とされています。また、使徒11:28からアガブスが予言した飢饉が、バルナバとパウロが救援活動を行っていたクラウディウス皇帝の時代に起こりました。クラウディウス・カエサルは、西暦41年1月24日から西暦54年まで統治していました。キリスト教の歴史家オロシウスは、クラウディウスの第4年に「最も深刻な飢饉がシリア全土で起こった」と書いていますが、この年はちょうど西暦44年に相当します[5]。このことから、磔刑は西暦30年に行われたように見えます。しかしオロシウスはさらに、パレスチナ総督ポンティウス・ピラトが皇帝ティベリウスに、ティベリウスがローマ元老院に「キリストの受難と復活について」報告

したと述べており、両者がキリストの神性を信じていたことは、ティベリウスが元老院に「キリストを神とする」ことを提案するのに十分な動機となっている（OrosiusはTertullianから強い支持を受けており、彼はピラトが良心的なキリスト教徒であったと述べている） [6,7]。

[1](Joseph (2009), by Rolf Ward Green, "We can know, when all of known history fits with the Bible, and when more information and dates can be added, and still cause no conflict in the facts.")

[2](The Ark Of Urartu (2010), Chapter 11 paragraph 8, by Rolf Ward Green and A. R. Rutledge)

[3](The Crucible of Credible Creed (2012), Chapter 10 paragraph 1, by Ward Green et al.)

[4](格言 11:2)

[5](The Seven Books of History Against The Pagans, Book 7, by Paulus Orosius, transl. by Roy J. Deferrari (1964), p. 296)

[6](Ibid., p. 290)

[7](Tertullian's Apology For The Christians, Chapters V and XXI)



**Above:** Pontius Pilate Inscription, Pontius Pilate Stone, Israel Museum (*Second Temple period*)

oooooooooooooooooooooooo

27a オロシウスが磔刑の日付に関して示した証人はさらに2つあり、そのうちの1つはタキトゥスの著作によって日付が付けられたセヤヌスの死である。セヤヌスは反乱を起こそうとしてティベリウスに殺されたが、これはセヤヌスがキリスト教の受け入れに「最も頑固に」反対した後の出来事であり、ローマ皇帝ティベリウスが元老院にキリストを公式に神格化することを提案した

が、オロシウスによれば、元老院は最初に相談する相手ではないので、これを拒否したということである。これらの出来事は、従ってイエスの復活の後である[1]。タキトゥスでは、アグリッピナの死は、セヤヌスの死から（10月18日）2年後の正確な日に当たるとされている。アグリッピナの死は、タキトゥスによると西暦33年とされている[2,3]。そのため、セイヤヌスは31年10月18日に亡くなりました。[4]。これらをすべて受け入れると、磔刑の日が西暦31年の10月18日より前でなければならない。つまり、磔刑と復活が西暦30年に起こったことを裏付けることになり、44年がパウロの改宗後14年目であり、ヘロデ・アグリッパ1世が死んだ年であることと一致する。オロシウスはさらに、主イエス・キリストが磔刑

にされた年をティベリウス17年としており、西暦14年の1年目からすると、およそ西暦30年となります[5]。

**14 + 17 - 1 = 西暦30年 (イエスの磔刑)**

<sup>27b</sup> イエス様の宣教の年数から、バプテスマのヨハネによる洗礼の年がわかります。

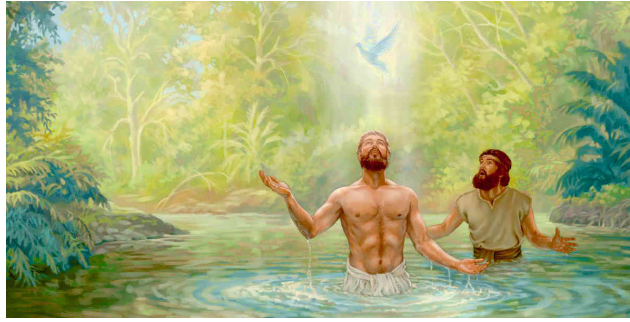
[1](*The Seven Books of History Against The Pagans, Book 7, by Paulus Orosius, transl. by Roy J. Deferrari (1964), pp. 290-291*)

[2](*The Annals, Book VI, 15-25, by Tacitus*)

[3](*List of Roman Consuls, 33 CE*)

[4](*The Annals, Book VI, 25 bottom, by Tacitus*)

[5](*The Seven Books of History Against The Pagans, Book 7, by Paulus Orosius, transl. by Roy J. Deferrari (1964), p. 291*)



**Above:** Baptism of Jesus (*Jehovah's Witnesses, and adjusted by WG Feb 20 2021*)

oooooooooooooooooooooooo

28a これまでのところ、私たちは総意に基づく議論には頼っていません。多数派の意見を持っていても間違っていることがありますし、少数派の意見を持っていても正しさを保証するものではありません。クリスチャンとして、私たちは人生の細い道を見つけようとしています[1]。私たちは西暦70年から逆算して、第二神殿での最後の40年間の出来事から始めています。この時代の

出来事は、30年にイエス・キリストが磔刑にされたことで影響を受けたと考えるのが、キリスト教的には妥当な説明だと思われます。ここで、ダニエル書の預言とイエスの宣教に関連する期間を考えてみると、その期間はダニエル書の預言に見られる約3年半、つまり7年の1週の半分の期間になりそうです:

**彼は多くの人のために1週の間契約の効力を保たせ、週の半ばに犠牲と供え物を終わらせます。**

**(ダニエル 9:27, 新世界訳聖書 (スタディー版) 2019, 2020)[2]**

28b 「決められた70週がある」と24節で預言



が始まるように、「背きを終わらせ、罪を終わらせ、咎を和解させ、...封印し、最も聖なるものに油を注ぐためである」[3]。これは、ダニエル書7章25節や黙示録12章14節の「一時と二時と半時の間」という表現が、3年半（1度+2度が3）と判断されたことや、黙示録12章6節の1260日（ $3.5 \times 360$ 日）を彷彿とさせたり、似ていたりします。

[1](マタイ 7:13-14)

[2](ダニエル 9:27, *新世界訳聖書* (スタディー版) 2019, 2020)

[3](ダニエル 9:24, *New World Translation of the Holy Scriptures* (1984, Reference Version) and the *American Standard Version* (1901))

oooooooooooooooooooooooo

29 1260日という言葉は、まさにその日までの正確な期間を暗示。このことは、ダニエル9:24-27の予言について、非常に多くの計算が行われ、文字通り1日以内の正確さを追求してきた理由を説明することができます。しかし、ダニエル9章では、7年の期間を表す「週」が与えられており、「日」の記述はありません[1]。したがって、70週の期間には、半週程度の精度が求められていると考えられます。私がこのことに気付いたのは、工夫次第で多少なりとも機能する厳密な計算を何度も試して観察した後でした。預言からより多くの成就を引き出すために人間の創意工夫を用いることは、確かに預言の目的ではありません[2]。しかし、一つの言明を解釈する方法は明らかに異なっており、複数の成就が望ましいとされ

ています。世俗的な歴史は、預言の成就に関して信頼できる情報源ではありませんが、時には、アクセス可能な唯一の情報源であることもあります。ダニエル9:24-27の場合、70週の開始日については信者の間でも意見が分かれており、エズラ7:7やアルタクセルクセスの年7を指しているという人もいれば、アルタクセルクセスの年20のネヘミヤ2:1-8を指しているという人もいます。また、アルタクセルクセスの年1の年代をどうするかについても意見が分かれており、これも違いがあります。フロイド・ノレン・ジョーンズはそのようなことを扱っています[3,4]。

[1](9:24 「あなたの民とあなたの聖なる都の上に定められた七十週があります。それは、違反を終わらせ、罪を終わらせ、過ちを償い、いつまでも義をもたらすためであり、幻と預言者に印を押し、聖なる間に油を塗るためです。25 あなた

方は、エルサレムを回復し再建するという言葉が発せられてから、メシヤ（指導者）に至るまで、7週間と62週間があることを知り、その洞察力を持つべきである。エルサレムは帰還し、広場と堀を備えて実際に再建されますが、時代の窮状の中にあります。26 そして、六十二週の後、メシアは切り捨てられ、自分には何も無い。また、都と聖なる場所は、来たるべき指導者の民がその破滅をもたらさず。その終わりは大洪水によってもたらされる。そして、（その）終わりまで戦争があり、決められたことは荒廃である。27 そして、彼は一週間の間、多くの人々のために [契約] を有効にしておかねばならず、一週間の半分になると、彼は犠牲と贈物の捧げ物をやめさせる。そして、嫌なものの翼の上には荒廃を引き起こす者がいて、絶滅するまで、決定されたものそのものが、荒廃したものの上にも注がれて行く。」

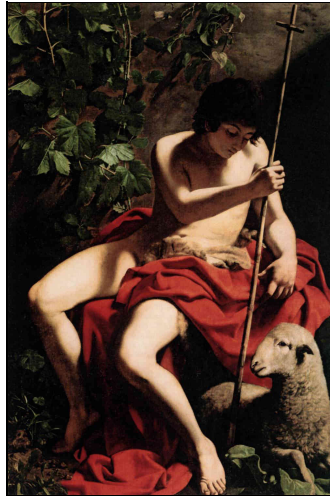
*"There are seventy weeks that have been determined upon your people and upon your holy city, in order to terminate the transgression, and to finish off sin, and to make atonement for error, and to bring in righteousness for times indefinite, and to imprint a seal upon vision and prophet, and to anoint the Holy of Holies. 25 And you should know and have the insight [that] from the going forth of [the] word to restore and to rebuild Jerusalem until Mes-si'ah [the] Leader, there will be seven weeks, also sixty-two weeks. She will return and be actually rebuilt, with a public square and moat, but in the straits of the times. 26 "And after the sixty-two weeks Messiah will be cut*

*off, with nothing for himself. "And the city and the holy place the people of a leader that is coming will bring to their ruin. And the end of it will be by the flood. And until [the] end there will be war; what is decided upon is desolations. 27 "And he must keep [the] covenant in force for the many for one week; and at the half of the week he will cause sacrifice and gift offering to cease. "And upon the wing of disgusting things there will be the one causing desolation; and until an extermination, the very thing decided upon will go pouring out also upon the one lying desolate." New World Translation (1984, Reference Version))*

[2](ペテロ第二 1:21)

[3](*The Persian Problem: The Difficulties Encountered in the Holy Scriptures with the Kings of that Empire Historically and Biblically Resolved (2019) Second Edition, The Persian Problem Resolved, Chapter 7, by Floyd Nolen Jones, pp. 111-134*)

[4](*こちらをご覧ください "Historical Notes" この記事の最後に*



**Above:** St. John the Baptist, Museo-Tesoro Catedralico (1597-1598 painting by Caravaggio, Oil on canvas, 169 x 112 cm)

oooooooooooooooooooooooo

2<sup>10a</sup> ジョーンズ氏は "The Persian Problem Resolved "のp.129でイエスの磔刑の年を、p.131でオロシウスによるとその日を示す証拠を提供している[1,2]。オロシウスでは月の年齢はその日に14日とされているが（注[2]）、これは必ずしもニッサン十四日とは

一致しないことをここで指摘しておきたい--  
第1視認性が新月してからどれだけ早く見えるかによって決まるからだ。この暦については、後でもっと詳しく説明したいと思います。今のところ、ニッサン13日にも月齢14日になることがあります。つまり、新月の2日後まで月が見えず、ニッサン01は、第1視認性の前夜に始まる。このように、私たちはジョーンズ氏とは異なっています。彼はイエスを69週の終わり、つまり483年後に死なせています。アルタクセルクセスの20年目は紀元前454年で、ゼロ年は存在しないので、磔刑の年は西暦30年になります。

**2<sup>10b</sup> しかし、ダニエル9:27 週の半ばに犠牲と供え物を終わらせませす、メシアが週の半ばに死ぬことを除いて、成就することはで**

きません。週の半ばに、実際にすべての犠牲と贈与の捧げ物がキリストに取って代わられるので、好ましい時期です。このことから、70週は前の69週から離れている必要はなく、むしろ、キリストは70週目の真ん中で死ぬかもしれないという理解になります。そうすると、1週目の真ん中は69週前、つまり西暦30年の483年前になり、ちょうど紀元前454年になります。そして西暦33年、ペテロが最初の異邦人を受け入れたとき、ユダヤ人にとって70週は終わり、エホバに選ばれた民としての関係において排他性を失うことになる[3,4]。

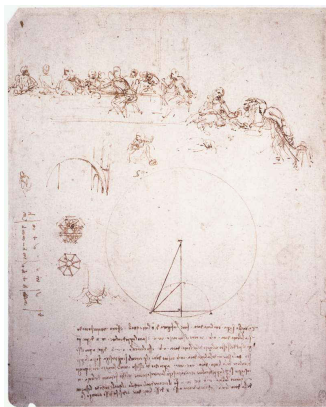
[1](*The Persian Problem: The Difficulties Encountered in the Holy Scriptures with the Kings of that Empire Historically and Biblically Resolved* (2019) Second Edition, *The Persian Problem Resolved*, Chapter 7, by Floyd Nolen Jones, p. 129, footnotes 5-8)



[2](*Ibid.*, p. 131, footnote 3)

[3](使徒 10:34,35)

[4](*Paragraph 7-9, below*)



**Above:** Study for the Last Supper, Royal Library, Windsor (1494-1495 drawing by Leonardo Da Vinci, Pen and ink on paper, 266 x 214 mm)

oooooooooooooooooooooooooooo

2<sup>11a</sup> この解釈が優れている理由は、第一週の初めにも見られますが、この時期は紀元前

458/457年であり、異説ではアルタクセルクセスの7年目に近く、1年目は464年となります:

**490 - 458 + 1 = 西暦33年 (ペテロが異邦人を歓迎)**

<sup>211b</sup> このような新しい見解を共有することができて、改めて光栄に思います。様々なクリスチアンの見解は、この理解によって調整される部分があるので、複数の成就が得られます。磔刑の西暦30年は、ダニエル9:24-27のダニエルの言葉の成就をこのように提供している現時点での唯一の年ですが、それ以上のものを提供しているのでしょうか。もちろん、ヨハネによるイエスのバプテスマは、その3年半前として西暦30年からで、西暦26年の秋、つまり、紀元前

458年から483年後でもある:

**483 - 458 + 1 = 西暦26年 (イエスはヨハネから洗礼を受けた)**

2<sup>11c</sup> バプテスマを受けたイエスは、西暦26年に宣教を開始する。ユダヤ人はこの時点から、異邦人が入る前に、新約に入るための7年間が与えられる。エホバのイスラエルとの契約は、西暦33年まで有効であり、その間、イスラエルはエホバの唯一の民であり続ける。リーダーであるメシアまでの期間は、7週間と62週間が与えられていますが、これは追加で考えることができます。

oooooooooooooooooooo

2<sup>12a</sup> 「62週の後、メシアは切り離される」というのがダニエルの預言の一部であり、これに7週を加えて先行させないと問題になります。しかし、69週は全体としては満たされているように見えます。しかし、62週を紀元前454年から数えると、もっと興味深いことがわかります。この年は、上述のジョーンズ氏にとってアルタクセルクセスの20年にあたります。紀元前454年から62週（434年）を引くと、紀元前20年、ヘロデ王の18年となりますが、この年、ヘロデ王は神殿の再建を始めているので、この年は補強の年となります[1]。ちょうど49年（7週）後の西暦30年には、メシアが切り捨てられる、つまり死んでしまう磔刑の年になります。しかし、さらに充実しているの

は、ヨハネの福音書2章20節で、ユダヤ人たちが、イエスが宣教を開始した直後、つまり西暦27年の過ぎ越し祭の時に、神殿は「建設に46年かかった」を意味しています、紀元前20年、西暦27年の46年前にヘロデによって設立されたことになります:

$$46 - 27 + 1 = \text{紀元前20年 (ヘロデ王18年)}$$

<sup>212b</sup> ダニエル書の預言は、これらの例が示すように、磔刑の日を西暦30年とする多重成就をしています。それぞれの要点は、一週間の真ん中で起こります。第1週の半ばから第70週の半ばまでは、期間です69週の年、つまり西暦30年。これは、70年（またはマサダの73年）で終わり、イエスの誕生

で始まったもう一つの週の真ん中ではない  
でしょうか？ 願わくば、この話は後ほどさ  
せていただきたいと思います。

[1](*Antiquities, XV, Ch. 11, sec. 1, by Josephus*)

## 第2章 結束：昨日のことを振り返る



## 第3章：ティベリウス、ヘロ デ、天文学、証言



**Above:** The Sermon of St John the Baptist, Szépművészeti Múzeum, Budapest (1566 painting by Pieter Bruegel The Elder, Oil on wood, 95 x 160.5 cm, detail)

**There is no speech,  
and there are no words;  
No voice on their part is  
being heard.  
(Psalms 19:3, New World  
Translation (1984))**

何も言わず，何も語  
らず，声は聞こえない。  
い。

**(詩編 19:3, 新世界訳聖書  
(スタディー版) 2019,  
2020)**

**3<sup>1a</sup>** イエスの洗礼は西暦26年で、イエスの復活は西暦30年となり、42ヶ月の宣教期間となります。西暦70年から逆算すると、西暦26年に洗礼を受ける論理的な根拠が見つかりました:

ティベリウス・カエサルの治世の第15年、ポンテオ・ピラトがユダヤの総督、ヘロデがガリラヤの地域支配者、その兄弟フィリポがイツリアとテラコニテ地方の地域支配者、ルサニアがアビレネの地域支配者だった時、アンナスとカヤファが祭司長だった時代に、荒野でゼカリヤの子ヨハネは神から言葉を受けた。  
**(ルカ 3:1-2, 新世界訳聖書 (スタディー版) 2019, 2020)[1]**

3<sup>1b</sup> 上記のルカ3:1-2の聖句は、ティベリウスの年号に基づいて、磔刑を西暦30年ではなく西暦33年とする人がいる最も強い理由の一つであると思われます。西暦14年後の15年目は西暦28-29年であり、西暦14年はティベリウスに先立ってローマ帝国の皇帝となったカエサル・アウグストゥスの死に対



応しています。

[1](ルカ 3:1-2, 新世界訳聖書 (スタディー版) 2019, 2020))

oooooooooooooooooooooooo

3<sup>2a</sup> ジェフリー・R・チャドウィック氏による非常に詳細な研究論文（115の参考文献を掲載）によると、次のようになっている:

**大多数の学者は、西暦30年はイエスが過ぎ越し祭の季節に磔刑にかけられた年であると主張している。確かに、排他的なコンセンサスではなく、他の日付を示唆する少数派もいる。しかし、イエスが処刑された年として西暦33ではなく西暦30を好む新約聖書学者の比率は**2対1以上**である。[強調して、エディター]。**

*("Dating the Death of Jesus Christ," BYU Studies Quarterly, Volume 54:4 (2016), by Jeffrey R. Chadwick)[1]*

3<sup>2b</sup> では、ティベリウス1年目のシビックな日付が与えられています西暦14年で、ルカ3:1が洗礼の日付を西暦28～29年と示唆しているのに、真面目な学者たちが西暦30年を支持する原因は何だろうか？ チャドウィック氏の同じ記事では、は可能です西暦27～28年という早い時期になってしまうことを示していますが、より前の日付ではありません、洗礼の時期を西暦26年とする論理はあるのでしょうか？

[1](*"Dating the Death of Jesus Christ," BYU Studies Quarterly, Volume 54:4 (2016), by Jeffrey R. Chadwick*)



**Above:** Detail from Christ Carrying the Cross, Kunsthistorisches Museum, Vienna (1564 painting by Pieter Bruegel The Elder, Oil on oak panel)

oooooooooooooooooooooooooooo

33a 西暦14年はティベリウスの**単独**統治が始まった年としてよく知られているかもしれませんが、ルカの文章の中でティベリウスの第1年であることを意味するものではありません。特に、ルカは正確であると評価されており、彼自身もそのように主張していることを考えると、本稿の第1～8段落で

の前回の議論を思い出すかもしれませんが、まさにこの点について次のように述べています:[1,2]

...即位の年や共同統治による違いはあっても、外国の王の王権を想定した最も古い報告が1年目となっているのです。

*(Paragraph 1-8, above, emphasis added)*[2]

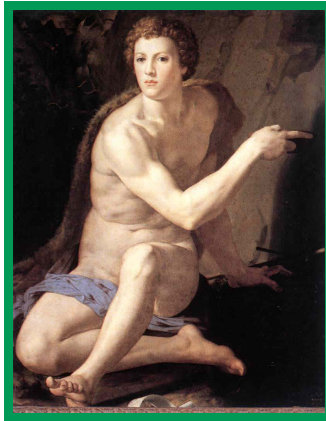
3<sup>3b</sup> ユダヤ人の聖書作家が見た外国の王の1年目を決定する方法は、王の統治日の不確実性を最大で1年に減らし、複数の異なる暦を避けることができると考えられる。この考え方からすると、ティベリウスはア

ウグストゥスが亡くなる前の西暦12年頃に  
共同統治を始めていたことになる（スエト  
ニウスによる）。[3]

[1](ルカ 1:3)

[2](Paragraph 1-8, above)

[3](*The Life of Tiberius, 20-21, by C. Suetonius Tranquillus* )



**Above:** St. John the Baptist, Galleria Borghese,  
Rome (1550-1555 painting by Agnolo Bronzino, Oil on  
wood, 120 x 92 cm)

oooooooooooooooooooooooo

3<sup>4a</sup> 多くの市民の日付と同様に、ティベリウスがアウグストゥスとともに王権を獲得した日付については、確かなことは何もわかっていないかもしれませんが、ルカは私たちよりも詳しく知っていたかもしれませんが。使徒は当時、日付がどのように記録され、現代の私たちに伝えられているかを知らなかったでしょう。そこで、ルカが記録しているティベリウス15年を過度に重視することなく、研究を進めていくと、有名な碑文である**Fasti Praenestini**には、ティベリウスの凱旋戦車乗車が西暦12年10月23日に記載されており、これはパテルクルスによる王権就任の儀式の直前または直後と解釈できることがわかりました[1,2]。

海と陸への遠征で敵の力を打ち破り、ガリアでの困難な仕事を終え、Viennensesの間に生じた不和を罰ではなく抑制によって解決した後、父の要請により、元老院とローマの人々は、彼がすべての州と軍隊において父と同等の権力を持つように決定した。確かに、彼が守っている地方が彼の管轄下にはないのは不自然であり、援助の先頭に立っている彼が、獲得すべき名誉において同等であると考えられないのは不自然であった。都に戻った彼は、相次ぐ戦争のために延期されていたパノニア人とダルマチア人に対する勝利を祝いました。

***(The Roman History, Book II, 121.1-2, by C. Velleius Paterculus)[2]***

3<sup>4b</sup> 仮にティベリウスが王室への任命を受けたのが西暦13年初頭だったとしても、ユダ

ヤの世俗的な1年は秋から秋で、いずれにしても10月頃に始まることがわかっているので、ティベリウスの1年目は西暦12年に始まっていたかもしれません。

[1](*The Life of Tiberius, 20-21, by C. Suetonius Tranquillus*)  
[2](*The Roman History, Book II, 121.1-2, by C. Velleius Paterculus*)

oooooooooooooooooooo

3<sup>5a</sup> アウグストゥスは西暦14年8月19日に亡くなりましたが、この出来事によって、ティベリウスの摂政年の記念日がこの年の日付に移され、彼の1年目が西暦12年8月19日に正確に始まるように再設定されました。しかし、公民の年代測定がルカに勝るものはないことをはっきりさせておかなければ



ればなりません。ルカは最も古いユダヤ暦を使い、西暦12年のティシュリ元年を9月5日に開始し、ティベリウスの王位を10月23日付近と仮定して、**実際**の共同統治の開始を使用しています[1,2]。したがって、西暦26年は「ティベリウス・カエサルの治世の第15年」として論理的には成立する。

**12 + 15 - 1 = 西暦26年 (ティベリウス・カエサルの15年目)**

<sup>35b</sup> 後の日付から逆算して前の日付を確定するという、根拠のある原則が維持される。ヨハネがバプテスマを行うために来た年として西暦26年という日付は、イエスがバプテスマを受けた年と同じであると想定されている[3]。ルカ3:23は、イエスが「およそ

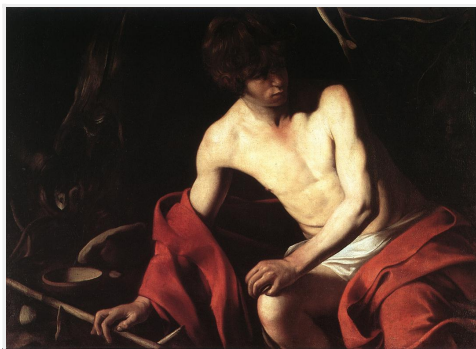
30歳で」とコメントしています。さて、ここからはイエスの誕生年について考えてみましょう。

[1](ネヘミヤ書1:1と2:1は、ペルシャ王アルタクセルクセスの年の日付を決めるために、ユダヤ暦を使用しているように見える。この例では、ニサンの月がアルタクセルクセスの20年目のチズルブの月の後に続いており、チズルブはユダヤ暦の第3月で、ニサンは第7月である。それ以外の場合は、ニサンが第1の月となる。)

[2](もちろん、ローマ暦の年を使えば、15年目の起算方法はもっと単純になります。12年の1年目が1月から始まると、15年目は26年1月から始まることになるからです(26 - 12 = 14 + 月)。しかし、ルカはこれらの出来事に月を与えていないので、どちらの暦を使っているかは不明のままです)

[3](ルカ 3:1-21)

oooooooooooooooooooo



**Above:** St. John the Baptist, Galleria Nazionale d'Arte Antica, Rome (1603-1604 painting by Caravaggio, Oil on canvas, 94 x 131 cm)

36a ティベリウスの年号が西暦26年とルカ書に一致していることを確認した上で、ヨハネが行った洗礼は秋、あるいは気温が好ましい夏の終わりに行われたと仮定します。ダニエル書の「週の半ば」を文字通りとすると、イエスの宣教期間は3年6ヶ月となり、西暦30年春のニサンの半ば近くでの死から西暦26年のティシュリの半ば（または9

月) の洗礼までを計算すると、イエスの宣教期間は3年6ヶ月となります。明らかに、イエスのバプテスマの日付、誕生日、バプテスマ時の年齢はすべてつながっています。イエスのバプテスマ時の年齢については、イエスが約30歳であったことしかわかりません。西暦26年の秋から、30歳の年齢はゼロ年のない紀元前5年頃までさかのぼります:

**ゼロイヤーはない--ゼロは単なる境界線**  
西暦0~0.75は1年の最初の9ヶ月間西暦1年

**西暦26年の秋 = 西暦25.75**

紀元前1~0.25は、1年の最初の9か月間  
紀元前1年

**25.75 - 30 = 紀元前4.25 = 紀元前5年の秋**  
イエスの誕生は上記の1年前以内です:

## 紀元前6年末～紀元前5年秋（イエス・キリストの誕生）

3<sup>6b</sup> 紀元前5年秋に生まれたということは、30歳ということになる。イエスが紀元前6年後半から紀元前5年秋の間に生まれたとすると、その年の秋である西暦26年には30歳から31歳になっており、「およそ30歳」ということになります。上記の計算に端数年を使うことで、「0」の追加年を差し引くことを避けてました。ルカの福音書1章26節によると、マリアが聖霊によってイエスを身ごもったとき、ヨハネの母エリザベトはヨハネを妊娠して5ヶ月であったため、洗礼者ヨハネは西暦26年の春に洗礼を始め、そのときの年齢も30歳であったと考えられます。

oooooooooooooooooooooooo

3<sup>7a</sup> ヨハネは、当時エルサレムの第二神殿で祭司を務めていたレビ人、ゼカリヤの息子である[1]。民数記4:3のモーセの律法では、レビ人は30歳から正式な奉仕を始めることが条件の一つとされていた。イエスはレビ人ではありませんが、王であり祭司である「メルキゼデクのような」で預言者として奉仕しています[2-4]。このことから、バプテスマのヨハネもイエス・キリストも30歳で説教を始めるのが適切な年齢と言えます[5,6]。

3<sup>7b</sup> イエスのバプテスマが西暦26年の秋であることから、上記の第3-6a項ですでに示したように、紀元前6年の誕生はイエスにとっ

て確実な可能性であり、西暦26年には30歳から31歳の間で、紀元前6年の後半に誕生することができます。次に考えられるのは、イエスの誕生直後に、2歳以下の年齢を指定して男の子の殺害を命じたヘロデ王の死である[7]。

[1](ルカ 1:5-8)

[2](創世記 14:18)

[3](詩編 110:4)

[4](ヘブライ 5:6,10; 6:20, 7:1-17)

[5](ルカ 3:3)

[6](ルカ 3:23)

[7](マタイ 2:16-18)



**Above:** Journey of the Three Magi to  
Bethlehem, New York Historical Society, New  
York

(1638-1640 painting by Leonaert Bramer, Oil on panel, 79  
x 107 cm)

oooooooooooooooooooooooo

38a ヘロデ王の伝統的な死期は紀元前4年である[1]。ヘロデ大王と呼ばれる彼の死は、その年（紀元前4年）の4月であり、少年たちを虐殺するという自らの命令に先立つことは論理的に不可能であり、紀元前6年後半のイエスの誕生とその2年後のヘロデの死の間には優れた対応関係があると考えられる。イエスの誕生の頃に「星」を見てエルサレムに来た東方の賢者たちがいた[2]。マタイ1:7-12から、ヘロデがベツレヘムの**2歳**



以下の少年をすべて殺すという恐ろしい命令を下したのは、占星術師や賢者から得た情報に影響され、彼らがエルサレムに行くのにかかった時間にも影響されています。これらの状況から、イエスの誕生日が紀元前6年後半以降である可能性は低く、ヘロデが紀元前4年4月よりも早く死ぬことはないと思われまます。

<sup>38b</sup> もしこれらの出来事が本当の日付であるならば、少しも変動の余地はないが、高い出所を提供するような形で行われている [3]。広く信じられているように、ヘロデの死が紀元前4年であることは、イエスの誕生日を紀元前5年よりも早くすることを可能にします。従って、イエスの3年半の宣教期間を含めても、磔刑は34年以上後になること

はなく、明らかに西暦30年以降の磔刑を支持するものではありません[4]! このように、西暦30年の磔刑の年は、ヘロデが紀元前4年の4月に死んだことによって補強され、正確な出所となります。次に、イエスの誕生日である紀元前6年後半を調べてみましょう。

[1](*Antiquities, XIV, Ch. 16, sec. 4, by Josephus* [紀元前37年のエルサレム征服がここに記述されており、その時ヘロデがアントニーを買収して手配したアンティゴヌスの死が記述されている。]; *Antiquities, XVII, Ch. 6, sec. 4, last sentence, by Josephus* [ヨセフスはここで月食に言及しており、訳者のウィリアム・ウィストン氏によれば、これはヨセフスが「彼のあらゆる著作の中で」言及している唯一の「いずれかの光」の月食であるという。Whiston氏はこれを紀元前4年3月13日の月食と同定しており、そのように広く受け入れられている。]; *Antiquities, XVII, Ch. 8, sec. 1, by Josephus* [ヘロデが死んだのは紀元前4年で、前6章の3月13日の日食で確認され、紀元前37年にヘロデがアンティゴヌスの死を調達してから34年後とされているので、紀元前4年になる（年数は包括

的に数えている) 。 ])

[2](マタイ 2:1-6)

[3](cf. *Trojan War (2015), Chapter 4, paragraphs 7, 11, and Chapter 12, paragraph 4, by Ward Green et al.,* ここで、私たちは、出所を、年代の緊密さに関連するものと見なし、その結果、年代の相関をより緊密にする。)

[4](ルカ 3:23)

oooooooooooooooooooo

<sup>39a</sup> 私の記事では**Green**、1世紀のコインに紀元前6年のイエス誕生を示す新たな証拠があることを報告しました。マイケル・R・モルナール氏は、これらのコインの中に、ユダヤ教の牡羊座に「星」と記された日付を発見し、紀元前6年に木星が月と一緒にになり、月が牡羊座の「星」である木星を食らったことと関連付けました[1]。木星は、

月と金星に次いで3番目に明るい天体であり、月や金星よりもはるかにゆっくりとした速度で移動し、土星に次いで最も遠くに見える惑星でありながら、恒星に対してより速く移動することから、偉大な王を意味している:

ヨハネス・ケプラーは17世紀初頭に、この「星」は実際には紀元前7年に魚座で起こった木星と土星の3回にわたる合流であると推測した....

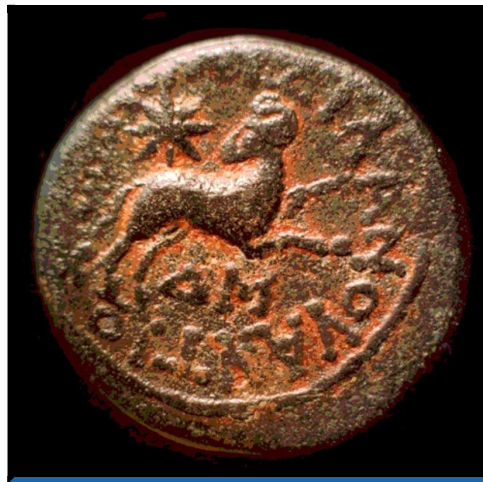
...この宇宙ドラマでは、土星はヤハウエを表し、セデックと呼ばれる木星は彼の「息子」であるメシアを表しています。

***(The "Star of the Messiah" Reconsidered, Biblica Vol. 53, No. 1 (1972), pp. 105-109, by Roy A. Rosenberg)[2]***

3<sup>9b</sup> ここで、紀元前7年と紀元前6年の惑星と月の構成、特に月、木星、土星の動きを考えてみましょう。

[1](*"The evidence for Aries the Ram as the astrological sign of Judea," Journal for the History of Astronomy (ISSN 0021-8286), Vol. 34, Part 3, No. 116, p. 325 - 327 (2003), by Michael R. Molnar*)

[2](*The "Star of the Messiah" Reconsidered, Biblica Vol. 53, No. 1 (1972), pp. 105-109, by Roy A. Rosenberg*)



**Above:** Star of Bethlehem commemorative coin (6 CE - 253 CE coin, Star and ram, see *"Star of Bethlehem Coins*

- *A Set of Serial Commemoratives" (2014), by T. B. Cartwright)*

oooooooooooooooooooooooo

3<sup>10a</sup> 科学の客観性からすれば、誰かの誕生に占星術的に最適な時期などないことは確かだろう。しかし、イエスの時代のマギたちは、占星術を信じていた。今回の記事の範囲を超えますが、3-9（上）で学者が指摘したように、牡羊座にある土星と木星という惑星は、エホバ、メシア、そしてユダヤ人国家イスラエルと関係があります。土星と木星のコンジャンクション、そしてこれらと月のコンジャンクションを探してみると、紀元前7年から紀元前6年の間に牡羊座

でこの3つの天体が何度もコンジャンクションを起こしていたことが非常によくわかります。非常に多いですね。Solex 12.00、Celestia 1.6.1、SkyChart III Demoのいずれもこれらの現象を示していますが、この3つの中ではSolex 12.00が唯一、非常に正確だと思います。紀元前6年3月20日、これら3つのプログラムが示すように、木星は牡羊座にある月によって掩蔽され、月の中心から月半径の半分以下の位置にある（ソレックスではエルサレムとペルシャ湾から）。もし見えるのであれば、日没後の西の地平線近くで、東から見ている人が観測できるでしょう！ [1]。

<sup>310b</sup> これはさらに珍しいことで、その日の朝は新月の直後であるため、月が黒く、月の

暗さで木星を掩蔽することになり、西の空で木星がちらちらと消えていくようなものである。これは、天のイエスが天からマリアの胎内に入った、イエスの受胎に関連するものである。4月17日には、牡羊座でより小さな掩蔽が起こりましたが、これは昼間であったため見えませんでした。しかし、その日の夜明けに、で牡羊座の東の地平線上で木星そして月のヒライアカル・ライジング、簡単に見ることができ、占星術師たちが見たものであったかもしれません

**3<sup>10c</sup> 9ヶ月後の紀元前6年12月19日、牡羊座にある月は再び木星の近くを通り、2.25度以内（月の直径5個分以下）で木星の上を通り、再び西の地平線近くまで行くが、今度は土星が地平線の下に入り始める午前3時頃**



**(魚座)** である。この時点で、紀元前7年に3回あった木星と土星のコンジャンクションも終了する。これは、一部の学者が（年に関して）、また伝統的に（月に関して）教えているように、紀元前6年12月にメシアが誕生したことを示していますが、これは（メシアとしての）木星が（エホバとしての）土星と合流することによって、先に予告された出来事です。違いは、**紀元前6年には、木星が牡羊座の月と合流し、占星術師たちにユダヤ人の王が生まれたことを知らせていることです。紀元前6年12月以降、土星と木星は通常通り、すべての惑星の軌道がほぼ同一平面上にあるため、月とコンジャンクションを起こしているが、紀元前5年2月10日（紀元前6年12月19日からわずか53日後）には、木星は牡羊座に見えなくな**

# り、牡牛座に入っている[2]。

[1](マタイ 2:2, *New World Translation (2013)*)

[2](*Celestia 1.6.1*)



**Above:** Head of the Twelve Year Old Christ, Graphische Sammlung Albertina, Vienna (c. 1506 drawing by Albrecht Dürer, Brush drawing on blue Venetian paper, 275 x 211 mm)

oooooooooooooooooooooooo

**3<sup>11a</sup>** 紀元前7年に木星と土星が合流し、紀元前6年3月20日に牡羊座の月が木星を掩蔽したことは、キリスト・イエスとユダヤ民族に関係するエホバの意図を示しているように見えます。この意図は、占星術師が観察できるように、木星が牡羊座を離れる紀元前5年2月10日以前に終結します。紀元前6年12月のイエスの誕生は、占星術師が注目する天文学的な情報とよく一致します。また、ルカの福音書3章23節にある、イエスが洗礼の年に「およそ30歳」であったという記述も、ちょうど西暦26年に合致します。紀元前6年12月に生まれたユダヤ人の王は、木星がユダヤの牡羊座から離れる直前に生まれたので、西暦25年の12月には30歳になっています（3-6a参照）。

3<sup>11b</sup> このように、「星」のコインが提案するイエスの誕生は、「星」が木星の場合には有効であると思われます。星がイエスのいる場所（マタイ2:9）の上で止まったのは、天文学的な観察ができないからである。ただし、星が年代的に占星術師たちに先行し、木星が牡羊座を離れた後、占星術師たちがイエスを訪ねた後に「止まった」という見方をする場合は別である。もちろん、他の解釈も歓迎だ。**紀元前6年12月19日に東からベツレヘムに近づいた人々は、半月の下に木星を見ただろう。**占星術師たちは、木星が牡羊座に留まっていた紀元前5年1月16日にイエスの誕生から約1ヶ月後に到着したのかもしれません。マタイ2:9にある星「が先を行き」という記述は、おそらくこのことを意味しているのですが、単に

月が彼らについてこなかったということかも  
もしれません。

oooooooooooooooooooo

3<sup>12a</sup> イエスの誕生日は羊飼いが夜に屋外で羊の群れを見る仕事をしていたことと関連しています[1]。羊飼いが夜に羊の群れを見るということは、暖かい時期に生まれたことを意味しますが、これは問題になりません。イエスは紀元前6年の暖かい時期に生まれた可能性があり、その場合、占星術師はその年の後半に到着することになり、イエスの年齢は洗礼の時に少し上になるだけだからです。「およそ30歳」はちょうど31歳

になる可能性があります。しかし、レビ人である洗礼者ヨハネは30歳で説教を始めたと考えられ、イエスより5ヶ月（または6ヶ月）年上のヨハネは、イエスの洗礼の前にヨハネが説教を始めてからどれだけの時間が経ったかによって、イエスの年齢にある程度の制限を設けています。また、イエスの誕生月は季節外れの暖かさだったので、群れが外に出ていたのかもしれませんが。

3<sup>12b</sup> 紀元前7～6年の間に明らかな天変地異があったことを見てきました。これは「ユダヤ人の王として生まれた方」を求めてエルサレムに旅立った占星術師についての聖書の報告を説明するのに十分なものです [2]。ユダヤ教の牡羊座に関連した印象的な天変地異を見て、遠い国から見知らぬ人が

旅をしてきたということは、後世の私たちにとっても明確な基準であり、紀元前6年には牡羊座に木星の位置を確認することができました。ここで重要なのは、前年の紀元前7年には木星も土星も牡羊座にいなかったが、木星が紀元前6年3月9日にギリギリで牡羊座に入る前に魚座にいて、土星が牡羊座に入るのは木星が牡羊座から出て行った後の紀元前5年3月2日であることだ。イエスの誕生年を紀元前6年と予想したのは天文学からではなく、ルカの福音書3章23節の洗礼時の年齢と、洗礼年をさかのぼって計算した西暦26年からでした。しかし、天文学的には、強力な証拠でそれを裏付けています

<sup>312c</sup> この問題に関しては、天文学的にはまだまだ多くの研究があり、エホバの意向によ

り、適切な時期に行う予定です。しかし、私たちの記事の長さでは、彼らが要求する完全なものを得ることはできず、上記で明らかにした詳細で十分足りるでしょう。私たちはイエスの誕生日を、の連続したタイムラインから決定しましたバプテスマ、宣教、磔刑、ダニエル9:24-27、ペテロが諸国民を歓迎したこと、パウロが改心してから14年後にエルサレムに到着したこと、ヘロデ・アグリッパ1世が亡くなった年と一致していること、エッセネの過ぎ越し祭の日、タルムードに記録されているその最後の40年間の第二神殿の問題など。今のところ、大きな試練もなく、すべてがうまく収まっています。もちろん、今後も改良の余地はあるでしょう。



3<sup>12d</sup> この機会に、ダニエル9:24-27がどのように成就したのかを、徐々に確定していく年表で確認してみたいかがでしょうか。

[1](ルカ 2:8)

[2](マタイ 2:2)

第3章 結束：ティベリウス、ヘロデ、天文学、証言



第4章：数値的に内部の端点として発見されたダニエル

41 リラックスして眠っていた私を目覚めさせたのは、ノックの音だった。これは誰だ

**Into all the earth  
their measuring line  
has gone out, And to  
the extremity of the  
productive land their  
utterances. In them  
he has set a tent for  
the sun.**

***(Psalms 19:4, New  
World Translation  
(1984))***

しかし、音が世界中に響き渡り、知らせが世界の果てにまで伝わった。

神は天に太陽のための天幕を張った。

***(詩編 19:4, 新世界訳***



**Above:** The Raising of Lazarus, Museo Regionale, Messina (1608-1609 painting by Caravaggio, Oil on canvas, 380 x 275 cm)

ろう？ 誰だろう？ なんて失礼な！ 目を開けてノックしている

**聖書 (スタディー版)  
2019, 2020)**

人を見ると、私はマノティックの北にある信号機の前で止まっていて、しかもその信号は青だったのです。これは、私自身の長時間労働に加え、妻の最期を看取るために毎日バーレイブンまで車を走らせていたことによるものです。私の「無礼な目覚め」は、むしろ命を救う出来事だった。私の怒りの感情は、「ありがとう」という感謝の気持ちに変わった。窓の外にいた男性は車に戻っていった。どうして私は自分の限界を超えてしまったのだろうか。この日は2016年の秋でしたが、エホバの存在を実感し、その力に謙虚な気持ちになりました。あの時、私の足はブレーキを踏んでいたが、もしも...。私は、もしものことを簡単に考えた。それは、エホバの報われない優し

さの一つのケースでした。私は妻の健康問題でストレスを感じていました。

oooooooooooooooooooooooo

<sup>42</sup> 視点が偏ってしまうことがあるので、謙虚さを忘れないようにしたい。特に、預言については、人間の理性や科学的な主張には権威がありません。預言がそうであれば、メシアの預言であればなおさら、事実を「押し付ける」ことに抵抗して、謙虚でいることが非常に望ましいと思われれます。ダニエル書9:24-27の預言の成就を求めている人たちが、その預言の7週、62週、69週、70週の部分に一致する日にちや年にちを探すのに苦勞した例は数え切れないほどあり

ますが、説得力のある一致ではありませんでした。しかし、この預言は厳密なものではないと考え、これらの期間のすべての終点に「週の半ば」が適用されると仮定したところ、得られた結果は実際に期待された通りのものとなりました。このことから、私たちは自分の解釈を謙虚に受け入れ、イエス・キリストというメシアを受け入れることになりました。それを裏付ける市民的な日付を調べて祈ろう。



**Above:** Entry of Christ into Jerusalem,

Pinacoteca Stuard, Parma (1435-1440  
*painting by Pietro Di Giovanni, Tempera on wood,  
29 x 65 cm)*

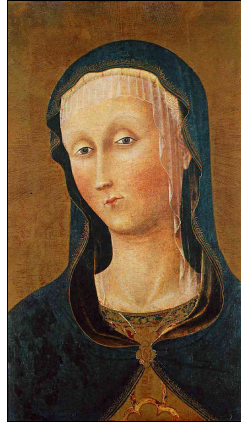
oooooooooooooooooooooooo

43 ヘロデ大王による神殿建設の開始は、ダニエルの預言がエルサレムを回復し、再建するための言葉の発出に言及していたことから、今、注目すべきである。ヨセフス (Antiq.Book XV, Ch.11) によると、彼の18年目にヘロデが神殿の再建を命じた日から、指導者メシア (ダニエル9:24) まで、市民の年代測定では7週間、正確には49年あったことになりました。ここでは、エルサレム破壊の年 (西暦70年)、アグリッパ1世

の死（西暦44年）とパウロの14年、セヤヌスの死（磔刑の後）（西暦31年）、ルカによるティベリウスの15年と、上記のアウトラインに沿って、磔刑の年代が決められています。しかし、これらはすべて、メシアの献金が西暦30年であることと一致しています。しかし、これらのことは非常に複雑であり、それがメシアの日付としてバプテスマを試みた理由でしょう[1,2]。磔刑をダニエルの週の期間の終わりとする人々は、メシアのタイミングによって成就される「週の半は」（ダニエル9:27）を受け入れることができません。

[1](*The Ark Of Urartu (2010), Chapter 10 paragraph 3, Table 10, by Rolf Ward Green and A. R. Rutledge*)

[2](*Preservation (2019), Chapter 11 paragraph 10, by Ward Green*)



**Above:** The Virgin Mary, Christian Museum, Esztergom (*Painting by Pietro Di Giovanni, tempera on wood, 47 x 30 cm*)

oooooooooooooooooooooooo

44 メシアの犠牲は「週の半は」と見られています。それはすべての犠牲を終わらせる犠牲だからで、ダニエル9:27の預言者の言葉と同じです。しかし、「7週」は69週の初めにも終わりにも当てはまると見られ、62週もそうですが、「7週」はヘロデが神殿を建てた後、イエスが宣教を始めた「46



年」と表現された時期に当てはまると理解できます[1,2]。そして、西暦70年から逆算したように、62週はヘロデ王の18年から逆算して、新しい神殿の事業を行い、ダニエル9章25節の注目すべき成就の一つとして、神殿に「公共の広場」が加えられたと考えることができます: 「エルサレムは帰還し、広場と堀を備えて実際に再建というものです」 [3]。紀元前20年から434年さかのぼって紀元前454年となり、紀元前458/457年に始まった「週の半は」となります。しかし、62週の後にはメシアが誕生していないのに、どうして62週の後にはメシアが「除かれま」（「切り捨て」）のでしょうか。ヘブライ語のテキストで使われている「除かれま」（「切り捨て」）という言葉には、「契約を結ぶ」という意味もあります

("krt"="kaw-r'ath")。イエスは弟子たちと契約を結んだ（ルカ22:29）ので、「除かれま」（「切り捨て」）というのは、イエスの生涯の働きにも当てはまります。

[1](ルカ 2:20)

[2](Paragraph 2-12a, above)

[3](Paragraph 2-9, footnote [1], above)



**Above:** Massacre of the Innocents,  
Rijksmuseum, Amsterdam  
(1590 painting by Cornelis Van Haarlem, Oil on canvas,  
245 x 358 cm)

oooooooooooooooooooooooo

<sup>45</sup> ヘロデ王がエルサレムを征服した日付は、Josephus の *Antiquities*, XIV, Ch. 16, sec. 4 に記載されており、いくつかの参照点から与えられています。まず、その年のローマの総督が、ジョセフスはマルクス・アグリッパとカニニウス・ガルスとしており、ローマの市民記録から紀元前37年とされていますが、これは非常に具体的な点です。しかし、それだけでは不十分で、フラウィウス・ジョセフス氏は、紀元前37年より27年前の同じ日にポンペイがユダヤ人を捕らえたことを領事暦に加えています。つまり、紀元前63年は紀元前37年より27年（包括的に）早いのです。第三に、ヨ

セフスはエルサレム奪還をハスモン王朝の開始から126年後としており、ハスモン王朝の開始は紀元前164～163年（ $126 + 37 = 163$ ）となり、一般に認められている年号と1年以内であることがわかります。あるいは、ヨセフスがセレウコス朝のおおよその開始時期を同じようにしたことを示唆している（セレウコス朝の開始時期は紀元前312年とされているが、ヨセフスやマカバイ記に記されている数少ない安息日に基づいて、50年の聖年周期で考えると、紀元前314年となる）が、確実性は低い[1]。紀元前37年にヘロデがエルサレムを占領してから、西暦70年に第二神殿が破壊されるまでの107年間の大祭司の期間は、4つ目の確証となります。ヘロデが神殿の再建を始めたのは彼の18年目であったというヨセフスの記述

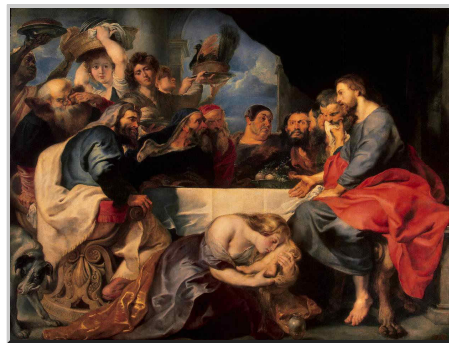
と、イエスの宣教の最初の過ぎ越し祭の時、神殿は46年かけて建設されていたというヨハネ2:20の記述から、第五の確証が得られます（紀元前20年から西暦27年まで）  
[2-4]。

[1](*Antiquities, XIV, Ch. 16, sec. 4, by Josephus*)

[2](*Antiquities, XX, Ch. 10, sec. 1, by Josephus*)

[3](See 2-12a)

[4](年号「0」がないことを念頭に置いて)



**Above:** Christ at Simon the Pharisee  
(1618-1620 painting by Peter Paul Rubens, Oil on canvas  
transferred from wood, 189 x 285 cm)

oooooooooooooooooooooooo

46 ヘロデ王の治世の第18年は紀元前20年とされていますが、これは彼の最初の年が紀元前37年とされているからです。これは、ヘロデがエルサレムを征服した日付として非常に広く受け入れられているものですが、ヘロデが正式に王に任命されたのは紀元前40～39年かもしれず、その場合、彼の18年目はそれよりも早いことになります。しかし、ユダヤ人はヘロデがエルサレムを征服する前に王として認めることはありませんでした。また、ユダヤ人であるヘロデ自身も、自分の歴代年号を紀元前37年以前に計算することはありませんでした。

た。これは、イエスの時代の西暦27年と完全に一致し、ヘロデの18年目は紀元前20年で、ダニエルの言葉を実現しています[1]。ヘロデとイエスの時代のユダヤ人が、アルタクセルクセスの第20年や第7年まで正確にさかのぼって、ダニエルの預言の62週が神殿再建を始めたヘロデの18年に対応していることを知ることができたかどうかは、私たちにとってはほとんどあり得ないことです。しかし、**紀元前20年**から西暦30年までの49年間（または7週、ダニエル9:25）を見ることができるのは、現代の私たちにとっては輝かしいことなのです！ [2]

[1](Paragraph 4-5, last sentence, above)

[2](年号「0」がないことを念頭に置いて)

oooooooooooooooooooooooo

4<sup>7a</sup> 紀元前454年は、ダニエルの預言における第1週の真ん中で、アルタクセルクセスの第7年（エズラ7:7-8）またはアルタクセルクセスの第20年（ネヘミヤ1:1、2:1）に相当する重要な年と考えられています、各陣営によって様々に考えられています、ダニエル9:25の預言にある「エルサレムを回復し、再建するための言葉が発せられた」ことを象徴していると各陣営が考えており、その後、「7週と62週」が続き、紀元前454年から69週、483年が経過することになります:

**483 - 454 + 1 = 西暦30年 (イエスの磔刑) [1]**



4<sup>7b</sup> ダニエル9:27の「週の半ば」で「犠牲と供え物」がなくなること認めるなら、エズラとネヘミヤの両方のケースで、紀元前457年をダニエルの第1週の始まりと考えなければなりません。言い換えれば、紀元前454年と西暦30年は483年の差があり、どちらも預言の週の真ん中に相当します。

[1](See also paragraphs 2-10a,b and 2-11b, above)



**Above:** Descent from the Cross (centre panel),

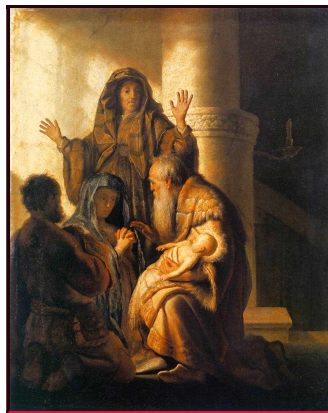
O.-L. Vrouwekathedraal, Antwerp (1612-1614  
painting by Peter Paul Rubens, Oil on panel, 421 x 311  
cm)

oooooooooooooooooooooooo

48 注目されているのは紀元前454年、つまり紀元前458/457年から始まる7年間のうちの「週の半ば」の年ですが、その正確さは私たちの信仰にとって全く重要ではありません。しかし、紀元前458年と紀元前457年の真実性については、数え切れないほどの論文が書かれています。ダニエル書の「が出され」という言葉の意味は、エズラがエルサレムの神殿で奉仕活動を再開したことに当てはめられることがあり、一般的には紀

元前457年とされています。しかし、エズラはエルサレムを再建しなかったので、「が出され」という言葉の別の解釈として、アルタクセルクセスの第20年にネヘミヤがエルサレムに遠征したこと、つまり紀元前454年または紀元前445年とする説がよく提案されています[1]。紀元前445年という低い年代に合わせるために、1年を360日だけに短縮し、365日の短縮年に変換することを提案する作家もいます。これは、イエスの磔刑の日付について一般的なコンセンサスがあり、ダニエル9章の予言の成就を明らかにするために多くの人々が苦勞しているからである。中間の道、つまり正義の道を選ぶことは賢明なことです[2]。私たちは、ダニエル9:24-27が成就したと見る正当な理由があります。

- [1](従来の年代測定法である紀元前464年の1年に基づいて、紀元前445年はアルタクセルクセスの20年目であり、紀元前458年をアルタクセルクセスの7年目とすることもその根拠となっている。)
- [2](格言 8:12-20)



**Above:** Simeon and Anna Recognize the Lord in Jesus, Kunsthalle, Hamburg (c. 1629 painting by Rembrandt Harmenszoon Van Rijn, Oil on wood, 56 x 44 cm)

oooooooooooooooooooooooo

49 私たちは、ダニエル9章の預言をまだ詳しく検討していませんが、イエスの宣教と磔刑によって、その預言がさまざまな形で成就したことをすでに見ています。「週の半ば」については、これまで考えてきたこと以外にも様々な方法で考えることができます。というのも、預言的な言葉で「週」とは、単に7つの時間の単位を意味しており、例えば、70年、7倍の年数、その他の間隔の7つなどがあります。ダニエルの預言では、「週の半ば」という預言文に該当する期間が、第70週なのか、それとも他の期間なのかは明記されていません。したがって、コモン・エラの70年という期間、イエスの生誕から西暦70年までの74年間、さらにイエスの生誕からローマ人とユダヤ人が初めて戦争を始めた西暦66年までの期間（西暦

66～73年) を考えることができます。これらはすべて約70年の期間であり、それゆえに「週」となります。その真ん中に近い西暦30年にイエスが殺され、西暦70年には犠牲と贈り物の提供が中止されました。なお、ユダヤ語の「週」は単に「7」という意味です。

oooooooooooooooooooooooo

<sup>410</sup> 紀元前6年から西暦30年までは35年しかなく（0年は存在しない）、西暦30年から第一次ローマ・ユダヤ戦争が始まった西暦66年までは36年なので、西暦30年はこの70年

の「週の半分」にも近いのです。ネロは、第5代ローマ皇帝で、西暦54～68年まで統治しました。これは、第2テサロニケ2:1-9で預言されていた、終末の前に到来する「不法の者」の成就にふさわしい人物です。また、ダニエル9:27の「荒廃をもたらす者」は、70年にティトゥスがエルサレムを破壊することで成就します。ダニエルの預言はメシア的なものであり、私たちはイエスを待っているのだから、その後の成就是私たちの時代に期待される。紀元前6年（イエスの誕生）から西暦33年（異邦人招請開始）までの37年間は、西暦33年から西暦70年までの37年間とほぼ同じであるため、ここでも「週の半ば」の働きが見られ、この場合の「週」は西暦74年または西暦75年となります。マサダは西暦73年から74年にかけて

包囲されたと考えられているので、キリストの誕生からマサダまでは77年から79年の別の「週」となり、この「週」の「半分」は西暦33年から間もなく、西暦34年頃になります。つまり、1世紀の間にも、多くの成就が見られるのです。



**Above:** Adoration of the Magi, Musée des Beaux-Arts, Rennes  
(c. 1650 painting by Bartolomeo Biscaino, Oil on canvas, 124 x 173 cm)



oooooooooooooooooooooooo

4<sup>11</sup> ダニエル9:24-27に関して、紀元前6年以上にメシアの誕生年を想像するのは難しいでしょう。もちろん、も上に述べたように、土星の近くに木星があり、月もあるという天文学的な整合性もあります。ユダヤ人はメシアが天地創造から6千年目に到着すると考えていましたが、私たちのグリーンエアロジーでは紀元前5550年でした。したがって、イエスはアダムの上5000年以上後に時間通りに到着します。このことがユダヤ人が聖なる書物を改変する原因になったことは、前作で述べたとおりです。イエスの生涯における1世紀の出来事は、ダニエル9:24-27以上のことが成就していますが、そ

の中でも、市民の日付がどのようにして充足感をもたらすのかを調べました。このように、ダニエルの預言は、西暦30年（磔刑）、紀元前6年（キリストの誕生）、そして西暦70年のエルサレムのイスラエル第二神殿の終焉までの市民の歴史を調和させるのに役立ちました。異邦人招聘の年（西暦33年）でさえ、ローマ・ユダヤ戦争開始の年（西暦66年）の数字のちょうど半分（コモン・エラの数字で）なのです。また、西暦70年以前にウリムとトンミムがアザゼルのために出てきた40年は、西暦30年の磔刑を意味します[1]。

[1](エゼキエル 4:6, see Paragraph 4-12a, below)

oooooooooooooooooooo

4<sup>12a</sup> ダニエル9章2節では、エルサレムの壊滅に関して預言された70年について言及しています。これは、紀元前608年（BG）の「エホヤキムの治世の初めご」にエレミヤが語った言葉から始まり、紀元前539年にキュロスがバビロンを占領し、紀元前538年に王としての正式な1年目を迎えたときに成就した年数です[1]。最も興味深いのは、エルサレムが破壊されたコモン・エラの西暦70年という年が、まったく同じ「70」という数字を持っていることで、創造主の神の知恵を示しています。共通支配時代の始まりを選んだのは西暦1年よりずっと後の人間の仕事であり、エホバだけがこのような出来事を許すことができたのです。キリスト

の誕生年も、エホバが許可した後の選択によって、コモン・エラに基づいて取られた数字が知恵を示すようになった例である。紀元前6年には、イエスが「人の子」であることを示す数字として、神の「7」よりも1つ少ない数字が表示されている[2-4]。西暦30年の磔刑からエルサレムが破壊された西暦70年までの40年は、ユダの日が40年であることに関して、エゼキエル4章6節も満たしています（1-11参照）[5]。このように、ダニエル9章の預言は、1世紀の出来事や"であるメシア"によって成就された唯一のものではありません。しかし、ダニエル9章は、1世紀に適用される、そしてイエス・キリストに適用される、私たちのブレスド・グリーネアロジーを確認します。

4<sup>12b</sup> これは、イエスの誕生、バプテスマ、宣教、死、そしてそれらの日付がヘロデの神殿再建（紀元前20年）、ヘロデ・アグリッパ1世の死（西暦44年）、ティベリウス・カエサルによるセヤヌスの殺害（西暦31年）、ローマ人とユダヤ人との間の戦争（西暦66-70年）、マサダ（西暦73-74年）とどのように関連しているか、そしてダニエルの予言がこれらすべてにどのような光を当てているかについて、イエスを詳細に研究する最初の試みです。

[1](エレミヤ 27:1,6,7)

[2](啓示 5:6)

[3](マタイ 20:28)

[4](歴代第二 21:20)

[5](Paragraph 1-11, above)

第4章 結束：数値的に内部の端点として発見

# されたダニエル



## 第5章：公明正大なラムジーが 勇気づけられる話をしてくれた

<sup>51</sup> さて、ダニエルの預言を確認し、それがイエス・キリストの時代とどのように関連しているのかを感じ取ったところで、イエスの誕生とその歴史的、市民的背景についてももう少し調べてみるのもよいかもしれま



**Above:** Nativity, Alte Pinakothek, Munich (1520 painting by Hans Baldung Grien, Oil on wood, 105.5 x 70.4 cm)

**And it is like a bridegroom when coming out of his nuptial chamber; It exults as a mighty man does to run in a path.**  
*(Psalms 19:5, New World Translation (1984))*

太陽は夫婦の寝室から出てくる花婿のよう。喜び勇んで走路を進む強靱な人のよう。

*(詩編 19:5, 新世界訳聖書 (スタディー版) 2019, 2020)*

せん。 Was Christ Born at Bethlehem?-- A Study on the Credibility of St. Luke, ルカ書 (第2章1

節から4節)の中で、シリアに関連した名前(クレニオ)が次のように示されているルカの証人についての興味深い研究である:[1]

その頃、カエサル・アウグスツスから全土の住民に登録の命令が出た。(この登録はクレニオがシリア総督の時に行われた最初のもの+だった。)それで人々は皆、登録のためにそれぞれ自分の町に出掛けた。ヨセフも、ナザレの町を出て、ガリラヤからユダヤに入り、ベツレヘムと呼ばれるダビデの町に上った。ダビデの家系の人だったからであり。

(ルカ 2:1-4)[2]

上記の箇所は、ご存知の通り、イエスの誕生に関する物語の始まりであり、シリアの総督について言及しているところが、何よりも魅力的な部分である。



[1](*Was Christ Born at Bethlehem?: A Study on the Credibility of St. Luke (1898)*, by Sir William Mitchell Ramsay)

[2](ルカ 2:1-4, 新世界訳聖書 (スタディー版) 2019, 2020)

oooooooooooooooooooooooo

52 ルカのこの発言で興味深いのは、クレニオ総督と、クレニオが総督だった時代に起こった第一次登録に関するものです。つまり、**1回だけではなく、一連の登録があり**、ルカはそのことを知っていたということになります。この時代の市民の記録は完全に保存されていないので、ルカの実事を確認する人がいる可能性は低いということ覚えておく必要があります。ですから、現代の批評家がこのクレニオに関する記述に基

づいてルカの信憑性を攻撃するとき、私たちはルカが自分の時代について知っていたことについての信仰を堅持することができます。ルカよりも評判の悪い現代の批評家に基づいてルカを評価するのは、非常に不合理であると思われる。しかし、私たちは市民の記録を調べることで利益を得ることができます。彼は、ルカ2:2の記述に示唆されているように、定期的な登録と呼ばれるものを徹底的に調べ、ルカが総督としてクレニオの名を挙げていることに起因する困難について説明を加えています。当時はウォルスが総督として統治していたことが知られているようです[1]。ラムゼイ氏は、R・S・ブール氏が提案した別の解決策は、彼自身がこの難問を解決するために提案したものと実質的に同じであり、また同時に

提案したものであると述べている。

[1](*Was Christ Born at Bethlehem?: A Study on the Credibility of St. Luke (1898)*, p. 247, by Sir William Mitchell Ramsay)



**Above:** The Adoration of the Shepherds, Galleria degli Uffizi, Florence (1476-1479 painting by Hugo Van Der Goes, Oil on wood, 253 x 304 cm)

oooooooooooooooooooooooo

53 ルカの福音書2章1節にある、シーザー・アウグストゥスから出された命令についての記述は、イエスが生まれた時期に非常に近い時期にあるので、紀元前6年頃と考えられます。アウグストゥスがローマ帝国の初代皇帝として統治を始めたのは、彼の名の通り紀元前27年であり（彼が受けた名誉ではありません）、ティベリウスが共同皇帝になった後の西暦14年に亡くなったことは公の記録です。イエスはティベリウスの第15年に洗礼を受けたので、イエスが30歳の時に洗礼を受けたことから、イエスはシーザー・アウグストゥスの支配下で生まれたことがわかります。つまり、ルカ2:1のアウグストゥスに関するルカの記述は、ルカ3:1の記述と明らかに一致しており、ローマ支配の時代についての明確な知識を示してい

ます。これは古代の歴史家の間では一般的に見られないことで、ルカの記述が本物であることを示しています。したがって、クレニオに言及したルカは、イエスの誕生した紀元前6年当時のシリアの政府高官について、重要な発言をしていると見られる。ラムジー氏の著書は、イエスの誕生年に関するルカの信憑性についての論理的かつ印象的な論考である。

oooooooooooooooooooo

## シリアの総督としてのクレニオ

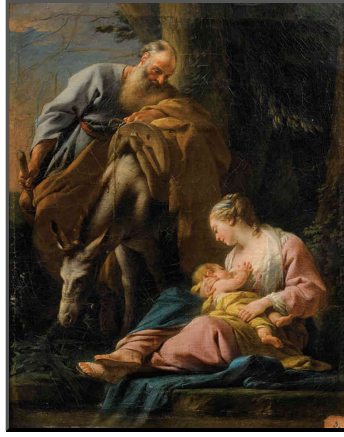
54 当時の市民の記録を利用して、事実の可能性を立証したり、時には様々な年代を補間することも可能です。ですから、クレニオがシリアの総督であるというような裏付けのない事実が記載されていると、ルカという出典の信頼性が疑われてしまいます。問題は、その事実の主張を検証することができるかどうかです。クレニオがシリア総督だった西暦6～7年には有名な国勢調査が行われていますが、これではイエスにとって遅すぎます。ルカの福音書1章5節によると、バプテスマのヨハネがゼカリヤの妻エリザベトに宿り、イエスが聖霊によってマリアの胎内に着床したのは、ヘロデがまだ生きていた頃（紀元前4年以前）であった。つまり、イエスが生まれた時に行われた国勢調査は、コモン・エラの変わり目ではな

く、その前に行われたということです。問題は、クレニオはシリアを二度統治したのかということです。ルカの知識は、彼が誤りを犯して、一方の国勢調査を他方の国勢調査に置き換えたとは考えられないほどのものです。一方で、もしそうであれば、ウィリアム卿が言うように:

寓話を事実と勘違いし、その勘違いを最も重大な誤りで支えようとする作家は、歴史的権威としての信用を維持することはできません。

***(Was Christ Born at Bethlehem?: A Study on the Credibility of St. Luke (1898), p. 21, by Sir William Mitchell Ramsay)[1]***

[1](*Was Christ Born at Bethlehem?: A Study on the Credibility of St. Luke (1898), p. 21, by Sir William Mitchell Ramsay*)



**Above:** Rest on the Flight into Egypt, Private collection (1755-1760 painting by Noël Hallé, Oil on canvas, 52 x 40 cm)

oooooooooooooooooooooooo

55 この時代のすべての学者は、正確な日付には多くの違いがあるものの、ヘロデ王は共通時代の前に死んだと考えています。この事実が認められた結果、イエスの誕生は共通時代の前に起こったことになりましたが、罪のない少年たちの虐殺はヘロデの存



命中に行われたため、ヘロデの死の2年も前に起こったことになるのです。ですから、クレニオについての疑問は、イエスが生まれた年に大きな疑問を投げかけるものではありません。その年が紀元前6年であることは確認されていますが、これは私たちのコモン・エラの1年目のわずか4年と少し前のことです。ラムゼイ氏がこの時代を見事に論じた理由は、シーザー・アウグストゥスが一連の登録を始めていたというもので、この登録リストのパピルスがエジプトに保存されていることからわかる。紙は湿気の多い気候や、エジプトより北の国では保存がきかず、すべて滅びてしまった。もちろん、ルカのように厳重に保管されていた書物は、他の多くの公的な記録のような運命をたどることはなかったもので、このルカ

の記録に信頼を置く理由の一つとなっている。

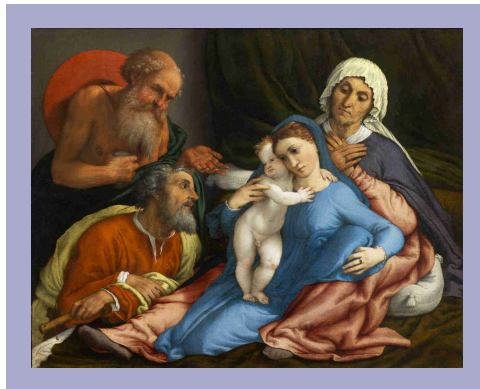
oooooooooooooooooooo

56 ローマの影響が、法律と文学の両方において、権威とその表れに対する一般の人々の認識に多くの洗練をもたらしたことは間違いありません。ローマ文明が求めた高度な組織化は、メシアが生まれた時期にふさわしいものでした。ヘロデ王はこの時まで、ヘロデの独立した行動のためにローマ皇帝アウグストゥスの寵愛を失い、アウグストゥスの怒りを受けたヘロデは、日曜日

の一番いい服を汚してしまった少年のようになっていました。ヘロデが自らの権限で戦争を起こしたとき、カエサルはヘロデに「これまでは（ヘロデを）友人として扱っていたが」、これからは臣下として扱うと書いた[1]。この手紙の執筆は紀元前8～7年頃と推定されている[2]。

[1](*Was Christ Born at Bethlehem?: A Study on the Credibility of St. Luke (1898), p. 178, by Sir William Mitchell Ramsay*)

[2](*Ibid.*)



**Above:** Holy Family with St Jerome, Galleria degli Uffizi, Florence (1534 painting by Lorenzo Lotto, Oil on canvas, 69 x 88 cm)

oooooooooooooooooooooooo

## クインティリウス・ウォルス

<sup>57</sup> ウォルスの名はアンティオキアのコインに現れているが、その年代は同じコインに描かれているアクティアン時代、紀元前31年のアクティウムの戦いから始まっており、したがってラムジー氏によればシリアの総督ウォルスの年代を紀元前7～4年とすることが可能であるという。[1] さて、もしイエスが、ルカが語るようにクレニオが

総督だったときに生まれ、私たちが判断したように紀元前6年に生まれたとすれば、クレニオは別の種類の総督だったということになる。一つの可能性として、クレニオはアウグストゥスに任命されて国勢調査を行い、その意味でのみ統治していたということが考えられる[2]。しかし、クレニオが総督だったということの妥当性については、彼が活着している間の時期についても調査することができる。これらすべてにおいて、私たちはルカ書が神の靈感による言葉であることを疑うことなく、最高の敬意を払っています。ラムジー氏はこれを行い、キリニウスがシリア総督になる前の人生にも出来事があったこと、2回目は西暦6年の時点でシリアの総督を務めていたこと、2回目の総督就任は現代の学者がキリストの誕生と

している時期よりも何年も後のことであることを指摘した。そのためには、さらなる調査が必要でしょう。

[1](*Was Christ Born at Bethlehem?: A Study on the Credibility of St. Luke (1898), p. 247, by Sir William Mitchell Ramsay*)

[2](*Ibid.*)

oooooooooooooooooooooooo



**Above:** The Infant Redeemer, National Gallery of Art, Washington (1485-1495 painting by Andrea Mantegna, *Tempera on unprepared canvas, 70 x 35 cm*)

# クレニオ

58 ラムジー氏の調査によると、クレニオの生涯で「確実」とされる年代は4つだけである。第1に紀元前12年の総統就任、第2に西暦6年に始まったとされる第2次シリア総督就任、第3に西暦20年の前妻との訴訟、そして第4に西暦21年の死と葬儀である。しかし、西暦6年のシリア以前（および紀元前12年の領事職以降）の彼の人生には、重要な出来事があったことが知られています[1]。（これらの出来事は、碑文ティブルティヌス [titulus

Tiburtinus]書に記載されている人物であると仮定して導き出されたものだと思いますが、この仮定は他の人々にとっても妥当なものだと思われる) [2,3]。これらの重要な出来事には、シリアで前任者を務めたこと、ホモナデンシスと戦争をしたこと（その過程で2つのサプリカティオ **supplicationes** を獲得した）、続いて通常1年間のアジア総督を務めたことなどがあります。サプリカティオとは、ローマの宗教で行われる1日以上祈りのことで、この場合は、大勝利を収めた将軍への高貴な敬意を表したものである。ホモナデンシス族に勝利した後、彼の最初のシリア統治は終わり、クレニオはアジアの総督に任命された。ラムジー氏はこのポストの日

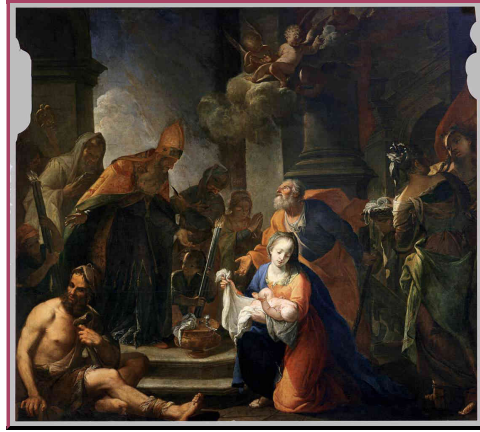


付を、他の既知の総督の任命で占められていたとされる年数を排除することで近づけている。

[1](*Was Christ Born at Bethlehem?: A Study on the Credibility of St. Luke* (1898), pp. 230-237, by Sir William Mitchell Ramsay)

[2](*Ibid.*, pp. 227-228)

[3](クレニオがホモナデンシスと戦争をしたことは、次の文章で述べたように、実際にStraboが『*Strabo's Geography*』第12巻6.5 (クレニオは "Cyrinius" と呼ばれている) で検証しており、また、次のように述べています *Was Christ Born at Bethlehem?: A Study on the Credibility of St. Luke* (1898), p. 243, by Sir William Mitchell Ramsay)



**Above:** Presentation of Jesus at the Temple, San Zaccaria, Venice (c. 1710 painting by Andrea Celesti, Oil on canvas, 314 x 261 cm)

oooooooooooooooooooooooo

5<sup>9a</sup> 消去法で考えると、アシニウス・ガルスが紀元前6-5年にアジア総督を務め、Cn. Lentulus Augurが紀元前2-1年と紀元前1年-西暦1年にアジア総督を務め、M. Plautius Silvanusが西暦1-2年、Marcius Censorinusが西暦2-3年にアジア総督を務め、さらにク

レニオが西暦3年にガイウス・カエサルの家  
庭教師としてアルメニアに滞在していた可  
能性を考慮すると、彼のアジア総督として  
の1年間の任期は紀元前5-4年、紀元前4-3  
年、紀元前3-2年、または（西暦では）西暦  
4-5年、西暦5-6年しか残っていないこと  
になる。そして、**西暦6年**には、上述（第5-7  
項および第5-8項）のように、一般的にはク  
レニオがシリアの総督としてその時代の国  
勢調査を行ったとされているが、クレニオ  
は特にその国勢調査に関連していることは  
間違いない。この状況（つまり、クレニオ  
による以前の**総督職**）を正確に理解するた  
めの最も深刻な疑問は次のようなもので  
しょう:

西暦6年にキリニウスが行った  
明確な国勢調査が、キリニウス  
がそれ以前にシリアを統治して  
いたかどうかに関係があると、  
合理的な人が結論づけるで  
しょうか?  
(重要な質問です。)

59b これは、慎重に検討する必要があるほど  
重要なテーマであると思われます。次は、  
これまで紹介してきた相関関係と組み合わ  
せて、タイミングの面でサポートしてくれ  
る魅力的な相関関係です。

oooooooooooooooooooo

5<sup>10a</sup> この点について、ラムジー氏は、この種の問題の「最高権威」であるワディントン氏を参考に行っているが、ワディントン氏は（ラムジー氏が言うように）次のように指摘している: アウグストゥスの支配下において、アジアのコンスルとプロコンスルという公式タイトルの間の通常の間隔は、わずか5、6年であった...アウグストゥスの治世における唯一の長い間隔は12年であり、それはCn. レントゥルス・アウグールは、紀元前14年にコンスル、紀元前2年にアジアのプロコンスルを務めた。このように、ラムジー氏は結論づけている: 「したがって、ク

レニオのプロコンスル任が16年という長い期間に渡って延期されたとは考えられません」、でもクレニオは、紀元前5年から紀元前2年の間にアジアを統治していたと「たぶん」ので、遅くとも紀元前3-2年には統治していたことになる[1]。

5<sup>10b</sup> 彼がアジアのプロコンスルになったのは遅くとも紀元前3年であり、ティブルティヌスの碑文[titulus Tiburtinus]にという名のない役人がシリアとフェニキアの両方で2回目の総督職に就いたことが示さ

れているので、クレニオがこの名のない役人であるとすれば、彼のシリアでの最初の任期も紀元前3年より前になる。シリアでホモナデンシスと戦った彼の最初の任期は、クレニオの間にかシリアの総督職を更新した2年の2つのサプリカティオ[supplicationes]に基づいて、紀元前5-3年かそれ以前と考えられる[2]。しかし、彼が紀元前12年に領事職に就いたことから（上記参照）、おおよそ紀元前12-3年となり、キリニウスがシリアを治めていた時期がイエスが生まれた時期であるというルカ2:2と一致する。紀元前6年というのは、私たちがイエスの誕生と考えている年ですが、この戦争によって通常引き起こされる当惑にもかかわらず、うまくいきます:

このホマナデンシアン戦争のように、それ自体は二次的な重要性しか持たない戦争で、これほど多くの歴史的に重要な問題と結びついているものは、おそらくないでしょう。このことについては、本稿の後で述べることにする。指揮官である將軍の名前、すなわち キリニウスという名前は、ルカによる福音書2章2節で言及されている彼の歴史的な言及から生じる、すべての複雑で困難な問題を引き起こします。この言及に関連する文献は膨大な数にのぼり、高名な学



者の間での意見の相違についても並外れている。

*("Studies in the Roman Province Galatia: I. The Homanadeis and the Homanadensian War," The Journal of Roman Studies Vol. 7 (1917), pp. 229-283, W. M. Ramsay [emphasis ours, Ed.]*)[3]

[1](*Was Christ Born at Bethlehem?: A Study on the Credibility of St. Luke (1898), pp. 232-233, by Sir William Mitchell Ramsay*)

[2](*Ibid., p. 236*)

[3](*"Studies in the Roman Province Galatia: I. The Homanadeis and the Homanadensian War," The Journal of Roman Studies Vol. 7 (1917), pp. 229-283, W. M. Ramsay*)



**Above:** The Adoration of the Magi, Historisches Museum, Bamberg  
(1674 painting by Jan De Bray, Oil on canvas, 41 x 159 cm)

oooooooooooooooooooooooo

<sup>511a</sup> 西暦1764年に発見されたティトゥルス・ティブルティヌス [titulus Tiburtinus]という碑文から、ちょうどこの時期に一人の人物がシリアでは2回にわたって総督を務めていたことが示唆されて

いる学者もいる[1,2]。この碑文には高官の名前が書かれていない。しかし、クレニオはここで確実に関与している。ルカの証言があることを考えると、議論はあまりにも多く、多様で、我々には何の役にも立たない。歴史的に見ても、クレニオが生きていたことは間違いありません。さらに、引用されている碑文に合う人物は他にほとんどいません。また、以前にも指摘する機会があったように、石の断片に刻まれた破損したテキストを、完全に保存された聖書の写本よりも優れているとするのは間違いである[3]。

5<sup>11b</sup> ティトゥルス・ティブルティヌス [titulus Tiburtinus] が、少しでもルカ

の確認になるかもしれないということだけでも、大きな意味があるのです[4]。しかし、学者の中で、ラムジー氏は、ルカの証言を最高の権威とし、イエスの誕生を紀元前6年とすることを提案している唯一の人物である。しかし彼は、M.R.S.ブールが西暦1897年に発表した出版物の中で、これらの点のいくつかに同意していることに言及している[5,6]。

[1](*Was Christ Born at Bethlehem?: A Study on the Credibility of St. Luke* (1898), p. 227, by Sir William Mitchell Ramsay)

[2](*"The Honorand of the Titulus Tiburtinus: C. Sentius Saturninus?"*, *Zeitschrift für Papyrologie und Epigraphik* Bd. 105 (1995), pp. 21-36, by Nikos Kokkinos)

[3](*The Crucible of Credible Creed* (2012), Part 2, Ch. 11, paragraph 9-b, by Ward Green et al.)

[4](*Was Christ Born at Bethlehem?: A Study on the Credibility of St. Luke* (1898), pp. 227-230, by Sir William Mitchell Ramsay)

[5](*Ibid.*, pp. 239-244)

[6](*Ibid.*, p. 248, footnote \*)

oooooooooooooooooooooooo

5<sup>12a</sup> もう一つだけ、この検証を終えるにあたって論理的であると思われる点がある。エミール・シューラー氏の指摘によると、ある地方で戦争を行うことができるのは総督だけであり、ホモナデンシス人が発見された地方はタウルス山脈にあり、「アジア、パンフィリア、ガラティア、キリキア、シリア」のいずれかに該当すると考えられるが、最初の3つは戦争を行う軍団を持っていなかったため、該当しないという。そして、この時のキリキアはシリアの一部であり、コンスルの属州ではなく（も、パンフィリアとガラテアにもコンスルはいなかった）、プラエトルが管理する

「プレトリアンの属州にコンスルが派遣されることはなかった」ので、ここでも「クラニオは、コンスルであった者として、ホモナデンシヤ人との戦いの司令官であった」のに対し、「この戦争ではコンスルとして、またシリアの総督として行動していた」のである[1]。さらにシューラー氏は、この戦争は、クラニオがC.（ガイウス）・カエサルの顧問としてアルメニアに任命された西暦3年よりも前のことであるから、ジョセフスが言及している、クラニオによるがシリアを統治した西暦6年の有名な総督よりも前に、シリアの総督を務めていたことになる[2]。

5<sup>12b</sup> クィンティリウス・ワルスは紀元前7～4年にシリアを統治しているが、クラニ

才が適任とする軍事指導者としてではない。私たちは、ラムジー氏が提案したように、ルカが間違った総督を指名したという考えを否定することができる、クラニオがヴァルスと同時に、ローマ帝国の他の事例で観察されたように**軍事的な立場でシリアを統治したと結論づけるために、すでに提示された証拠に訴えて[3]**。

<sup>512c</sup> 何よりも注目すべきは、クレニオの人生の出来事から与えられた時間は、彼が紀元前6年にホモナデンシスと戦ったことを他のどの日付とも同様に認めているということです。また、マーク・スミス氏が2000年に発表した論文では、クレニオによる「**キレナイカでの戦いと小アジアのホモナデンシス族との戦い**」を**紀元前6年以前**（を紀元前

6年とする) としています。この年代を決めるために、タキトゥス[Tacitus] 年代記 [Annales] と Florus Epitome の両方を引用し、さらに2つの現代の著作 (すなわち、R. E. Brown in "The Birth of the Messiah" (1993) 551; A. N. Sherwin-White, "Roman Society and Roman Law" (1960-61, 1963) 164-65) を引用している[4]。このことは、イエスの誕生の直前にローマが国勢調査を開始したことと一致し、国勢調査が1年以内に行われたことを可能にする[5]。最後に、アーネスト・デ・ウィット・バートンによる「ルカ福音書の目的と計画」は、ラムジー氏が我々とともに述べているように、イエスの誕生を紀元前6年とすることについて、「他のデータを理由にした重大な異議」を提示していない[6]。



5<sup>12d</sup> 私たちは今、ラムジー氏が著書の中で論じているように、ローマ帝国における入籍の問題、そしてそれがここではまさに私たちの年号とどのように相関しているのかを考え始めることができる。本論文の次の章は、前の章に対して非常に大きな裏付けを提供し、熱心に徹底的に議論するのに有用であるが、読者はとりあえず第6章の読解をスキップして、予断なく第7章に進むことができる。時間が許せば、第6章を徹底的に読むことは、先に述べた点を補強するために有益であろう。

[1](*A History of the Jewish People in the Time of Jesus Christ, Part 1, Volume 1* (1896), pp. 352-353, by Emil Schürer)

[2](*Antiquities, XXVIII, Ch. 1, sec. 1, by Josephus. Here, "Cyrenius" is used for Quirinius.*)

[3](*Was Christ Born at Bethlehem?: A Study on the Credibility of St. Luke* (1898), pp. 238-239, by Sir William Mitchell Ramsay)

[4]("*Of Jesus and Quirinius,*" *The Catholic Biblical Quarterly* Vol. 62, No. 2 (April 2000), p. 279, by Mark D. Smith)

[5](*Was Christ Born at Bethlehem?: A Study on the Credibility of St. Luke* (1898), p. 134, by Sir William Mitchell Ramsay)

[6]("*The Purpose and Plan of the Gospel of Luke,*" *The Biblical World* Vol. 16, No. 5 (Nov., 1900), p. 350, by Ernest De Witt Burton)

第5章 結束： 公明正大なラムジーが勇気づけられる話をしてくれた



第6章： ローマ人定期的な登録、アウグストゥス、ルカ

## 6<sup>1a</sup> ルカの福音書を解釈する際に、シリアの



**From one extremity  
of the heavens is its  
going forth, And its  
[finished] circuit is to  
their [other]  
extremities; And  
there is nothing  
concealed from its  
heat.  
(Psalms 19:6, New  
World Translation  
(1984))**

**Above:** Augustus  
of Prima Porta,  
Vatican Museums  
(1st century statue by  
unknown artist, white  
marble, height: 204 cm  
(80.3 in))

総督キリニウスにつ  
いて言及しているこ  
とが、後の国勢調査

天の一方の果てか  
ら出ていき、他方  
の果てへと巡って  
いく。その熱から  
隠れられるものは  
何もない。  
(詩編 19:6, 新世界訳)

について言及してい **聖書 (スタディー版)**  
る可能性を認めるこ **2019, 2020)**  
とで、彼らのように  
信仰を妥協することは非常に簡単です。と  
いうのも、西暦6年にキリニウスがシリアの  
総督となり、ローマ皇帝アウグストゥスの  
許可を得て国勢調査を行ったことは、全学  
者が認めているからです。

6<sup>1b</sup> 紀元前6年（11年前）にそれ以前の国勢  
調査の証拠が残っていないことは、それが  
行われなかったことを証明するものではあ  
りません（証拠がないことは、ないことを  
証明するものではないからです）。しか  
し、まだ証拠が残っていないが、実際に行  
われたと思われる出来事は数多くありま  
す。なぜなら、記録が欠けていることがわ

かっているし、すべてが記録されているわけではないからです。市民の記録がすべて保存されているわけではないのは事実であるし、文献で知られているにもかかわらず、紛失したり、滅びてしまった文学作品が多いのも事実である。残っていないが、他の古代文献に参照されている文学作品がある場合、それを参照していた作家が間違っていたと主張することがあるだろうか。これは、コミュニケーションの原理を否定する、考え得る限り最も不合理な考え方である。しかし、神の言葉の場合、それは非常に大きな摂理と考えられており、それにコメントする者は自分の意見を広める絶好の機会と考えられているため、他の人の疑問を補強するような発言をしたいという誘惑に駆られます。

oooooooooooooooooooo

6<sup>2a</sup> このような疑念が生じた後に発見されたことによって、神の言葉は何度も証明されてきたことは、何度も繰り返して言うことではありませんが、私たちはこのような誘惑に負けてはいけません。疑われていたポンテオ・ピラトが、後に発見されて歴史的人物であることが証明されたのもその一例です[1]。ネルソン・グルエック氏は、1963年にタイム誌の表紙を飾った世界的に有名な考古学者で、彼の著書 **Rivers in the Desert** (1959年) の中で次のように述べ

ています:

**考古学上の発見で聖書の記述を覆したものはない。**

*(Rivers in the Desert (1959), 1st Printing, p. 31, by Nelson Glueck, [emphasis ours, Ed.])[2]*

6<sup>2b</sup> しかし、誤解を恐れずに言えば、聖書を裏付ける証拠を追求することが、必要以上に重要になってしまふことがあります。私たちは忘れがちですが、そもそも聖書があるからこそ、証拠探しを始めたのです[3]。正直なところ、聖書が神の靈感を受けた言葉であるからこそ、私たちはそれを検証することに関心を持つのです[4]。どんな証拠でも神の言葉を証明できると信じてしまふ

のは、見当違いの野心であることを謙虚に認識することができます。

[1](ピラト・ストーンは、新約聖書の中でユダヤの総督として知られている「P[on]tius Pilate」の名前を記した唯一の現代の碑文です (ルカ3:1、マタイ27:3など) 。)

[2](*Rivers in the Desert* (1959), 1st Printing, p. 31, by Nelson Glueck, [emphasis ours, Ed.]

[3](cf. イザヤ 49:15)

[4](テモテ第二 3:16)



**Above:** Garden of Eden, Galleria Doria Pamphilj,



Rome (1570-1573 painting by Jacopo Bassano, Oil on canvas, 77 x 109 cm)

oooooooooooooooooooo

6<sup>3a</sup> 秤の上の塵のように、私たちの議論はほとんど意味がありません[1]。しかし、私たちは私たちの創造主エホバに私たちの存在を負っているので、彼の言葉を検証するための努力も彼に負っているのではないのでしょうか？ もしイエスが西暦6年に生まれていたら、ルカが言うように30歳くらいではなく、洗礼を受けたときには20歳くらいになっていたはずです（つまりティベリウス暦15年） [2]。ですから、このような推論は、聖書の本文そのものから大きく逸脱し

ているように見えます。しかし、このような逸脱は、今後の研究をすべて無意味なものにしてしまいます。なぜなら、もし聖書が真実でないなら、それ以上のテストは必要ないからです。これが、神の言葉をテストすることが間違っているという理由である[3,4]。

**6<sup>3b</sup>** イエスが生まれた当時、学者の間では一致しているようですが、シーザー・アウグストゥスがローマ皇帝として君臨しており、その治世のある時点で、強制的な登録制を導入したという点で一致しています[5]。ラムジー氏は1898年の著書の中で、同時期に「ローマ帝国時代のエジプトで定期的な登録が行われていたことを発見した」と独自に発表した3人の学者の名前を挙げて

いるので、このような登録は西暦1898年よりも前の研究で発見されています。これらの登録は、「後のインディクティオのシステムのようにはなく」、むしろ14年のサイクルで定期的に行われていた[6]。アレクサンドリアのクレメンスは、西暦150年から西暦215年の間にエジプトに住んでいた人物であり、ラムジー氏は、シリアの登録制度はキリストの誕生時に起こった「その登録から始まった」という明確な意見を述べていると引用している[7]。

[1](イザヤ 40:15)

[2](ルカ 3:1)

[3](ルカ 4:12)

[4](マタイ 4:7)

[5](*Was Christ Born at Bethlehem?: A Study on the Credibility*)

*of St. Luke (1898), pp. 123-130, by Sir William Mitchell Ramsay)*

[6](*Ibid.*, p. 131)

[7](*Ibid.*, p. 129)



**Above:** Adoration of the Magi, The Hermitage, St. Petersburg (1567-1569 painting by Francesco Bassano, Oil on canvas, 98 x 129 cm)

oooooooooooooooooooooooo

6<sup>4a</sup> エジプトの周期は、シリアとは異なるかもしれないが、ラムジー氏は、紀元前23

年、紀元前9年、西暦6年、20年、34年、48年、62年、76年、90年、104年、118年、132年、146年、160年...西暦328年[1]。始まりはアウグストゥスの時代（紀元前27年から紀元前14年）。シリアの場合、クレメンスが示唆しているように、登録は紀元前23年より後に始まっており、ラムジー氏は、発見されたエジプトの国勢調査用紙の断片は、彼の著書の時点では「西暦20年」より前の日付にはなっていなかったと述べている[2,3]。しかし、クレメンスが2世紀末頃にエジプトで流行っていた意見を示したり、代表したりする限り、それを始めたのはシーザー・アウグストゥスである[4]。

6<sup>4b</sup> 国勢調査の最も古い例は、上に引用したように、現存する断片の中ではティベリウ

ス・カエサルの治世下の西暦20年であるが、国勢調査サイクルの開始時期として予測される紀元前23年は、アウグストゥスの公式な皇帝の称号の1年目である紀元前23年6月27日と一致しており、登録サイクルはエジプトで、あるいはエジプトだけのために始められたものではないことを示している[5]。このことは、アウグストゥスが紀元前30年8月29日からエジプトを支配していることから、この日から7年後に始まる14年周期は、単にエジプトに由来するものではなく、論理的には帝国全体で発生するものであることが明らかである[6]。

[1](*Was Christ Born at Bethlehem?: A Study on the Credibility of St. Luke (1898)*, p. 134, by Sir William Mitchell Ramsay)

[2](*Ibid.*, Preface, p. x, bottom, Postscript, by Sir William Mitchell Ramsay)

[3](*Ibid.*, p. 129)

[4](*Ibid.*, pp. 129-130)

[5](*Ibid.*, p. 140)

[6](*Ibid.*, p. 141)

oooooooooooooooooooooooo

65a このような推論に基づけば、アウグストゥスの最初の登録年は、紀元前23年にtribunicia potestasの任期を開始してから14年後に開始された可能性が高いと考えられます。彼の例は、一連のローマ皇帝の中で、摂政の年をこのように計算した最初の皇帝であり、この時期以降、皇帝は「コモنزのチャンピオン」として構成される力を持つようになります[1]。最初の登録に必要な組織は、（ラムジー氏が言うよ

うに) 在職年数の開始から紀元前9年の「命令が出た」まで14年遅れた理由として提案されるかもしれない(ルカ2:1参照)。[2]ルカは「この登録は...最初のものだった」と述べている[3]。

6<sup>5b</sup> 紀元前9年が最初の登録年であることは、紀元前19-18年のエジプトで「異なる様式」の登録用紙が使用されていることからわかります[4,5]。このような異常さは、14年周期の年(紀元前の年では23、9)が紀元前19年や紀元前18年と一致しないことにあり、このような紀元前9年の10年前の国勢調査は、周期の開始に先行しているため、容易に調和する。このような論理によって、ラムジー氏は、クレメンスがキリストの生誕日に最も近い周期である前9年に



開始することに到達したのと同じ点に到達しているのである[6]。

[1](*Was Christ Born at Bethlehem?: A Study on the Credibility of St. Luke (1898), p. 140, by Sir William Mitchell Ramsay*)

[2](*Ibid., p. 141, by Sir William Mitchell Ramsay*)

[3](ルカ 2:1,2)

[4](*Was Christ Born at Bethlehem?: A Study on the Credibility of St. Luke (1898), p. 139, by Sir William Mitchell Ramsay*)

[5](*Ibid., p. 141, by Sir William Mitchell Ramsay*)

[6](*Paragraph 6-3 and 6-4a, above*)



**Above:** Landscape with the Parable of the Tares among the Wheat, Walters Art Museum, Baltimore (1624 painting by Abraham Bloemaert, Oil on canvas, 100 x

133 cm)

oooooooooooooooooooooooo

**66** 紀元前9年の最初の登録のために与えられた日付は、皇帝アウグストゥスのローマ憲政公国の公式な計算上の最初の年である紀元前23年と14年周期に基づいているので、それを始めたのはアウグストゥスであることは「決定的」である[1]。エジプトでは西暦90年から西暦230年まで連続しており、上述のように西暦20年からの1例もある[2]。ネロの西暦62年からの例もある[3]。しかし、戸籍の考え方はエジプトのアウグストゥスよりもはるかに古く、彼はそれを採用した

だけであると考えられ[4]。14年周期はアウグストゥスが始めたものである。以上の結論は、確かに、この命令がアウグストゥスによるものであるというルカの記述と完全に一致しています[5]。残る問題は、登録が紀元前9年ではなく紀元前6年に行われたのはなぜかということです。

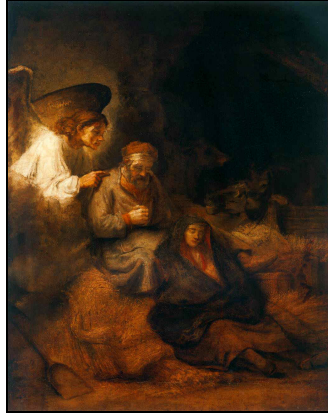
[1](*Was Christ Born at Bethlehem?: A Study on the Credibility of St. Luke (1898), p. 140, by Sir William Mitchell Ramsay--noting that the 1st official year of tribunician power began with Augustus, in BCE 23.*)

[2](*Paragraph 6-4a, above*)

[3](*Was Christ Born at Bethlehem?: A Study on the Credibility of St. Luke (1898), pp. 135-136, by Sir William Mitchell Ramsay*)

[4](*Ibid., pp. 138-139*)

[5](*ルカ 2:1*)



**Above:** An Angel Telling Joseph in a Dream to Flee to Egypt, Szépművészeti Múzeum, Budapest (c. 1650 painting by Rembrandt Harmenszoon van Rijn, Oil on canvas, 105 x 83 cm)

oooooooooooooooooooooooo

67 そもそも、観測されたすべての事象を説明できない理論は、推奨するに値しない。しかし、ここには少なからず大きな矛盾があります。紀元前9年に出されたシーザー・アウグストの命令は、紀元前8年に結論を出

すことができるかもしれませんが、登録自体に1年以上の余裕を持たせることができるでしょうか。このズレを解消しようとした著名な学者であるラムジー氏の努力には大いに感謝しています。ある学者は、この問題は争いなく解決できるほど小さな問題だと認めるかもしれません。他の学者は共通してRamsay氏の仕事に注目しています。彼の意見が彼らの間で抜きん出ているのには理由がある。ラムジー氏は、西暦6年（Anno Domini）にクラニオが2回目のシリア総督府に来て、パレスチナが編入されるまで、パレスチナはまだローマ帝国の一部になっていなかったと述べている（2回目の登録の前であることは、ルカ2:2で言及されている「最初の」国勢調査と一致している） [1]。

[1](*Was Christ Born at Bethlehem?: A Study on the Credibility of St. Luke (1898)*, p. 143, by Sir William Mitchell Ramsay)

oooooooooooooooooooo

68a ルカの福音書2章2節の別の解釈を選択することが困難であるという事実がなければ、私たちはここでほとんど乗り越えられない困難に直面するでしょう[1]。この最初の登録は、最も信頼できる証人である医師ルカの言葉を借りれば、クラニオがシリアの総督であったときに行われたものであり、他の解釈による困難を避けるために、パレスチナがローマ帝国の一部となる前の時代に、アウグストゥスが全人類のために最初の登録を命じたということだけを意味

すると考えることができ、それゆえルカは「全土」と言っているのです。ルカは当時、この「第一次登録」の市民記録が、彼の時代の多くの人々には知られているかもしれないが、私たちにとっては後に失われてしまうかもしれないとは考えもしなかっただろう。

<sup>68b</sup> まだ見つかっていない多くの市民の記録が後に発見される可能性があり、私たちは信仰からあらゆる可能性を許容する必要があります[2]。プリニウスは、西暦48年にカエサル・クラウディウスが国勢調査の記録を使って、**当時150歳**と主張していた一人の市民の年齢を確認したことを述べています[3]。パレスチナは、アウグストゥスの時代にはシリアの一部とされていたが、エルサ

レムを首都とするユダヤ王国は、エホバのもとでイスラエル人がローマの権威に抵抗したという点で、例外的な存在であった[4]。最終的には、ユダヤ人のローマに対する憎しみの頂点である西暦66年のローマ・ユダヤ戦争につながった。ヘロデ王は紀元前37年にエルサレムを征服して以来、エルサレムのユダヤ人の王であったことは前述したとおりである[5]。

[1](*Paragraph 6-3a, above*)

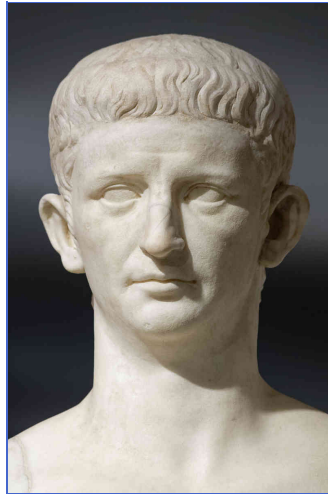
[2](*ローマ 14:23*)

[3](*Was Christ Born at Bethlehem?: A Study on the Credibility of St. Luke (1898), pp. 156, 163-164, by Sir William Mitchell Ramsay*)

[4](*Ibid., p. 175*)

[5](*B4 Chronology- History of Babylon (2015), Ch. 3 paragraph 6b, by Ward Green et al.*)





**Above:** Claudius, Roman Emperor, Musée du Louvre, Paris

*(c. 40 CE statue by unknown artist, marble, height 80.7 in)*

oooooooooooooooooooooooo

6<sup>9a</sup> ラムジー氏はここで、シリア州（ユダもその一部）で公式に観測されている年が「春に始まるので、周期的な年はおそらく紀元前9～8年で、実際の数合わせは紀元前8～7年に行われるだろう」と理由を述べてい

ますが、パレスチナでの出来事を考慮して、これを修正しています[1,2]。この時代のあらゆる側面を見事に網羅したラムジー氏が考慮していないのは、新しい国勢調査の開始による影響です。

6<sup>9b</sup> ローマ政権への憎悪が蔓延していたパレスチナでは、特にその傾向が強いと思われませんが、新しい法律の施行には時間が必要であり、完全に受け入れられるためには寛大さが必要であることは常に事実です。ユダヤ人にとっては、ローマの国勢調査を強要することは、民族の誇りを煽り、反乱を引き起こす可能性があったのかもしれませんが。:

**ヘロデがアウグストゥスの登録が必**

要であること命令に従ったと限りますと、その方法は責任ある当局、すなわち国王の裁量に任せるのが、これらの従属王国の扱い方の精神に合致していると考えられます。

***(Was Christ Born at Bethlehem?: A Study on the Credibility of St. Luke (1898), p. 186, by Sir William Mitchell Ramsay)[3]***

6<sup>9c</sup> 以上のことから、遅延が発生した、あるいは登録のための時間が長くなったという可能性は、まったくないとは言えないでしょう。

[1]*(Was Christ Born at Bethlehem?: A Study on the Credibility of St. Luke (1898), p. 185, by Sir William Mitchell Ramsay)*

[2]*(Ibid., p. 174-185)*

[3]*(Ibid., p. 186)*

oooooooooooooooooooooooo

6<sup>10a</sup> パレスチナにはユダヤ人だけが住んでいたわけではありませんが、アウグストゥス政権下のローマ人は、外国人の場合、その国の習慣やそれに伴う様々な感情を考慮する必要のあることを認識していました:

ローマの地方行政が驚くべき成功を収めたのは、役人が対象となる人々の偏見に対応する技術と機転によるものでしたが、これは明らかに、数の数え方に関してユダヤ人の感受性が考慮されるべきケースでした。

***(Was Christ Born at Bethlehem?: A Study on the Credibility of St. Luke (1898), p. 186, by Sir William Mitchell***

## Ramsay)[1]

6<sup>10b</sup> この国勢調査の時期を紀元前8～7年に絞って実行すると、主の誕生日である紀元前6年よりも2年先行することになる。しかし、ユダヤ人は、ラムジー氏が前述したように、数の数え方の詳細においてユニークであった。その違いの一つは、登録は常にその部族と家族の適切な都市で行われることになっていたことです[2]。各家族が家系図のある都市に出向くことの不便さと、そのためにかかる時間、そして賃金の損失を考えると、数年の遅れは妥当であると思われる。

[1](*Was Christ Born at Bethlehem?: A Study on the Credibility of St. Luke (1898)*, p. 186, by Sir William Mitchell Ramsay)

[2](*Ibid.*, p. 188)



**Above:** Christ Among The Doctors, Private collection

(1640-1645 painting by Leonaert Bramer, Oil on panel, 51 x 38 cm)

oooooooooooooooooooooooo

6<sup>11a</sup> ヘロデ王がアウグストゥスとの間ですでに困難な状況に陥っていたことは前述したとおりである[1]。エホバ神ご自身に勝る権威はありませんから、ユダヤ人として育て

られたヘロデ王のような人物やユダヤ人自身が、ローマ法に服従することに大きな悲しみを覚えるのはそのためです。キリスト教徒にとって、今日に至るまで、聖書は人類に関するすべてのことについての最も高い権威であり続けています[2]。パレスチナは比較的小さな国ですが、アウグストゥスが国勢調査を命じたとき、国勢調査の新しさは、部族の人々にとって、一時的に生活の場を追われること以上少ないの不便さをもたらすとは思えずほとんどそのような、各部族に2ヶ月しか割り当てられなかったとしたら、2年が経過してしまうことになります。

6<sup>11b</sup> 経済的な困難を避けるために、この登録を数年に渡って行うことができたのか、そ

れとも反乱を防ぐために、この最初の国勢調査の実施を遅らせたのか、イエスの誕生日が紀元前6年であることが、どのように事実合致していると考えられるか見てみましょう。

[1](*Paragraph 5-6, above*)

[2](ダニエル 4:25)

oooooooooooooooooooo

6<sup>12a</sup> ラムジー氏とテルトゥリアヌス氏の両方が認めているように、アウグストゥスの命令が下された頃にはサトゥリヌスがシリア総督であったかもしれませんが、クィンティリウス・ワルスがサトゥリヌスの後



を継いだ時には、プブリウス・スルピキウス・キリニウス（クラニオ）がホモナデンシスと戦っているか、あるいはこれから戦うことになるかもしれません（第5章で見ました）[1,2]。このように、クラニオはイエスが生まれた時に、軍事的な立場でシリアを総督として代表していたのかもしれませんが。しかし、このことは、ルカ書に記された神の言葉そのものよりも高い権威をもって証明することはできない[3]。ラムジー氏が述べているように、236頁によれば、クラニオがホモナデンシス族に勝利したのは紀元前3年以降ではなく、それ以前に勝利していた可能性があり、これはルカ2:2と紀元前6年と完全に一致する。ブール氏(Mr. Bour)はクラニオが紀元前7-6年に戦闘を行っており、当時はシリア総督と同等の地位にあっ

たらしいことに同意しており、こうして私たちのその点を指摘している[4]。

6<sup>12b</sup> またしても、聖書の権威が断片的な市民の記録と非常によく調和していることがわかり、神の揺るぎない言葉としてさらに注目されるようになりました。ラムゼイ氏の仕事は、そのことを非常に広範囲に示しています[5]。そのため、イエス様がお生まれになる時期は、より確かなものとなっています。

[1](*Was Christ Born at Bethlehem?: A Study on the Credibility of St. Luke (1898), p. 182, by Sir William Mitchell Ramsay*)

[2](*Adversus Marcionem, Book 4, Chapter 19, v. 10, by Tertullian*)

[3](ルカ 2:2)

[4](*Was Christ Born at Bethlehem?: A Study on the Credibility of St. Luke (1898), pp. 240-241, by Sir William Mitchell Ramsay*)

[5](cf. ガラテア 1:8)

## 第6章 結束：ローマ人定期的な登録、アウグストゥス、ルカ



**Above:** Rest during the Flight to Egypt, Pinacoteca, Vatican

*(Painting by Francesco Mancini, Oil on canvas, 136 x 100 cm)*

## 第7章： 確実な証しでローマを耐えるクリスチャンたち

<sup>71</sup> イエスが生まれた年としての紀元前6年



**Above:** The Expulsion from the Garden of Eden, Cappella Brancacci, Santa Maria del Carmine, Florence (1426-1427 painting by Masaccio, Fresco, 208 x 88 cm)

**The law of Jehovah is perfect, bringing back the soul. The reminder of Jehovah is trustworthy, making the inexperienced one wise. (Psalms 19:7, New World Translation (1984))**

エホバの律法は完全で、力を吹き込む。エホバの教えは信頼でき、経験の浅い人を賢くする。

**(詩編 19:7, 新世界訳聖書 (スタディー版) 2019, 2020)**

が、その最初のローマの国勢調査の時からエルサ

レムの破壊までに知られているものに対応できることを見てきました。よく知られている**西暦6-7年の国勢調査**として捉えると、イエスの誕生年は他の既知のデータと一致しません。クラニオはシリアの総督で、**西暦6-7年と記録されていますが、私たちは紀元前6年**が正しい日付であることを示しました。それ以前の国勢調査は、シリアのクイリニウスと相関があるため、イエスが生まれた時期のベツレヘムに当てはまります。クラニオが軍事的任務に従事している時です。メシアの誕生は、磔刑の日付を固めてくれるので、ダニエルの予言に影響を与えます。また、イエスのバプテスマの年にも影響します、なぜなら、次の過ぎ越し祭（ヨハネ2:20）では、神殿建設の46年が経過したと言われており、**その時期のイエス**

**は30歳（ルカ2:23）**、西暦27年でした。ヘロデ王が神殿建設に着手したのは紀元前20年頃でした。しかし、すべてにおいて、西暦70年からさかのぼって計算しています[1]。

[1](*Paragraph 1-9, above*)

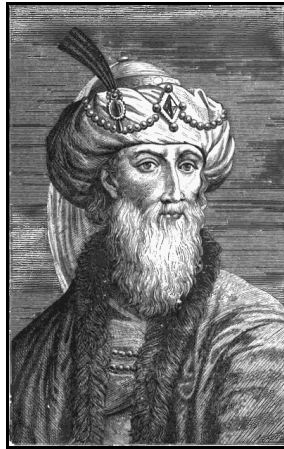
oooooooooooooooooooo

<sup>72</sup> キリスト教が始まった西暦1世紀については、驚くほど多くのことがわかっていません。しかし、私たちには福音書や聖書の執筆者がいます。聖書は、預言と、人類を罪と死から救うというエホバのメシアの約束について書かれています。聖書は、神の言

葉であり、真理であると主張している[1]。このような権威を主張する世俗的な著作物には匹敵するものがないため、聖書には多くの批判が寄せられる[2]。彼は西暦56年に生まれ、西暦120年頃に64歳で亡くなっている。イエスが死からよみがえった後に生まれたことになる。オロシウス（375年頃～西暦418年以降）はもっと後の時代の人で、アウグスティヌスの弟子である神学者・歴史家です。Tertullian (155年頃～西暦240年頃)は、キリスト教の弁証者で、神学や異端者についてラテン語で書いています。フラウィウス・ヨセフスは、1世紀のローマ・ユダヤ人作家で、パレスチナにおけるローマ人とユダヤ人の歴史を記録している。

[1](ルカ 17:17)

[2](ペテロ第一 4:4)



**Above:** Flavius Josephus  
(Works Translated by William Whiston - 1879 -  
Frontispiece)

oooooooooooooooooooooooo

73a タキトゥスの記述によると、ネロの時代



のキリスト教徒は、「野獣の皮で覆われ、犬に引き裂かれて死んだ」では「十字架に繋がれた」「夜のランプとして燃やされた」という恐怖にさらされています。タキトゥスは、この「宗派」が、それ以前にクリスチャンという名称を確立し、ティベリウスの時代に死刑を受けた「クリストゥス」によって創設されたことを証明している[1]。 **共通紀元[Common Era]**（紀元前/西暦の表記の西暦[BC/ADのAD]）という年代規定は、西暦525年に小スキタイのディオニュシウス・エキシグスによって確立されているので、オロシウスはこの犠牲を、ローマ建国の日からです（表向きは紀元前753年）の *ab urbe condita* から 767AUC + 16年までとしている:

# 767 - 753 + 16 = 14 + 16 = 西暦30年 (イエスの磔刑)

<sup>73b</sup> つまり、パウルス・オロシウスが、ユダヤ人がイエスの命を奪ったのはティベリウス17年であるとしていることから、アウグストゥスの死がAUC767年（西暦14年、従来のローマ建国の年である紀元前753年から見こうして）であることから、**西暦30年**は（上記でも示したように）磔刑の日付となります[2]。カエサル・アウグストゥスが**西暦14年**（または767-753年）に死ぬと、ティベリウスの単独支配の1年目が始まります。西暦14年後17年目（+16）=西暦30年（コモン・エラ）。

[1](*The Annals, 15.44, by Tacitus*)

[2](*The Seven Books of History Against The Pagans, Book 7,*

*by Paulus Orosius, transl. by Roy J. Deferrari (1964), pp. 290-291)*

oooooooooooooooooooo

7<sup>4a</sup> 最近の新約聖書学者で、使徒パウルの生涯と働きについて書いたF.F.ブルース氏(1910-1990)は、「彼のすべての著作」の中で、イエスが死んだ年を西暦30年としています[1]。ブルース氏は聖書学者から非常に尊敬されています[2]。ブルース氏はアガブスが予言した飢饉を「おそらく」西暦44-48年としている[3-6]。この飢饉の年代を決めるためにヨセフスが二「州知事のプロクラトル」[procurator, 原語のギリシャ語では「ἐπίτροπον」] (一ではなく二) に言及して

いることから、その時期（は上で指摘）したように早ければ西暦44年であり、ヘロデ・アグリッパ1世のが死んだ年に相当することがわかる[7,8]。ライナー・リースナー氏(1998年)のペン:「アグリッパの治世の第8年（西暦37年から）までのコインも西暦44年を確認している」、ヘロデの死として、としている[9]。リースナー氏は、我々と同様に、磔刑を西暦30年としている:

**A.D.30年[西暦]**というのは、現代の学者の多くが、イエスが磔刑にされた日として、圧倒的に可能性が高いと考えているようです。

***(Paul's Early Period: Chronology, Mission Strategy, Theology (1998), p. 58, by Rainer Riesner, transl. by Doug Stott)[10]***

7<sup>4b</sup> リースナー[Riesner]氏は、飢饉の年代測定についてブルース氏に同意しています:

ユダヤで深刻なストレスがあったことを示す最も有力な証拠は、A.D.44-46[西暦]年にあります。  
(*Ibid.*, p. 134)[11]

7<sup>4c</sup> リースナー氏の著書は、大きく議論されているこのテーマについては最もメジャーな調査ですとして長く残るであまぎステルな作品として賞賛されており、少なくとも、いくつかの研究に値するものである[12]。

[1]("*Dating the Death of Jesus Christ*," *BYU Studies Quarterly*, Volume 54:4 (2016), by Jeffrey R. Chadwick)

[2](*Ibid.*)

[3]("*Christianity Under Claudius*," *Bulletin of the John Rylands*

*Library 44 (March 1962): 309-326. p. 309, by F.F. Bruce)*

[4](*使徒 11:28*)

[5](*Antiquities, XX, Ch. 5, sec. 2, by Josephus*)

[6](*Antiquities, XX, Ch. 1, sec. 1, by Josephus*)

[7](*The Cambridge History of Judaism, Volume 3, The Early Roman Period (2008), Chronological Table, p. xxxvi. It states the year of death of Herod Agrippa I as 44 CE.*)

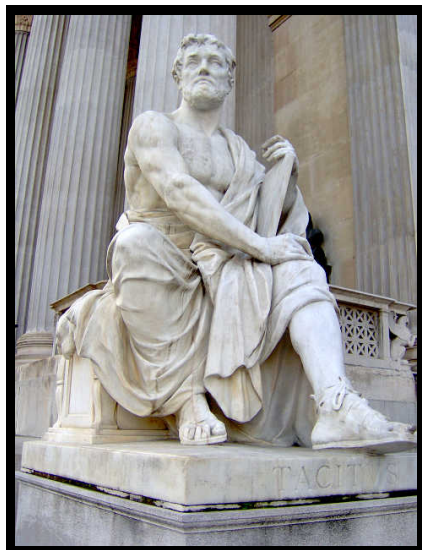
[8](*Paragraph 2-5, above*)

[9](*Paul's Early Period: Chronology, Mission Strategy, Theology (1998), p. 117, by Rainer Riesner, transl. by Doug Stott*)

[10](*Ibid., p. 58*)

[11](*Ibid., p. 134*)

[12](*Statement by Martin Hengel on the front cover, as mentioned in the very positive review in: "Reviewed Work: Paul's Early Period: Chronology, Mission Strategy, Theology by R. Riesner," Review by: James D. G. Dunn, Novum Testamentum Vol. 42, Fasc. 3 (Jul., 2000), pp. 296-297*)



**Above:** Tacitus, Austrian Parliament Building,  
Vienna  
*(Dec 05 2009 photo of statue by unknown artist, white)*

oooooooooooooooooooooooooooo

75a 私はここでチャドウィック氏を引用し、  
チャドウィック氏はブラウン氏を引用し、  
ブラウン氏はジョセフ・布林ツラー氏の  
1969年の研究を引用しています。 **100人の**

学者のうち53人が「AD30（西暦年）がイエスの死の日に違いないと主張している」。  
[100人中：]

それぞれ1人から3人の学者が、26年、27年、28年、31年、32年、36年を選んだ。13人が西暦29年、**53人が西暦30年**、24人が西暦33年を選択した。  
*("Dating the Death of Jesus Christ," BYU Studies Quarterly, Volume 54:4 (2016), by Jeffrey R. Chadwick, who cites: The Death of the Messiah, 2 vols. (New York: Doubleday, 1994), 2:1375, by Raymond E. Brown)[1]*

<sup>75b</sup> チャドウィック氏は、「調査した学者の絶対多数が西暦30年を支持していることは明らかであり、西暦33年よりも西暦30年の方が**2対1以上**の割合で好まれている」と



コメントし、調査した学者の「絶対多数」が西暦30年を支持しており、西暦29年よりも西暦30年に**4対1**で傾いていると述べている[2,3]。

<sup>75c</sup> ブリンツラー氏による **Der Prozess Jesu** の英訳版 (**The Trial of Jesus** と呼ばれ、1959年の研究が72-73ページに掲載されている) では、人数に若干の違いがあるが、西暦30年を「宣言」する学者が大きい方の数字36人と多く、20人が西暦33年を、そして10人が西暦29年を選択している。9人はこれら以外の年を選択しており、合計75人の学者 ( $36 + 20 + 10 + 9 = 75$ )、うち36名が西暦30年を支持し (48%)、20人 (27%) が西暦33年を支持していることになります。私は1969年の研究を見ていませ

んが、先ほどの英訳を私なりに検討したところ、西暦30年はわずかに少数派（36/75）でありながら、西暦33年よりも80%多く支持されていることがわかりました（ $36 = 1.8 \times 20$ 、 $1.8 = 100\% + 80\%$ ）。初期の版は後期の版を支持しており、どちらの場合も実質的に多くの学者が西暦30年を支持していることがわかります。

[1]("*Dating the Death of Jesus Christ*," *BYU Studies Quarterly*, Volume 54:4 (2016), by Jeffrey R. Chadwick, **who cites:** *The Death of the Messiah*, 2 vols. (New York: Doubleday, 1994), 2:1375, by Raymond E. Brown)

[2]("*Dating the Death of Jesus Christ*," *BYU Studies Quarterly*, Volume 54:4 (2016), by Jeffrey R. Chadwick [emphasis ours, Ed.]

[3](*Der Prozess Jesu* (1969), pp. 101-102, by Josef Blinzler, **cited in:** "*Dating the Death of Jesus Christ*," *BYU Studies Quarterly*, Volume 54:4 (2016), by Jeffrey R. Chadwick)

[4](*The Trial of Jesus* (1959), pp. 72-73, by Josef Blinzler, transl. from the second revised and enlarged edition by Isabel and Florence McHugh)



**Above:** Elohim Creating Adam, Tate Gallery,  
London

*(1795 painting by William Blake, Watercolour, 420 x 535 mm)*

oooooooooooooooooooooooo

76 磔刑の日付の問題は、私たちが発見したように、ダニエル9:24-27の予言から正確な情報を得ることが出来ます[1-4]。したがって、単に多数決で勝ち取ったものではありません。それにもかかわらず、学者の支持を見るのは心強いものです。ただ、学者が

一般的な見解を代表しているとは限りません。だからこそ、西暦30年が最良の日付、あるいは唯一の日付と思われていても、常に提示されているわけではないのです。ブリントラー氏自身も、この日付は西暦30年であると主張しています。チャドウィック氏は、このドイツ人学者の研究以来、他の著名な学者も西暦30年を支持するリストに加えられていることに注目していますが、これは学者のレイモンド・ブラウン氏も同様です。私の記事**True**で述べたように、**真実の歴史への可能な道を「一つ」**見つけるだけで、出来事の歴史的真相を確認することができるのです[5]。

[1](*Paragraph 4-11, above*)

[2](*Paragraph 4-8, above*)

[3](*Paragraph 2-11b, above*)

[4](*Paragraph 2-9, above*)

[5](*True (2018), Ch. 8 paragraph 5, by Ward Green*)



**Above:** Adam and Eve in the Garden of Eden,  
Royal Collection, Windsor  
(1610s painting by Jan Brueghel The Elder, Oil on copper,  
48.6 x 65.6 cm)

oooooooooooooooooooooooo

77 イエスの場合は、ヨセフスがユダヤ古

代誌の中で2回言及しているが、イエスをメシアとして言及していることは、しばしばキリスト教的な再編集が疑われる。ヨセフスはタキトゥスと同様にイエスの復活後に生まれているが、ユダヤ人であるために聖書を知っている。旧約聖書でユダヤ人はモーセの後継者であるメシアに救いを期待するように教えられていたのだから、ユダヤ人がメシアに言及することの方が注目に値する[1,2]。さらに、キリスト教徒もユダヤ人も嘘をついてはいけないという命令が与えられているのだから、嘘つきを非難するのは馬鹿げている[3,4]。むしろ、嘘つきは聖書の訓練を受けずに利己的になってしまった人たちであることが多い[5]。人間の不完全さは、メシアと人間の罪を取り除く

彼の犠牲の必要性を強調している[6,7]。福音書の記述がなくても、私たちには証言がある[8]。1838年には、ヨセフスの著作は「パレスチナの歴史と古代のための」神の言葉に次ぐ「主要な資料」と述べていた[9]。

[1](申命記 18:15)

[2](イザヤ 9:6)

[3](出エジプト記 20:16)

[4](ヤコブ 3:14)

[5](テモテ第二 3:13)

[6](ヨブ 33:24)

[7](コリント第二 5:14-15)

[8](啓示 5:6)

[9](*Biblical Researches in Palestine, and in the Adjacent Regions (Journal of Travels in the Year 1838) (1838), Appendix I, vol. 2, p. 533, by E. Robinson and E. Smith*)

oooooooooooooooooooooooo



**Above:** Johannes Kepler (1610 painting)

78 上記の記述は、ヨセフスについてよりも、聖書について多くを語っています。パレスチナの歴史を研究するには、実は聖書が最も優れた資料であると言っているのです。イエスの生涯を描いた2つの福音書、マタイとヨハネは、実際にその出来事を目撃しています[1,2]! これらの記述、ルカとマ



ルコの書、そしてルカによる使徒行伝の第1章から、私たちはこのイエスについて最も正確な理解を得ることができます。この時代は、イエスの誕生年に近い年から起算されています。年号は間違っているとしても、イエスの時代を示すために設立されました。ディオニュシウス・エキシグウスは、西暦525年に、**その年が主の受肉から525年である**と述べた。今日まで、私たちはその同じ推定値から年を計算しています。これは、イエスがメシアであることの何よりの証拠かもしれません。しかし、聖書にはこの同じ事実を証明するものがたくさんあります。聖書に預言されていることはすべてメシアについて成就しなければなりませんでしたが、イエスはそのすべてを成就し、ユダヤの神殿とその奉仕活動に終止符を打ち

ました[3-5]。

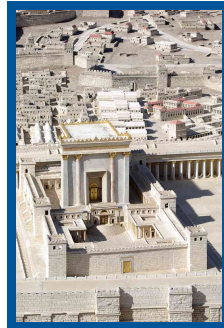
[1](マタイ)

[2](ルカ)

[3](マタイ 5:17)

[4](ローマ 10:4)

[5](マタイ 24:2)



**Above:** Model of Herod's Temple in Jerusalem,  
Shrine of the Book exhibit at the Israel Museum,  
Jerusalem  
(Nov 09 2008 photo)

oooooooooooooooooooo

7<sup>9a</sup> もちろん、イエスがこの世に現れてからの数年間、ユダヤ教の神職の中でキリスト教に抵抗する人々は、まだ来ないメシアへの信仰を存続させようとしていた。イエスが復活した後の西暦30年には、復活したイエスを見たり、その話を聞いたりした多くのユダヤ人が信者になった[1]。イエスは宣教期間中、信じる者に対して、自分との新しい契約に加わり、天の支配者となってイスラエルを裁くことを提案していた[2]。黙示録では、**新しい歌**を歌って14万4千人と記されている[3]。黙示録4:4では、24人の長老が24の座に座っている[4]。しかし、すべての国、部族、民族、舌から、**誰も数え切れないの大群衆**が預言されていた、とな

りました1935年に地上で認識されている  
[5,6]。

7<sup>9b</sup> それ以来、「大群衆が」は数を増やしている[7]。信じていないユダヤ人信者は、今でも神に好かれている、戻ってきて最初の時のように彼の選ばれた民となるように、神は好意的である[8]。しかし、他の国々も西暦33年から招待されている[9]。

[1](使徒 2:41; 4:4; 5:14; 6:7)

[2](ルカ 22:29)

[3](啓示 14:1-5)

[4](啓示 4:4,10; 5:8; 11:16; 19:14)

[5](啓示 7:9,10)

[6](*Jehovah's Witnesses— Proclaimers of God's Kingdom* (1993), Chapter 12, pp. 166-170, *The "Great Crowd"-- Who Are They?*)

[7](*The Watchtower*, Dec 15 1982, *Love as a "Bond of Union", Proves to Be "Perfect,"* pp. 17-22, par. 6)

[8](ローマ 11:24)

[9](*Paragraph 2-10b, above*)

oooooooooooooooooooooooo



**Above:** St. John the Baptist, City Art Gallery, Manchester (*c. 1676 painting by Baciccio, Oil on canvas, 184 x 119 cm*)

7<sup>10a</sup> イスラエルはキリスト教の真のルーツで

あり、国民全体がメシアであるイエスを受け入れることができなかつたために、木全体を構成する機会を失っただけなのです [1]。したがって、私たちは自分たちの「立場」に満足してはいけません [2]。すべての人が罪を犯し、神の栄光を受けることができませんでしたが（ローマ3:23）、エホバは私たちをととても愛してくださっているので、エホバの愛の贈り物を受け入れるかどうかは私たち次第なのです [3]。これらの贈り物の一つが身代金の犠牲であり、私たちがそれを受け入れさえすれば、私たちの罪がすべて取り除かれるのです [4]。神はすべての人に、たとえ信じていない人にも与えられます [5,6]。同様に、私たちもすべての人に与えますが、特に私たちの種族に与えます [7]。私たちは、神の聖なる者たちの同

胞であることを願っています[8]。悪魔は、私たちの兄弟を嘘をついて非難し、住んでいる地球全体を巧妙に惑わす者です[9-11]。

7<sup>10b</sup> 願わくば、サタンの嘲笑をはねのけることができるように[12]。エホバは、アブラハムの子孫によるすべての国民の祝福を望んでいる[13]。アブラハムの子孫であるイエス様は、その祝福を私たちに与えてくださいます[14,15]。ときには孤独を感じることもあるが、私たちには兄弟がいるかもしれない[16,17]。エリヤはそのように感じ、自分が7,000人のうちの一人であることを知った。

[1](ローマ 11:17-20)

[2](ローマ 3:9)

[3](ローマ 3:24)

- [4](ローマ 3:29)
- [5](マタイ 5:45)
- [6](詩編 145:16)
- [7](ガラテア 6:10)
- [8](エフェソス 2:19)
- [9](啓示 12:9-10)
- [10](ルカ 8:44)
- [11](マタイ 4:1)
- [12](ヤコブ 4:7)
- [13](創世記 22:18)
- [14](ガラテア 3:16)
- [15](マタイ 1:1-16)
- [16](列王第一 19:18)
- [17](ローマ 11:5)

oooooooooooooooooooo

7<sup>11a</sup> 一時的な満足では、最大の喜びを得ることはできません[1-5]。パウロは、キリスト



に仕えることで多くの喜びを得るために、自分の働きの中で多くの苦しみを受けることをいとわなかった人です[6]。自分が認められるためではなく、人を助けるためにやったのだ[7]。

7<sup>11b</sup> ペテロは、善を行うために苦しむ方がよいことを知っていた[8]。正しい人の苦悩は多くあるが、エホバはこれらの苦悩のすべてから彼または彼女を解放する[9]。

7<sup>11c</sup> イエスは弟子たちに、世間では艱難辛苦を経験彼らするが、自分はそれを乗り越えたと言った[10]。エホバについては、天を創造した。尊厳と輝きが彼の前にあるように、力と喜びも彼のものである[11]。

[1](ガラテア 3:3)

[2](ペテロ第一 4:2)

[3](ローマ 13:14)

[4](創世記 3:6)

[5](使徒 20:35)

[6](コリント第二 11:23; 12:10)

[7](コリント第二 13:7)

[8](ペテロ第一 3:17)

[9](詩編 34:19)

[10](ルカ 16:33)

[11](歴代第一 16:26-27)



**Above:** Rest during the Flight to Egypt, Pinacoteca,  
Vatican

*(Painting by Francesco Mancini, Oil on canvas, 136 x 100 cm)*

oooooooooooooooooooooooo

7<sup>12a</sup> メシアの重要性は、アダムとエバの罪から全人類が失ったものの、すなわち永遠の命の希望を取り戻すために、全人類に提供されるものとしてあります。メシヤの到来時期は、初期の聖書で提供されていた他の識別手段に加えていました。ダニエル9:24-27の予言は、西暦26年と西暦30年が、彼の洗礼と磔刑に予想された年に最も適合することを知る助けとなりましたが、他の学者によって提示された見解は数多くあり、私たちが明らかにした日付の1つ以上を修正しています[1]。

7<sup>12b</sup> 例えば、ある学者はイエスの宣教期間を

2年半としていますが、同じ人たちはヘロデ王の18年目からイエスの宣教の最初の過ぎ越しの祭りまでを46年＋数ヶ月とすることを好んでいます。つまり、ヘロデ王の第18年を紀元前20年の終わり、または紀元前19年の初めとしている。その中には、チャドウィック氏とブリントラー氏がいます[2,3]。彼らの推論は、彼らと私たちの両方が磔刑の年として与えている西暦30年には影響しませんが、ティベリウスの第1年を西暦14年とする可能性を与えています[4,5]。ダニエルの「週の半ば」は、私たちの意見としては、の方が良いと考えています、彼の宣教の始まりと終わりをそれぞれ西暦26年と西暦30年とし、最初の過ぎ越し祭を西暦28年ではなく西暦27年としていると考えられます。

7<sup>12c</sup> どちらにしても科学的な論拠はないようですが、それでもダニエル書の成就の必要性は、メシアを受け入れるための第一条件と見なしたいと思いますし、実際にイエスが信じられたという証拠もあります。これはメシアの物語にとって重要なことであり、候補者を拒否する理由は、彼を受け入れる理由よりも優先されます。ここでは、エホバも私たちと同じ視点を持っていると考えています。なぜなら、「週の半ば」は2.5ではなく3.5なので、信者は前者を選択するのです。

7<sup>12d</sup> ダニエルの「週の半ば」を無視することは好ましくありません。なぜなら、この預言の成就是、すべてのメシアの預言と同様に、私たち信者にとって重要だからです

[6]。学者たちは、たとえ彼らが同意したとしても、これを研究し続けます。疑う視点からの奨学金は間違っている。なぜなら、疑う人は自分の結果を信じることさえできないからだ[7,8]。ユーセビアスの時代（西暦260～340年頃）から西暦1905年まで（または千年半）の間、「一般的に受け入れられている」見解は、イエスの宣教期間が3年を超えるというものである[9]。潜在的な、あるいは一般的な反対意見のすべてに反論することは合理的でもなく、不可能でもない--私たちは望むと望まざるとにかかわらず、私たち全員に自由意志を与えられているのだから[10,11]。オッカムのカミソリ [Occam's razor] は、焦点が合っていて明るい見方を支持します[12,13]。

- [1](*"The Chronology of Jesus' Public Ministry," The Biblical World Vol. 26, No. 6 (Dec., 1905), pp. 425-430, p. 425, by Clyde Weber Votaw*)
- [2](*"Dating the Death of Jesus Christ," BYU Studies Quarterly, Volume 54:4 (2016), by Jeffrey R. Chadwick*)
- [3](*The Trial of Jesus (1959), p. 74, by Josef Blinzler, transl. from the second revised and enlarged edition by Isabel and Florence McHugh*)
- [4](*"Dating the Death of Jesus Christ," BYU Studies Quarterly, Volume 54:4 (2016), by Jeffrey R. Chadwick*)
- [5](*The Trial of Jesus (1959), p. 73, by Josef Blinzler, transl. from the second revised and enlarged edition by Isabel and Florence McHugh*)
- [6](ダニエル 9:27)
- [7](ローマ 14:23)
- [8](ヤコブ 1:6)
- [9](*"The Chronology of Jesus' Public Ministry," The Biblical World Vol. 26, No. 6 (Dec., 1905), pp. 425-430, p. 428, by Clyde Weber Votaw*)
- [10](ヨシュア 24:15)
- [11](ルカ 7:17)
- [12](マタイ 6:22)
- [13](ルカ 11:34)

第7章 結束： 確実な証しでローマを耐えるクリスチャンたち



**Above:** Adam and Eve, Kunsthistorisches Museum, Vienna (c. 1485 painting by Hans Memling, Oil on oak, 69.3 x 17.3 cm (each))

## 第8章：神はアブラハムの新生児を永遠の日に救い出される

<sup>81</sup> アブラハムが、エホバの命令を受けても、息子のイサクを犠牲にしようとしていたとき、天使によって猶予が与えられました[1]。アブラハムの子孫であるイエスが、



The orders from Jehovah are upright, causing the heart to rejoice; The commandment of Jehovah is clean, making the eyes shine. *(Psalms 19:8, New World Translation (1984))*

エホバの命令は正しく、心に喜びが生まれる。エホバのおきては清く、目が開かれる。  
*(詩編 19:8, 新世界訳聖書 (スタディー版) 2019, 2020)*



**Above:** The Sacrifice of Isaac, Private collection (17th century painting by Philippe De Champaigne, oil on canvas, 70.7 x 58.8 in)

その犠牲を引き受けた[2-7]。エホバ

によるイエスの天への復活は、イエスに永遠の命を与え、神に次ぐ力を与えました[8-15]。ヨハネは、イエスがエホバだけから生

まれた神の言葉であり、他のすべてのものが創られた霊の被造物であることから、「言葉が肉となった」と書いている [16,17]。聖書は、イエスがアダムの罪のために全人類の身代りとなって、自分をへりくだらせ、死に至ったと教えている [18-20]。マタイやヨハネと同様に、ペテロもまたイエスの素晴らしさを目撃した一人であり、彼が『手紙2』で記しているように [21]。「どの預言も、人間の考えによって語られたものではありません。人が聖なる力に導かれて、神からの言葉を語ったのです」 [22]。ダビデ王の時代には、カナンの地の贈与を含むアブラハムへの約束を覚えていた。 [23,24]。ダビデは、イエスの母が子孫を残したアブラハムの息子であり、その血筋から王が生まれることを約束されてい

た。[25-27]。ジェシーはダビデの父であり、その切り株からは、イザヤによって新芽が実ると預言されていました。[28,29]。預言者エレミヤは、ダビデに新芽が育ち、その人が正義の人となることに同意しました。[30]。

[1](創世記 22:11-12)

[2](創世記 21:12; 22:18)

[3](ローマ 9:7)

[4](ヘブライ 11:18)

[5](ペテロ第一 3:18)

[6](ヘブライ 9:28)

[7](イザヤ 53:6)

[8](ペテロ第一 3:22)

[9](マタイ 28:18)

[10](コリント第一 15:25)

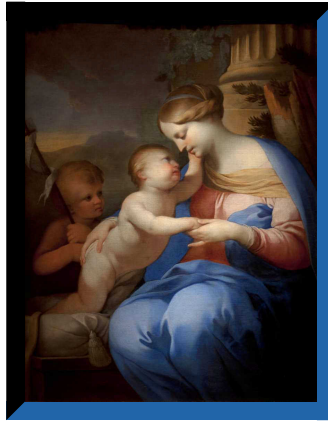
[11](エフェソス 1:21)

[12](フィリピ 2:9)

[13](コリント第一 15:24-25)

[14](詩編 110:2)

- [15](ダニエル 2:44)
- [16](ルカ 1:14)
- [17](コロサイ 1:16)
- [18](フィリピ<sup>°</sup> 2:8)
- [19](マタイ 20:28)
- [20](コリント第一 15:22)
- [21](ペテロ第二 1:16)
- [22](ペテロ第二 1:21)
- [23](歴代第一 16:15-18)
- [24](創世記 15:18)
- [25](詩編 89:4)
- [26](詩編 132:11)
- [27](ルカ 1:32)
- [28](イザヤ 11:1,10)
- [29](サムエル第一 17:58)
- [30](エレミヤ 23:5; 33:15)



**Above:** The Virgin with the Infant Jesus and St. John the Baptist, Musée des Beaux-Arts, Rennes  
(Painting by Lubin Baugin, Oil on canvas, 120 x 93 cm)

oooooooooooooooooooooooooooo

82 ゼカリヤは預言的にエホバのしもべを芽と名付けました[1]。これらの聖句の実現のために、イエスはナザレの町で育てられますが、その意味は芽生えの町[2]。預言者ミカは、メシアがイエスの出生地であるベツレヘムから来ることを示していたが、使徒ヨハネはこの点に関する混乱を記している

[3-5]。ホセア11:1では、メシアはをエジプトから呼び出したと預言されていましたが、イエス様の場合はそれが実現しました。すなわち、イエス様が幼い頃、両親はヘロデを恐れてエジプトに逃げ、その後、ヘロデが死んだと聞いて戻ってきたのです[6,7]。エレミヤは子供の殺害について預言していましたが、これはヘロデ王が行った虐殺によって実現しました[8,9]。マタイは2:22でアルケラウスをヘロデの息子とすることで、イエスの誕生時に支配していた「ヘロデ」がヘロデ大王であることを明らかにしています。イエスは、イザヤがメシアの誕生を乙女に託すと預言したように、まだ処女であった母マリアに聖霊が臨み、覆いかぶさったことによって宿った[10,11]。イエスがこれらの預言をすべて満たし、奇跡を起

こすことができたことで、彼がメシアであることが明らかになった[12,13]。東方から旅してきた占星術師たちが「星」を見て、イエスが生まれた頃にエルサレムに来て彼を信じたことも前述した[14]。

[1](ゼカリヤ 3:8)

[2](マタイ 2:23)

[3](ミカ 5:2)

[4](マタイ 2:1,6)

[5](ルカ 7:42)

[6](ホセア 11:1)

[7](マタイ 2:15)

[8](エレミヤ 31:15)

[9](マタイ 2:17-18)

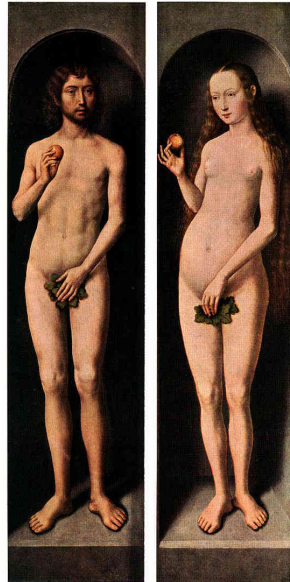
[10](ルカ 1:34)

[11](イザヤ 7:14)

[12](マタイ 11:5)

[13](ルカ 21:25)

[14](Paragraphs 3-8a; 3-10, 3-11; 3:12a,b)



**Above:** Adam and Eve, Kunsthistorisches Museum, Vienna (c. 1485 painting by Hans Memling, Oil on oak, 69.3 x 17.3 cm (each))

oooooooooooooooooooooooo

83 メシアがアダムの創造から6番目の千年紀に到着したことは、1日が1000年に相当する週7日制の概念（詩篇90:4）を理解していたユダヤ人の間では予想されていたことでした



たが、イエスは紀元前6年、アダムから5544年後のBGに誕生したにもかかわらず、ユダヤ人の指導者たちに拒絶されました（年の足し算では77×72年）。この5544年は、第6千年紀アンノ・ムンディ [AM] (Anno Mundi) の中間点のメシヤが到着すると予想される時期に近く、通常の週の安息日と呼ばれる主の日、つまり休息の「日」である「週」の7日目の前の「日」、つまり千年紀になります。ユダヤ人は、イエスが自分たちの仲間であり、メシアとして預言されているすべてのしるしを示していたにもかかわらず、イエスを拒絶したので、イエスの到来時期に関して厄介な立場に置かれ、それは彼らがメシアの到来を期待していた時期にも非常に近かったので、**Preservation**の記事にもあるよう

に、彼らは心の中で聖書を変えざるを得ませんでした[1]。そのため、後世のユダヤ人のマソレティック写本（マソラ本文）は、初期のヘブライ語版を正確にギリシャ語に翻訳したギリシャ語版セプトゥアギンタ（七十人訳聖書）とは異なるものになっています。

[1](*Preservation (2019)*, by Rolf Ward Green)



**Above:** Summer (Ruth and Boaz), Musée du

Louvre, Paris (1660-1664 painting by Nicolas Poussin, Oil on canvas, 118 x 160 cm)

oooooooooooooooooooo

84 アダムの創造の年である紀元前5550年は、7と1/7を777倍した驚くべき神の産物に等しいのですが、その理由はエホバだけが知っています。なぜなら、コモン・エラの設計者は、エホバでない限り、5550のことを知らなかったからです。フレデリック3世が戴冠した西暦1452年のハプスブルク王朝から始まった新世界は、この西暦1年という基準点に依存することなく、アダムから7000年後になります。「ゼロ」年はなく、アダムは紀元前5550年3月19日以降に創造

され、7000年という神の「週」が完成したのは、西暦1452年のこの頃ですときにコンスタンティノープルが陥落してローマ帝国が終焉を迎えた西暦1453年、フン族のアッティラの侵攻によりの1000年後。西洋帝国の崩壊は、アッティラがイタリアに侵攻した西暦452年とほぼ同じ年に始まっており、イタリアの最後の皇帝は西暦476年に退位した。聖書の主の日（審判の日）は、7000年の週の7日目にあたる1000年の期間とされており、メシアは6日目に到着するとされている。主の日は、キリスト教では日曜日とされていますが、これはユダヤ教の週の終わりである土曜日の安息日が7日目の休息日となった後、新しい週の最初の日とされています。イエスは「父は働き続けておられた」と述べており、これも安息日の前であ

ることと一致する[1]。イエスは安息日に奇跡を行い、ユダヤ教指導者の中で敵を激怒させた。しかし、1000年という大きなスケールでは安息日ではなかった。

[1](ルカ 5:17)



**Above:** Enea Silvio Piccolomini Presents Frederick III to Eleonora of Portugal, Fresco Piccolomini Library, Duomo, Siena, Italy (1502-1508 painting by Pinturicchio, Fresco, detail)

oooooooooooooooooooooooo

85 預言的な意味では、メシアは、物事のシステムの終わりが来る前、安息日が始まる前に、6日目に癒しの業を行うことになっていました。したがって、千年の安息日、すなわち審判の日は、（ヨセフとオン [Joseph and On] で見たように）イエスから約400年後に始まる期間と考えることができる。その千年安息日の後、「ルネサンス」が始まりました。西暦1452年にはレオナルド・ダ・ヴィンチが誕生し、当時の誰よりもルネサンスを代表する人物となりました。アッティラが死んだのは西暦453年、ビザンチウム（コンスタンティノープルまたはイスタンブール）が陥落した西暦1453年の1000年前です。ユダヤ教の神殿崇拜制

度は西暦70年に終わりましたが、これらの出来事と時系列の一致は、イエスがメシアであることを示しています。彼の復活は、重要なこととして、イエスが永遠に生きて私たちを助けてくれること、そして、すべての人が裁かれる復活が来ることを私たちに保証しているのです[1,2]。ユダヤ教の制度が終わったように、今日の世界の悪しき制度も霊的な火によって滅びるのです[3]。この希望は、私たちクリスチャンを強くし、喜びをもたらしてくれます[4]。

[1](使徒 17:31)

[2](使徒 24:15)

[3](ペテロ第二 3:12)

[4](コリント第二 12:10)



**Above:** Moses Striking the Rock, Metropolitan Museum of Art, New York (1596 painting by Abraham Bloemaert, Oil on canvas, 80 x 108 cm)

oooooooooooooooooooooooo

86 ユダヤ語の聖書には、イエスの地上の生活に相当する出来事がたくさんあり、ギリシャ語の聖書はそのような真実を記録するために書かれました。それ以前のヘブライ語の聖書の成就是、メシアをどれだけ特定できるかに大きく関係しています。しか



し、この記録自体、特に福音書は、現代の人々が自分でこれらの事実を調べることを可能にしています。モーセの時代、イスラエルが40年間荒野をさまよっていたとき、イエスは約束の地に着くまで、昼は「雲の柱」、夜は「火の柱」という形で彼らを導いていました[1-4]。モーセが人生の終わりに近づいても、この同じ柱は彼らと一緒にいて、エホバが彼らを赦すために、また「彼らを処罰彼らが罪深いことを行ったから」を実行するために、彼らに語りかけるガイドとしての役割を果たしており、キリスト自身を表す霊的な岩塊でした[5-7]。荒野の放浪が終わったのは、以前にBG年表で紹介したように、紀元前1452年で、これは西暦1452年から支配していたハプスブルグ家のフレデリック3世の共通時代の年代と真

逆のポイントです。共通時代の「鏡」の中で、イエスはフレデリック3世に直接対応する指導者となります。共通時代の「鏡」の中で、イエスはフリードリヒ3世に直接対応する指導者となります。フリードリヒは西暦1493年に亡くなりますが、雲の柱としてのイエスは、BG年表ではモーセがエジプト脱出でイスラエルを導いた紀元前1493年に指導を開始しています[8-11]。

[1](出エジプト記 13:21,22)

[2](出エジプト記 14:24)

[3](民数記 14:14)

[4](ネヘミヤ 9:12,19)

[5](申命記 31:15,16)

[6](詩編 99:7,8)

[7](コリント第一 10:4)

[8](*The Crucible of Credible Creed (2012), Ch. 11 paragraph 7, by Ward Green et al.*)

[9](*Joseph and On (a.k.a. On, a.k.a. Poseidon) (2010), by*

*Ward Green)*

[10](*Phoenix (a.k.a. Redemption of the Phoenix)*, by *Ward Green and A. R. Rutledge*)

[11](*Joseph (a.k.a. Joseph, Ruler of Egypt) (2009)*, by *Rolf Ward Green*)



**Above:** Frederick III Crowning Enea Silvio Piccolomini with a Laurel Wreath, Fresco Piccolomini Library, Duomo, Siena, Italy (1502-1508 painting by Pinturicchio, Fresco, detail)

oooooooooooooooooooooooo

87 以上のことから、信仰を持つ者は、人間以前の存在であるイエスが、エホバの人類への対応においていかに重要な役割を果たしたかを理解することが重要です。箴言8:30によると、人間以前のイエスは、イスラエルが国家として存在する前、さらにアダムが創造される前から、エホバとともに建築の名人として働き、万物を創造するという、さらに重要な役割を果たしていました[1,2]。箴言8:22とコロサイ1:15は、イエスが全創造物の中の初子です、エホバの昔の偉業の最初。イエスは、人間の母との間に生まれたときに初めて「イエス」（ヘブライ語では「イエホシュア」）という名を受けました。また、ヨハネの黙示録

12:7で悪魔を倒した大天使ミカエルとして知られ、ダニエル書やユダ書でもエホバの天使の筆頭として言及されています[3,4]。ソロモン王が型となった反典型的な王であり、ソロモン王はイスラエルの地上の栄光の絶頂期（エホバの第一神殿が建設された時期であり、神の民にとっては非常に重要な時期）にイスラエルを支配した非常に賢明な王であることから、ある意味でメシアを予見していることは明らかです[5,6]。つまり、ソロモン王は、イスラエルの希望である、より偉大な、反典型的な王のための預言的な型なのです。

[1](格言 8:22-30)

[2](コロサイ 1:16)

[3](ダニエル 12:1)

[4](ユダ 9)

[5](列王第一 3:8-4:34)

## [6](列王第一 6:1)

oooooooooooooooooooooooo



**Above:** Holy Family with St. Elisabeth and the Infant St. John the Baptist, Christian Museum, Esztergom, Hungary (*c. 1550 painting by unknown master, Oil on canvas, 170 x 106 cm*)

88 上で見たように、イエスの誕生は紀元前6年に非常に近い時期に起こりました。この時期は、私たちのブレスト・グリーネアロジーでは、ソロモン王が第一神殿を完成させた年の約1000年後にあたります（1キングス6:37,38から、ソロモン王の神殿は王の11年目の8月に完成し、BGの年表では紀元前1017年が王の1年目にあたるので、紀元前1007年がその年になります）。ヘブライ語の世俗暦は1年が第7月（ティシュリ）から始まるので、紀元前1007年は紀元前1006年のティシュリで終わると考えることもでき、これによりイエスの誕生年は第一神殿完成の年から1000年も離れた、非常に正確な年となります。この期間が1000年であることの重要性は、すでに述べたよう

に、1000年ごとに構成される7日間の週の考え方からもわかります。メシアはそのうちの1日を支配すると期待されていますが、週の6日目にならないと到着しないと考えられています。つまり、ソロモンは、私たちの年表ではアダムの後約4500年後（紀元前1007年）に到着しているのです。明らかにメシアではありませんが、メシアの支配を典型的に示しているのです。記事では**Green**、私は、ソロモンとシバの女王との結婚から生まれたエチオピアの王たちについて書きまし、どのようにしてソロモンの息子メネリク王の年代は紀元前975年とされています。この年代は、「キリストの時代まで完全」とされるエチオピアの王のリストから見えています（1治世あたり平均16年）



[1,2]。ソロモンの治世の正確な時期は、以前の記事でも述べたように（記事Josephのように早くからの頃から）、神殿の軸合わせ（ライディングー[Mr. Reidinger's]氏の研究による）だけでなく、神殿が破壊された日（紀元前587年、**B4 Chronology 第1章**）、のデッドレコニングをのを利用してイスラエルとユダの王の正確な年号で聖典に見られるように[3]。

[1](列王第一 10:1-13 and 歴代第二 9:1-12 シバの女王については言及されているが、メネリクについては言及されていない。)

[2](Green (2009), by Rolf Ward Green)

[3](列王第一 11:42-列王第二 25:10; 歴代第一 28:6, 歴代第二 9:30-36:11)

oooooooooooooooooooo

8<sup>9a</sup> このように、イエスがメシアとして登場した時期は、イエスに期待されていた年表と一致する部分が多いのです。しかし、もう一つ、イエスがメシアとして登場するタイミングが、預言の中で信者に示されていたのです。それは、ネブカドネザルの夢に基づいて書かれたダニエル書第4章の「7つの時」という預言です（ダニエル書にはもう一つの預言があります）。「時」を「360日」の預言年とし、「日」を「1年」とすると、「7つの時」は「360年の7倍」となり、ちょうど「2520年」となり、エホバの民が「異邦人支配」を受けた期間である「異邦人の時」を表しています。この異邦人支配の時代とは、政治的な概念であり、エホバの民にとって大きな苦難の時代を意味します。しかし、ネブカドネザルの時代には、

権力を失って獣のようになり、草木を食べ、髪の毛や爪を無秩序に伸ばして、人間から離れていく「7回」（おそらく「年」）を意味していました。

<sup>89b</sup> しかし、この預言のより大きな成就是、エホバ神自身の民とその統治権に適用されました。紀元前1100年にサウル王がエホバのために自律したイスラエルの王として始まったイスラエルの王権は、その約490年後、ヨシヤ王が紀元前609年にパレスチナのメギドでエジプトのファラオ・ネチヨ2世との戦いに敗れて、そのイスラエルの自律性を失ったことで終わりを迎えました。この出来事の時期は、紀元前587年のエルサレムの破壊の日からも、エジプトの年表からも非常によく知られています。一方、その輸

入は、異邦人の時の始まりとなったのです。

oooooooooooooooooooooooo



**Above:** The Garden of Eden, Städelisches Kunstinstitut, Frankfurt (*c. 1410 painting by unknown master, German, Tempera on wood, 26 x 33 cm*)

8<sup>10a</sup> 地上におけるイスラエルの王権の自律性の「死」が「86」という数字で表せるとすれば、イエスが地上に来られたのも、その7×86（602）年後である：

**609 - 7 x 86 = 紀元前7年  
(86の「7つの時」)**

このように、異邦人の「7つの時」は、メシアの誕生または受胎の時点で、イエスの中で部分的に成就していましたが、イエスはその時点でイスラエルに王権を回復したわけではありませんでした（イエスが信者たちに説明したように） [1]。それどころか、イエスの時代にユダヤ人が利用していた神殿は、イエスの磔刑と復活からわずか40年後に破壊され、地上の王国に対するユダヤ

人の希望は、その時点では失われていたことがわかりました。エルサレムは70年に破壊されたが、これはイエス・キリストが復活した西暦30年後の40年後に来る。

<sup>8</sup><sub>10b</sub> エルサレムの最初の破壊は紀元前587年、つまり磔刑の西暦30年前の616年前に起こっており、ここにも「7つの時」の成就を見ることができます。88の「7つの時」は616です。

$$7 \times 88 = 616 = 587 + 30 - 1$$

(88の「7つの時」)

西暦30年にイエスが天に昇ったとき、信者に王国の力が回復するという非常に現実的な出来事がありました。ですから、異邦人

の「7つの時」は、預言がしばしばそうであるように、1つではなく、複数の方法で成就していると考えられます。

[1](使徒 1:6)

oooooooooooooooooooo

8<sup>11a</sup> この預言的な言葉に加えて、エホバの民は、1914年に先立つ数十年間に「7つの時」が実現する大きな方法に注目し、ものみの塔[Watchtower]誌において、異邦人の時の成就が西暦1914年までに到来すると指摘された[1,2]。当時知られていた大戦は、1914年に勃発した際に、当時「知られ

ていた」世界が終わったことを暗示するという意味で、顕著な成就であった[2]。それ以来、大量殺戮が私たちに迫っている。しかし、キリスト教徒にとっては、それは体制の終わりを意味していた[3]。しかし、第17条の**Preservation**に記されているように、同じ予言の別の成就がさらにあったのである[4]。

<sup>811b</sup> 1948年5月14日、ユダヤ人国家イスラエルが世界的な権力を取り戻したのである。これは、紀元前608年以來、365の「7つの時」（=2,555日、または2,555年）の間隔をおいて初めての出来事である。ヨシヤがファラオ・ネチヨ2世に殺された後、エジプトがイスラエルの王権を支配していたが、エホヤキムの3年目にバビロンのネブカドネ



ザルが支配し、その後キュロスと歴代ペルシャ王がイスラエルの統治者を支配し、セレウコス王（ハスモン教の一時的な支配を除く）、続いてローマ、イスラムのカリフ、オスマンが支配した（いずれも西暦1948年のイスラエルより前）。

<sup>811c</sup> この2,555年という期間の中で、例外的にハスモン朝がローマ帝国の承認を得て独立した紀元前110年から紀元前63年までの約47年間は、エホバのみの下で独立したとは言えないかもしれません。しかし、1948年にイスラエルが宣言されたのも、1917年にイギリスがパレスチナにユダヤ人の国民の家を建てることを支持するバルフォア宣言と呼ばれる声明を出していたので、地上の援助がないわけではありませんでした。紀

元前608年から紀元前111年のハスモン王朝の支配者ジョン・ヒルカヌスまでの期間を数えると、「7つの時」になる:

$$608 - 7 \times 71 = 608 - 497 = 111$$

(71の「7つの時」)

紀元前111年から西暦1948年までの期間は2058年であり、「7つの時」という要因で3重に神格化されているような数字である:

$$7 \times 7 \times 7 \times 6 - 111 + 1 = 2058 - 110 = \text{西暦1948年}$$

(「7つの時」、7の3乗×6)

8<sup>11d</sup> 紀元前608年から西暦1948年までの全期間を見ると、次のようになる:

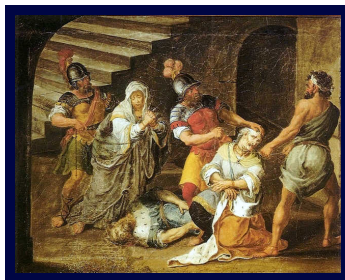
$$7 \times 365 - 608 + 1 = 2555 - 607 = \text{西暦1948年} \\ (\text{365の「7つの時」})$$

[1](*God's Kingdom Rules!* (2014) p. 15, paragraph 10, *The Watchtower Bible and Tract Society*)

[2](*The Watchtower Announcing Jehovah's Kingdom* (May 01 1982) p. 13, par. 7, *The Watchtower Bible and Tract Society*)

[3](マタイ 24:3)

[4](*Be. 'Preservation'* (2019), Ch. 11 paragraph 11, by Rolf Ward Green)



**Above:** A morte de Judas Macabeu, Bahia Museum of Art, Salvador, Bahia, Brazil (18th-19th century painting by José Teófilo de Jesus, Oil on canvas, 48 x 64 cm)

oooooooooooooooooooooooo

8<sup>12a</sup> 「預言年」を360（30日ずつの12ヶ月）日とすると、紀元前608年から計算した「7つの時」は:

$$7 \times 360 - 608 + 1 = 2520 - 607 = \text{西暦1913年}$$

## (360の「7つの時」)

紀元前608年についての確信は、紀元前607年を異邦人の時の始まりとして完全に排除するほどのものではありません。だから、この年は十分に一致していると見てよいだろう。

<sup>812b</sup> 西暦1914年7月に第一次世界大戦が勃発し、当時の信仰者や聖書研究者の多くは、これをイエス様が天から支配し始めた証拠だと考えていました。ヨハネの黙示録12章9節によると、「大いなる竜」であるサタンがは、ある時、天から降ろされて、地上の国々を惑わす悪者となりました。第一次世界大戦は、この出来事の証拠と言えるでしょう。

8<sup>12c</sup> 復活したイエスは、メシアとして、エホバの天の国の王として、異邦人の時の予言に重要な役割を果たしていることがわかります。紀元前608年の異邦人の時の始まりは、エホヤキムの第1年でした。エレミヤの預言では、そこから70年間、イスラエルが異邦人に隷属する時代が始まり、イスラエルの神の王が奪われたため、当時のイスラエルにとっては荒廃の時となることが示されていきました[1-3]。したがって、異邦人の時はこの年に始まった、あるいは始まったと考えられることは明らかです。ちょうど69年後、キュロスがバビロンを占領し、エレミヤの預言の70年に終止符が打たれました。キュロスの第1年が前538年に始まり (608 - 70 = 538)、彼が前538年の

第1年に宣言したことで、イスラエルは解放され、ミニチュアの異邦人の時が終わりました（70年を7×10として）。

<sup>812d</sup> 使徒パウロがローマ人への手紙9:8で述べているように、エホバがアブラハムに約束した意図は、神が選んだ目的のためであり、「約束による子供が子孫」（単に彼の子孫ではない）ためであった[4]。メシアは、イエス・キリストの母マリアの血筋を通して、アブラハムの種から文字通りの子孫として来たが、祝福は「地上の家族全て」に及ぶはずであった。エホバはこのことを、キリストにつながる種の系統を選び、次男のヤコブがエサウを騙して生得権を奪うことを許したことで示しましたが、これもまた予告されていたことです[6]。だ

から、エホバの報われない親切によってのみ、キリストの中に種が与えられ、すべての国民を祝福することができたのです。アブラハムへの約束によって祝福されるのは、アブラハムの子孫だけではなく、今日のように、すべての国の人々です。アブラハムの子としてのダビデ王は、その成長について次のように語っています:[7]

神の前で私の家系はそのようではないだろうか。神は永遠の契約を私と結んだ。事細かに整えられた、確かな契約を。それは私にとって完全な救い、喜び。神が繁栄させてくださらないことがあるだろうか。

**(サムエル第二 23:5, 新世界訳聖書 (スタディー版) 2019, 2020)[7]**



8<sup>12e</sup> イザヤは後に、1914年以降に見られるような信仰者の数の増加について次のように預言している:[8]

小さな者が千人にもなり，取るに足りない者が強大な国民になる。私エホバが，定めの際にそれを速める。  
(イザヤ 60:22, 新世界訳聖書 (スタディー版) 2019, 2020)[8]

8<sup>12f</sup> 力は神の民に与えられ，再びイザヤが次のように書いている:[9]

しかし，希望を抱いてエホバを待つ人は，再び力を得る。ワシのように翼を広げて舞い上がる。走っても弱ることがなく，歩いても疲れ果てない」。  
(イザヤ 40:31, 新世界訳聖書 (スタ

## ディー版) 2019, 2020)[9]

[1](エレミヤ 25:11, *A New English Translation of the Septuagint* (2007; second printing with corrections and emendations, 2009), Edited by Albert Pietersma and Benjamin G. Wright: **"They shall be slaves among the nations seventy years."**)

[2](エレミヤ 25:11, *English translation of the Septuagint* (1851), by Sir Lancelot Charles Lee Brenton (1807-1862): **"They shall serve among the Gentiles seventy years."**)

[3](Paragraphs 9-2b and 9-5, below)

[4](ローマ 9:8, *New World Translation* (1984))

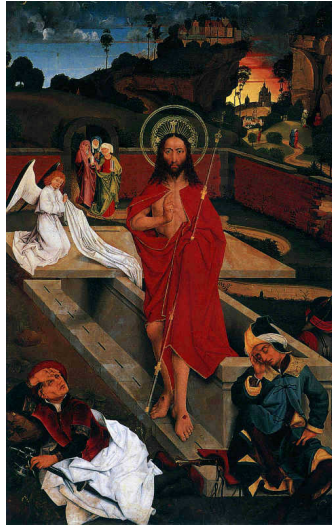
[5](創世記 12:3; 22:18; 26:4; 28:14)

[6](創世記 25:23)

[7](サムエル第二 23:5, *New World Translation* (1984))

[8](イザヤ 60:22, *New World Translation* (1984))

[9](イザヤ 40:31, *New World Translation* (1984))



**Above:** Resurrection of the Hof Altarpiece, Alte Pinakothek, Munich  
(1465 painting by Hans Pleydenwurff, Mixed technique on pine panel, 177 x 112 cm)

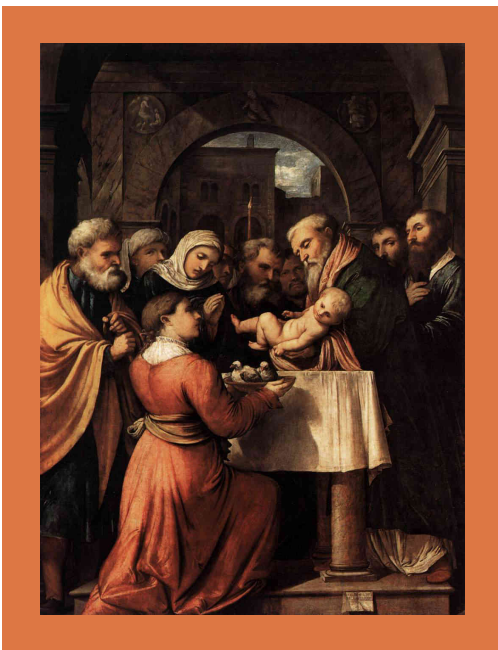
第8章 結束: 神はアブラハムの新生児を永遠  
の日に救い出される



**Above:** The Adoration of the Magi (Bargello)

Diptych), Museo Nazionale del Bargello, Florence  
(1380s painting by unknown master, Tempera on wood, 50 x 31  
cm)

## 第9章：異邦人の観察された年代測定のみとめ



The fear of Jehovah is pure, standing forever. The judicial decisions of Jehovah are true; they have proved altogether righteous.

*(Psalms 19:9, New World Translation (1984))*

エホバへの畏れは純粹

**Above:**

Presentation of  
Jesus at the  
Temple,  
Pinacoteca di  
Brera, Milan  
(1529 painting by  
Girolamo  
Romanino, Oil on  
canvas, 188 x 140  
cm)

で、永遠に続く。エホ  
バの裁きは真実で、全く  
正しい。

(詩編 19:9, 新世界訳聖書  
(スタディー版) 2019,  
2020)

<sup>91</sup> エホヤキム王の4年目、  
つまりBG年表では紀元前

605の時点で、預言者エレミヤは23年間預言  
しており、エレミヤ25:1によれば、同年に  
バビロンのネブカドネザル王が支配を開始  
しています。2015年の記事 **History of  
Babylon** より、ネブカドネザル王の1年目  
は、すべてのビジネス記録、また天文学的  
にも紀元前604年と立証されています。ユダ  
のヨシヤ王の1年目を紀元前639年とすると、  
エレミヤ書25:3でヨシヤ王の13年目は

紀元前627年となり、紀元前604年の23年前に近いことになります。王の即位は、その王の最初の公式統治年の1年前に行われるので、何の問題もありません。もし、ヨシヤが紀元前639年であれば、エレミヤは22年と数ヶ月の間、説教をしていたこととなりますが、古代ヘブライ語では、序数（23）の使用が枢数（23）に置き換えられることが多いので、これでも問題はありません。



**Above:** Prophet Jeremiah, Museo dell'Opera del Duomo, Florence, Italy (1423-1426 statue by Donatello, Marble, height 191 cm)

oooooooooooooooooooooooo

9<sup>2a</sup> 正確な知識を持たない古代の暦法を考える上で、正確さにこだわることは必ずしも賢明ではありませんが、むしろ一貫性を求めることが重要だと思われれます。異邦人の時の予言では、その始まりを紀元前608年に近い日付で示し、その結果、西暦1913年と1948年は、第一次世界大戦の開始西暦1914年とイスラエル自身の宣言西暦1948年に対応する究極の後成就の日付となっています[1]。すべての数字を近似値と呼ぶよりも、正確な計算による差異を考慮する方が簡単です。紀元前608年（私たちのブレス

ド・グリーンエアロジューで計算すると) に異邦人の時が始まった後、エレミヤがエレミヤ25:11でエホヤキムの年4に70年について預言したこと（列王第二24:2）と完全に一致して、エルサレムでユダに問題が起こり始めました[2]。

<sup>92b</sup> バビロンの王の記録によると、バビロンの王、ネブカドネザル2世が紀元前597年にエルサレムを占領し、聖書の文章に出てくるゼデキヤ王（その記録にはまだ名前が出ていない）が王座についた。これを「ネブカドネザルの7年」と呼び、ネブカドネザルの1年目が紀元前604年（父の死により前605年に即位）であることと一致します。紀元前605年にエレミヤは、エレミヤ書25章11



節で、外国や異邦人による70年間の支配がバビロンで終わると預言しており。ペルシャ王キュロスがバビロンを征服したのは紀元前539年で、紀元前605年から70年よりも数年短いので、異邦人による支配の時代は、ユダの王ヨシヤが戦死した後の紀元前608年に始まったと考えられます。息子のエホアハズが王位を継いだものの、3ヶ月後にエジプト人が介入し、エホヤキムがユダの王としてエルサレムの王座につきました。つまり、エホヤキムは実質的に異邦人の王であり、異邦人の時が始まる間、ユダの王として仕えました。エホヤキムは597年に息子のエホヤキンに引き継がれたが、彼はネブカドネザルに捕らえられた王であったことは明らかである[3]。

[1](*Paragraphs 4-12a, 8-11, and 8-12, above*)

[2](*列王第二 24:2*)

[3](*歴代第二 36:5-10*)

oooooooooooooooooooooooo

<sup>93</sup> このように、聖書の記録は、この時期のバビロニア王室の記録と完全に一致しており、エルサレムの破壊は紀元前587年に行われています。紀元前587年はネブカドネザルの18年目（604 - 17 = 587）であり、ヨセフスがエルサレムの神殿が荒廃した50年の期間と説明した期間の始まりである[1]。2クロニクル36:21には、エレミヤの70年という言葉が成就したことが記されており、22節には、キュロス王がバビロンの王としての

第1年目にエルサレム神殿をその場所に再建するように命じたことで、その成就を後押ししたことが記されています。しかし、完成したのは荒廃してから70年後のダリウスの年6（紀元前517年頃）でした[2]。ヨセフスは、エルサレムが破壊されてから「70年の間」荒廃していたことを認めた上で、50年間の「不明瞭さ」について言及しています[3,1]。従って、ヨセフスの記述は、これらの証拠を靈感を受けた聖書の記述と調和させるのに役立ちます。ペルシャとバビロニアの歴史はここで詳しく説明されており、聖書の多くの詳細を確認できるほど正確です。

[1](Against Apion, Book I, Section 21, by Flavius Josephus, from The Genuine Works of Flavius Josephus the Jewish Historian, translated from the original Greek, according to Havercamp's accurate Edition, containing Twenty Books of the 'Jewish' Antiquities, with the Appendix or Life of

*Josephus, written by himself: Seven Books of the Jewish War: and Two Books against Apion, by William Whiston (1737))*

[2](エズラ 6:15)

[3](*Against Apion, Book I, Section 19, by Flavius Josephus, from The Genuine Works of Flavius Josephus the Jewish Historian, translated from the original Greek, according to Havercamp's accurate Edition, containing Twenty Books of the 'Jewish' Antiquities, with the Appendix or Life of Josephus, written by himself: Seven Books of the Jewish War: and Two Books against Apion, by William Whiston (1737))*)



**Above:** The Prophet Jeremiah, Musées Royaux des Beaux-Arts, Brussels

(c 1445 painting by Master of the Aix Annunciation, Oil on panel, 152 x 86 cm)

oooooooooooooooooooooooo

**94 B4 Chronology**の1-8a項にあるように、プトレマイオスとベロツサスの両方の記述は、バビロンの王たちのこれらの日付とヨセフスの記述に一致しています[1]。ダリウス1世の第2年、つまり紀元前521年かそれに近い時期に、ゼカリヤ1:1,7,12は、エホバが自分の民を糾弾した70年がまだ続いていると記しています。これは、ここで言及されている70年が紀元前591年の後または前591年になるまで始まっていなかったことを意味し、したがって70年は紀元前591年の後

に第二の適用があることを示唆しています。エズラ6:15によると、神殿が完成したのはダリウス1世の第6年で、紀元前517年に近く、紀元前587年に始まった70年と一致しています。イスラエルは、紀元前539年からのこの期間の最後の部分では、バビロンに服従していませんでしたが、エルサレムの神殿を再建しようとしていて、問題を抱えていました。ジョンソン氏はその著書の中で、これらのことを論じており、紀元前609年にアッシリアがバビロンに滅ぼされたことが、「バビロンのための」70年の始まりではないかと提案しています[2,3]。このように、70年には少なくとも2つの事例があります。

[1](See also *B4 Chronology*, paragraph 1-5)

[2](*The Gentile Times Reconsidered* (2004), Fourth Edition, pp. 191-233, by Carl Olof Jonson)

[3](*The Gentile Times Reconsidered (2004), Fourth Edition, p. 233, by Carl Olof Jonson*)

oooooooooooooooooooooooo

<sup>95</sup> 紀元前539年にペルシャ王キュロスがバビロンの都市と王国を占領した直後、預言者ダニエルは、バビロンで70年が終わることを予言したエレミヤの「70年」が成就したことに注目しました。このダニエルの予言は、本稿の4-12aで紹介したもので、ダニエル9:2から引用されています。ここでダニエルは、70年をエルサレムの「壊滅」または「荒廃」の成就と呼んでいますが、これは紀元前587年から517年の期間を表すのに適しています。しかし、預言者エレミヤに言

及していることから、彼は紀元前608年または紀元前605年に始まった70年の終わりを見ていることが分かります。[1] 「壊滅」とは、エルサレムが異邦人大国に服従することであり、「壊滅」の終わりは、バビロンがアッシリアを支配してから70年後、キュロスがバビロンを占領した紀元前539/538年であると解釈できます。ダニエルは、壊滅がまもなく終わることを知り、イスラエルを好ましい状態に戻すために、エホバに助けを求める祈りを捧げました。エルサレムの神殿が完全に再建されるまでには、さらに20年以上かかりますが、その作業をユダヤ人が行うようになるのは、ほんの少し後のことです[2]。

[1](エレミヤ 25:1,11; 27:1,6,7)

[2](エズラ 1:1-3; 3:8)





**Above:** Daniel In The Lions' Den

oooooooooooooooooooooooo

<sup>96</sup> 紀元前605年のエホヤキムの第4年のエレミヤの預言は、キュロスの第1年を紀元前538年とすることで、紀元前608年から紀元前538年の70年間に及ぶものとする事ができます[1]。これらの年代は、聖書そのもの

からだけではなく、世俗的な歴史から得られたものであるため、BGの年代または最も信頼できる世俗的な年代が私たちの年代とならざるを得ません。ネブカドネザル以降のバビロン王については、従来のように詳細に精緻な年代が設定されていますが、それは従来年代が十分な根拠を持っていたからに他なりません。ソロモン王の従来の日付は、私たちのBGの年表を理解している人には同意されません。なぜなら、聖書のレグナル・イヤーは慣習によって破損しているからです。紀元前608年という年代は妥当であり、ソロモンは聖書とその詳細な統治を用いて最もよく計算されています。紀元前587年（エルサレム滅亡）後方から紀元前1017年のソロモン年1まで遡る430年分のキングスがあります[2]。また、イスラエル

がエジプトを出てパレスチナに「入城」してから紀元前587年のエルサレム滅亡までの850年、つまり50年ごとの17回のジュビリーがあります[3]。このことから、イスラエルがパレスチナに入城したのは紀元前1437年で、ヨルダンを渡ってから約15年後であり、タルムードの伝統である14年に匹敵します[4]。

[1](エレミヤ 25:11; 27:1,6,7)

[2](サムエル第一, サムエル第二, 列王第一, 列王第二, 歴代第一, 歴代第二)

[3](*Jewish Encyclopedia (1906), Sabbatical Year and Jubilee, subsection "Talmudic and Samaritan Calculation of Jubilees"*)

[4](*Ibid.*)

oooooooooooooooooooo

97 ソロモン王4年は、1キングス6:1に記載されている480年目の年号によってエジプト脱出の日と関連している。これにより、エジプト脱出の年は紀元前1493年（ $1014 + 479 = 1493$ ）と決定され、エジプト脱出の年の土曜日に設定された出エジプト記16:1,22の第一安息日の設定は、紀元前1493年の6月1日と6月8日（土曜日）に一致する[1]。さらに、エジプトの年表では、ファラオの一人（トゥトモース1世）の死を紀元前1493年と独自に設定しており、ファラオが紅海で溺死したという聖書の記述からは必要な内容であった[2]。ソロモンの神殿が建立年の4月18日に太陽と一直線に並んだというアーウィン・ライディンガー [Erwin Reidinger] の説は、紀元前1014年のニサン

15日と一致することがわかった[3]。ソロモン王の紀元前1017年は紀元前587年の430年前であり、聖書の王の年号と一致する[4]。エルサレム破壊の年が紀元前587年であることから、ソロモン王の年1は紀元前1017年と極めて正確に決定され、紀元前587年自体はバビロンのビジネス文書から非常に高い精度で知られており、その数は数千にも及び、ネブカドネザルの年1とペルシャ王ダリウスの年1の間に正確に83年が経過したことを証明している[5,6]。

$$587 + 430 = \text{西暦 } 1017 \text{ 年}$$

(ソロモン暦1年)

$$604 - 17 = \text{西暦 } 587 \text{ 年}$$

# (18年ネブカドネザル、エルサレム滅亡)[6]

604 - 83 = 西暦**521**年  
(ダリウス1世の年)[5]

[1](*Rita Gautschy (gautschy.ch)*、紀元前1493年5月18日、エジプトのヘリオポリスでの第1視認性。ここからイヤーイヤー (*lyyar*) 22を $31 - 18 + 8 = 21$ 日後とし、5月18日をイヤー (*lyyar*) 01の土曜日、4月19日をニッサン (*Nisan*) 01の金曜日とし、春分の日を紀元前1493年4月03日とする。)

[2](*出エジプト記 14:23,28*)

[3](*Joseph (2009), 'Alignment of the 1st*

*Temple axis,' by Rolf Ward Green. Rita Gautschy (gautschy.ch) を使ってエジプトのヘリオポリスを調べてみると、紀元前1014年4月4日が第1視認性であるため、4月18日はニサン15日、春分の日は紀元前1014年3月31日となる。)*

[4](この430年は、聖書のサムエル記、キングス記、クロニクル記の各王の統治に与えられた年数の合計である、"Moses Part 1 (2010), by Rolf Ward Green and A. R. Rutledge "の記事では、次のように書かれている : "Solomon's rule to the siege of Jerusalem.")

[5](B4 Chronology, paragraph 3-4b)

[6](Paragraphs 1-8, 9-1, and 9-2b, above)



**Above:** Martyrdom of St. Philip, Museo del Prado, Madrid, Spain (1639 painting by Jusepe De Ribera, Oil on canvas, 234 x 234 cm)

oooooooooooooooooooooooo

98 バビロンのビジネス文書のうち、紀元前627年～539年までの期間のものは5万枚にのぼるといわれています。これらの年代測定可能なタブレットから、すべての年が数百ものタブレットでカバーされていると推



定され、すべての王のすべての年が知られていることになります[1]。ナボポラッサルからダリウス（紀元前627～485年）までの1万枚以上のタブレットが1991年までにテキストとして出版されていることから、キュロスがバビロンを征服したのは、ネブカドネザルによるエルサレム滅亡から48年後であることに疑いの余地はないと考えられる[2]。キュロスがバビロンを征服してから数年後、ユダヤ人が神殿を再建しようと動き出したことで、ヨセフスが言及した50年間の無名時代が終わりを告げたのである[3]。しかし、ヨセフスは、膨大な数に上るバビロニアのビジネス文書よりも信頼できるとは決して言えない。両者によって新バビロニアの年代が確かなものに

なっているのです、この時代の従来の年代を認めることになる。世俗的な歴史が確かなものであるからこそ、預言の成就を正確に確認することができるのです。ですから、正確な年表を作ることが大切です。伝統的な年表は、この時代には、それ以前の時代のような分裂はなく、上記のように聖書と完全に調和しています。

[1](*B4 Chronology, paragraph 3-4b*)

[2]( $587 - 539 = 48$ )

[3](*Paragraph 9-3, above*)

oooooooooooooooooooooooooooo

99 天文学的な出来事や、出来事の整合性をとるための絶対的な年代測定が可能な出来

事がない限り、どの聖典も自らの年代の独立した確認を提供することはできません。ですから、独立した確認を求めるのであれば、世俗的な歴史の中から見つける必要があります。問題は、真実の言葉（神の言葉）を、より確かではない事実を用いて確認することを求めていることです。この研究では、信頼性の低い情報源と異なる場合、神の言葉の真実を信じ、神を優先することに常に注意しなければなりません。ある兄弟は、世俗的な従来年表を信じることに困難を感じていましたが、それはある聖句そのものに対する特定の理解に、より多くの真理を見出したからです。彼らは、私たちよりも真理への関心が低いわけではありません。一般的に同じ世俗的な歴史を受け入れるのでなければ、誰も細部まで同

じ年表を受け入れない。そのような歴史は、学者の間でも意見の相違があります。他人が自分よりも優れていると考え、二人寄れば文殊の知恵ということで、警戒心を持つことが賢明だと結論づけています[1-3]。大切なのは、聖書の価値観が優先されることです[4]。イエスが教えたように、預言者は「その実によって」わかるのです[5]。

[1](フィリピ 2:3)

[2](伝道の書 4:9)

[3](伝道の書 7:9)

[4](テモテ第二 3:16)

[5](マタイ 7:16)

oooooooooooooooooooo



**Above:** The Garden of Eden with the Fall of Man, Mauritshuis, The Hague (c. 1615 painting by Jan Brueghel The Elder, Oil on panel, 74 x 115 cm)

<sup>9</sup><sup>10</sup> 完全な年表の観点から聖書を理解しようと、私たちはアダムとエバに遡って聖書に基づいたブレスト・グリーネアロジューを設立しました。これについては、以前に発表した記事で取り上げています[1]。他の人がこれらの記事を読んで、提示された年表が説得力のあるものだと同意してく

れることを祈るばかりです。また、BGではギリシャのセプトゥアギンタが使われていることを覚えておいてください。記事**The Ark of Urartu**の1-2では、洪水（ノアの）が紀元前3282年とされていることを指摘しています。これは、他のどの年表よりも、すべての事実と最もよく一致しており、説得力があります。しかし、それが唯一の解釈であるとは言いません。しかし、もしそれが正しければ、良い実を結ぶことになります。そのような実りは、記事**True**の2-6にあるように、月の満ち欠けがエジプトの暦や伝説の日付であるハティル[Hathyr]17（オシリスのための）とよく一致することが示されています。マソレティック写本よりもセプトゥアギンタを受け入れ

ることの良い結果は、非常に多く、マソレティック写本がその数において破損していることを証明しています[2]。

[1](*Joseph (2009) through Preservation (2019)*)

[2](*Preservation (2019), "corruption"*)



**Above:** The Adoration of the Magi  
(Bargello Diptych), Museo Nazionale del  
Bargello, Florence (*1380s painting by unknown  
master, Tempera on wood, 50 x 31 cm*)

oooooooooooooooooooooooo

<sup>9</sup><sub>11</sub> 私たちは、ユダヤ人がマソレティック写本を破損した理由が、彼らの最も神聖な文書を破損することによって、イエスを彼らの信仰体系の中でメシアとしての適切な位置を否定するためであったことを信仰上知っています。セプトゥアギンタ版にこそ、アダムからのすべての歴史の完全な説明を見つけることができるのです。このような汚職があったことを否定することは、イエス・キリストに対して謙虚に正義を行うことにはならないでしょう。聖典は常に誤りがないものと考えられてきただけに、非常につらい事実です。しかし、聖書の写本の中には、異なる年表のものが多数存在することを認めなければなりません。謙虚な人は、真のバージョンにのみ関心があり、あるメシアの結果を避けることには関



心がありません。それどころか、真実を求める謙虚な人々は、メシアに私たちの歴史の中で正当な地位を与えたいと思っているのではないのでしょうか？明らかにイエスを憎んでいたユダヤ人たちは、この重要な問題について最善の決定を下すことができるとは思えません。

oooooooooooooooooooooooo

**9<sup>12</sup>** イエスの誕生と磔刑の日付は、聖書の預言（70週）に含まれる数字によって、また世俗的な歴史の日付にも関連していますが、世俗的な歴史の日付が最も問題視され

ているのに対し、預言的な数字自体は靈感を受けていると考えられています。大きな困難の一つは、預言書の聖句そのものを使って歴史を修正しようとする誘惑です。世俗的な歴史そのものは、すべてを真実に記録する靈感を受けた預言者によって書かれることはあまりありません。そのため、世俗的な歴史は典型的な議論の対象となります。つまり、日付そのものが疑われるのです。一方、セプトゥアギンタ、マソレティック、サマリタンなどの聖書版では、これまで議論してきたように、父系の年齢に数値的な違いが見られますが、実際にはテキストの翻訳の問題もあります[1]。エレミヤの預言（エレ25:11）にしても、この預言は70年の期間の始まりの理解に依存しており、国家権力に依存しており、どの国に

仕えていたかについては聖書の版によって違いがあることがわかりました[2]。このように、翻訳の微妙な違いが、預言の捉え方や意図を確実に変えてしまうのです。だからこそ、真実の言葉を守ることが不可欠なのです[3]。

[1](*Preservation (2019), Chapter 1, by Ward Green*)

[2](*Paragraph 9-2b, above*)

[3](テトス 1:9)

## 第9章 結束：異邦人の観察された年代測定のまとめ



**Above:** The Expulsion of Hagar and Ishmael, Private Collection (1638 painting by Abraham Bloemaert, Oil on canvas, 150 x 184 cm)

# 第10章： 予告されていた普遍的な義への違反



**Above:**  
Nave vault,  
Fresco II  
Gesù,  
Rome (1672-  
1685 painting  
by Baciccio,  
Fresco,  
ceiling)

They are more to be desired than gold, yes, than much refined gold; And sweeter than honey and the flowing honey of the combs.

*(Psalms 19:10, New World Translation (1984))*

金よりも，多くの純金よりも好ましい。蜜よりも，巣から滴り落ちる蜂蜜よりも甘い。

*(詩編 19:10, 新世界訳聖書 (スタディー版) 2019, 2020)*

10<sup>1</sup> テサロニケ書第2章2-3節で

は、忠実なクリスチャンに、「エホバの日が来ている」というクリスチャンと称する監督からの手紙のような言葉や書面によるメッセージによって、すぐに動揺して分別を失ったり、慌てたりしないでください。4節にその理由が書かれています。エホバの日の前には、背教者である「不法の者」が現れ、その人は聖なる者とされるすべての人の上に自分を持ち上げ、神の宮で自分を「神」として公に示すという理由で、私たちは興奮してはいけないのです。1990年2月1日のものみの塔[The Watchtower]誌の記事、p.11の「Identifying 'the Man of Lawlessness'(不法の人)の実体を見極める)」という記事では、不法の者がキリスト教の聖職者であることを知らせています。2Th 2:7-8では、この悪の「ひそかな力」が

パウロの時代に「すでに働いています」こと、そしてそれはキリストの臨在が現われるまで続くだろうということが書かれています[1]。しかし、キリストの臨在が西暦1913-14年までなかったとしたら、この「不法の者」がただの文字通りの人間であるはずがありません。つまり、彼はどうやら「僧職者たち」の比喩的な人物のようです。

[1](テサロニケ第二 2:2-8)



**Above:** Triptych with the Adoration of the Magi (central panel), Rijksmuseum, Amsterdam (c. 1560 painting by Pieter Aertsen, Oil on panel, 190 x 73 cm)

oooooooooooooooooooooooo

<sup>10</sup><sub>2a</sub> キリスト教の聖職者たちは、イエスの磔刑以降、「不法」によって権力を手に入れようと多くのことを行ってきた。ローマ皇帝ティベリウスが復活後、ローマでイエスの「神格化」を図り、反対者を殺害するほ

どの「不法」になったことを取り上げました[1]。オロシウスはティベリウスがより暴力的になったことについて次のように書いています[2]:

その後、ティベリウス・カエサルの最も称賛に値する節度は、次第に、反対した元老院を罰したいという思いに変わっていきました。皇帝は何でもやりたいという情熱を持ち、最も穏やかな支配者から、最も残酷な獣のようになりました。

***(The Seven Books of History Against The Pagans, Book 7, by Paulus Orosius, transl. by Roy J. Deferrari (1964), p. 291, top)[2]***

<sup>102b</sup> 今では、ティベリウスがキリスト教世界の最初の例となっているかもしれません。



キリストの復活の真実は、不完全な人間を熱狂させ、聖書に基づく良心を持たない人間は、腐敗と「不法」で、キリストの反対者を暴力的に攻撃することでさえ、キリスト教を守るのです。

[1](*Paragraphs 2-6, 2-7a, above*)

[2](*The Seven Books of History Against The Pagans, Book 7, by Paulus Orosius, transl. by Roy J. Deferrari (1964), p. 291, top*)



**Above:** The Great Flood, Private collection (*Painting*)

*by Bonaventura Peeters I, Oil on oak panel, 19 x 34 cm)*

oooooooooooooooooooooooo

<sup>103</sup> このように、キリスト教の最も初期の例であるローマ皇帝ティベリウスにさえ、ひどい「不法」が見られ、ティベリウスを「不法の人」として見えています。ティベリウスは、彼の特定のケースにおいて、今初めて「明らかにされた」、使徒パウロが書いたこと、すなわち、不法の者つまり滅びる者が明らかにされてからでなければ、エホバの日は来ないということを果たしています[1]。ダニエル書2章40節でネブカドネザルに次ぐ「第4の」世界大国と予言されてい

たように、ローマ軍は極めて効率的にすべてを消滅させていたので、ティベリウスは特にこの予言にふさわしい人物である[2]。もちろん、ティベリウスは、以前は穏健派であったことを見ても、暴力的な人物であることが当時明らかにされた[3]。しかし、聖書に出てくる「不法の人」は、ネロがキリスト教徒を激しく迫害したことや、ネロの直後にエルサレムが破壊されたことなどから、ネロと同一視されることが多くなりました[4-6]。ティベリウスに関する過去この1時間の啓示は、聖書からの継続的な啓示と調和している[7,8]。

[1](テサロニケ第二 2:3)

[2](Paragraph 10-2, above)

[3](ダニエル 2:40)

[4](Paragraph 7-3a, above)

[5](*The Reign of Antichrist* (1974), quoting various work: p. 4 (Prat (1927)), p. 8 (attr. LeFrois (1951)), p. 113 (attr.

*Lactantius (c. 310)), p. 115 (attr. Sulpicius Severus (396)), p. 136 (attr. John of the Cleft Rock (1340)), pp. 202, 209-210 (Berry (1921)), by Gerald Culleton)*

[6](*The Apocalypse of St. John (1921)*, [page numbers lacking], by E. Sylvester Berry)

[7](詩編 19:2)

[8](格言 4:18)



**Above:** The Alba Madonna, National Gallery of Art, Washington (1511 painting by Sanzio Raffaello, Oil on canvas, diameter 98 cm)

oooooooooooooooooooooooo

104 ベリー氏 [Mr. Berry] は *The Apocalypse of St. John*, の中で次のように書いている:[1]

ネロは主要な反キリスト教徒の一人と考えられてきた。

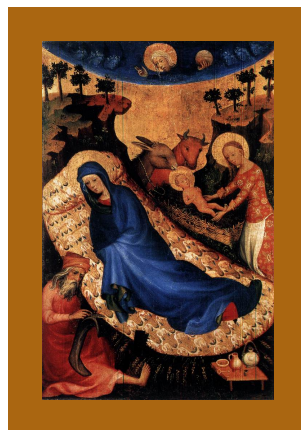
*(The Apocalypse of St. John (1921), [page numbers lacking], by E. Sylvester Berry)[1]*

使徒ヨハネは、第1ヨハネ2章18節と第2ヨハネ7節で、自分が"反キリスト"と呼んでいる人を騙す者たちに宛てて書いています。この2つの節では、ヨハネが書いた当時、すでに人を欺く者が大勢や反キリストがいたと述べています。使徒パウロが書いた2テサロ

ニケ人への手紙の「不法の者」はエホバに反対しているので、「反キリスト」でもあります。それはイエス・キリストがエホバと共にあるからです！ [2] しかし、「不法の者」は背教に由来しており、つまり、複合的な「人」としては真理の中にいました。これが、彼が一般的にはキリスト教であることを知る方法です。

[1](*The Apocalypse of St. John (1921)*, [page numbers lacking], by E. Sylvester Berry)

[2](*God's Kingdom of a Thousand Years Has Approached (1973)*, p. 371, the Watchtower Bible and Tract Society)



**Above:** Flemish Nativity, Museum Mayer  
van den Bergh, Antwerp  
(c. 1400 painting by unknown master, Tempera on  
wood, 33 x 21 cm)

oooooooooooooooooooooooo

**10<sup>5</sup>** 不法の者が存在する 聖書には複数の成就がある傾向があり、キリスト教は今日、偽りの教えを持って存在しているので、「不法の者」に関するこの預言が長い期間にわたって適用されることは確かです。一人の人間の寿命は、イエスが地上を歩いていた時間よりも短いので、「その人」は複合的な人間です。「不法の者が存在するようになる」とは、パウロが2テサロニケ2:9で書

いているように、サタンの力によって、あらゆる強力な行い、偽りの奇跡、不思議なことを見せ。今日、キリスト教の教会は、地獄の火、独身主義、三位一体、司祭の称号（Reverend、Fatherと呼ばれる）など、聖書にない教義に固執しています。パウロが言うように、エホバの日が来る前に、これらの者は「明らかにされた」されなければならない、その前に「抑制」の働きをする者も「除去された」なければなりません[1]。しかしパウロは、エホバの日がすでに来ているかのように「すぐに動揺」ことがないように、仲間のクリスチャンに助言しています[2]。パウロの時代に、キリスト教の「不法の者」が明らかになるのを防ぐ「抑制」の働きをし



ていたのは、イエスの生きた使徒たちの体でした。忠実な使徒たちを通して、イエスは偽りの礼拝の兆候を防ぐ抑制者であった、ということです。

[1](テサロニケ第二 2:7)

[2](Paragraph 10-1, above)

oooooooooooooooooooo

**10<sup>6a</sup>** イエスが生きている間、彼は真の教えをもって、確かに偽りの教えを強力に抑制していました。イエスは、いのちに至る道は狭く、滅びに至る道は広いと教えました [1]。これは、人生の選択を自制し、厳選することを奨励するものである。人生の選択

を誤らないようにするということは、人生につながる道を選び、その道を精力的に追求することを意味します。このことは、主イエスの山上の説教で、「求め続けなさい。そうすれば与えられます...たたき続けなさい。そうすれば開かれます。叩き続けられれば開かれる--誰でも求めている人は受け」[2]。その前に、偽善について次のように述べています: 「どうして仲間に、『あなたの目からわらを取り除かせてください』と言えるのですか。見なさい、自分の目の中には材木があるのです[3]。」彼が群衆を教えている間、群衆は、彼が権威ある者として話していたので、驚いた[4]。この説教の短い記録は、ルカ6:20にあります。

**10<sup>6b</sup>** この説教の両方の記述にあるコンセプト

の一つは、雨が降っても土台が流されないように、砂ではなく岩盤の上に家を建てることである[5,6]。霊的な意味では、キリスト自身が、信者が信仰を築くための土台または岩盤である[7]。このように、他の多くの例示によって、イエスは指示を与えました[8,9]。キリスト教の無法状態は、イエスが教えた、人の良い小麦種の中に敵が雑草を蒔き、芽が出たときに敵が雑草を蒔いたことがわかったという例えで理解できる。しかし、それを知らされた家主が使用人に求めたのは、収穫まで両者を一緒に成長させ、その後、以前の除草によって上質の小麦が損なわれないように、両者を分離して雑草を取り除くことだった[10]。

[1](マタイ 7:13,14)

[2](マタイ 7:7,8)

- [3](マタイ 7:4,5)
- [4](マタイ 7:28,29)
- [5](ルカ 6:48-49)
- [6](格言 2:18)
- [7](ルカ 6:46-47)
- [8](マタイ 13:34)
- [9](マルコ 4:34)
- [10](マタイ 13:24-30)



**Above:** Adoration of the Christ Child, Galleria Borghese, Rome (1548 painting by Pellegrino Tibaldi, Oil on canvas, 159 x 106 cm)

oooooooooooooooooooooooo

10<sup>7a</sup> 小麦と雑草のイラストは、真の信者の立派な小麦の収穫物の中に雑草を蒔く「不法の者」としてのキリスト教によく当てはめられているので。ここから私たちがクリスチャンの仕事は、キリスト教の偽りの信者を根絶やしにすることではなく、収穫までの間、畑で信仰を育てることであると考えることができます。忠実で慎み深い奴隷は、種まきから今日に至るまで、そのための霊的な食物を提供しているのです。イエスは弟子たちに尋ねた：「主人が、召し使いたちに適切な時に食物を与えるため、彼らの上に任命した忠実で思慮深い奴隷は、いったい誰でしょうか[1,2]。」

10<sup>7b</sup> エルサレムの長老たちの統治体は、イエス様が昇天された後、群れを養っていたクリスチャンたちの体です。彼らが新しい会衆のために承認した規則は、血や絞め殺されたもの、偶像に捧げられたものを断つこと、姦淫を避けることでした[3,4]。これは、モーセの5つの書に記されたモザイク律法に比べて大幅に削減された規則でした。クリスチャンは、新しい契約の下でより高度な責任を任されていますが、イエスの死によって律法の契約から解放されました。イエス様が死なれたことで、旧約は破棄されました[5,6]。それによって、エレミヤがエレミヤ書31章31節で預言した、エジプトから出てきたときに受けた旧約とは異なる「新しい契約」が実現したのです。

[1](マタイ 24:45)

[2](ルカ 12:42)

[3](使徒 15:28,29)

[4](使徒 21:25)

[5](ヘブライ 10:10)

[6](ローマ 10:4)

oooooooooooooooooooo

10<sup>8</sup> モーセを通して与えられた律法の契約は、すべての規則を守ることは不可能であり、呪いのようなものでした[1]。唯一の解決策は、律法を成就する完全な人間を用意し、殺されて律法を廃止することでしたが、それでは他の国が入ってくる道を開いてしまいます[2]。新しい契約では、ユダヤ人の国籍を必要としませんでした[3,4]。イ

イエスは、アダムとすべての人間の身代わりにもなった[5]。イエスは新しい契約を管理するために永遠に生きており、もはや犠牲を捧げる必要はない[6]。これは、イエスの身代りの犠牲が、「一度で永遠」の死によって、すべての罪のために完全に支払われたからである[7-10]。罪からの真の自由は、イエスを信じることによって得られる[11]。罪のための供え物は、アダムの罪の支払いに必要な一度だけ行われたので、磔刑につけられた時から今までのクリスチャンは、罪から自由であり続ける条件である特別な身分を持っている。このことは、信者にとってこの上ない喜びです。キリストへの信仰は、罪からの栄光ある自由をもたらします[12]。これは、エホバの日が到来する前でも、地上に深刻な腐敗が存在するとき



でも同様です。このイエスへの信仰は、信者を耐え忍ぶための支えとなります[13]。新約は、このように、呪いというよりも祝福です。

[1](ガラテア 3:10)

[2](エフェソス 2:15,16)

[3](創世記 22:18)

[4](ガラテア 3:8)

[5](ルカ 3:17)

[6](ヘブライ 10:12; 7:25-27)

[7](ヘブライ 7:27)

[8](ペテロ第一 3:18)

[9](ローマ 6:10)

[10](ヘブライ 9:28)

[11](ルカ 8:36)

[12](ローマ 8:21)

[13](コリント第二 12:10)



**Above:** The Expulsion of Hagar and Ishmael,  
Private Collection (1638 painting by Abraham Bloemaert,  
Oil on canvas, 150 x 184 cm)

oooooooooooooooooooo

10<sup>9</sup> 世界中の異なる信仰と比較して、キリスト教内の信徒数に関する新しい契約の成功に基づいて、イエスが神によって提供されたメシアではないと主張することは、どれほど不合理なことでしょうか。残念ながら、そのような信徒の大部分は、上質な小

麦ではなく、腐敗したものが蒔かれています。なぜなら、彼らが教えていることは、聖書と全く調和しておらず、聖なる言葉の正しい理解に違反しており、悪い実を結んでいるからです。聖職者と大企業との関わりはその一例で、他にも重要ではないものがあります。軍需産業は以前から最大のビジネスであり、聖職者がどのように人々を戦争に駆り立ててきたかを私たちは知っています。もう一つの巨大なビジネスは麻薬であり、西欧諸国の社会は明らかに麻薬の支配下にあります。製薬会社は、いたるところで広告を出し、人々に薬は賢いものだと思わせようとしています。実際には、これらは不自然な毒である限り、いかなる病気も治さない危険な物質である。このような治療法の提案者は、自分の知性が人間の

生物よりも優れていると信じていることは明らかである。この傲慢さが、彼らに人間を改善できると信じさせているのです。

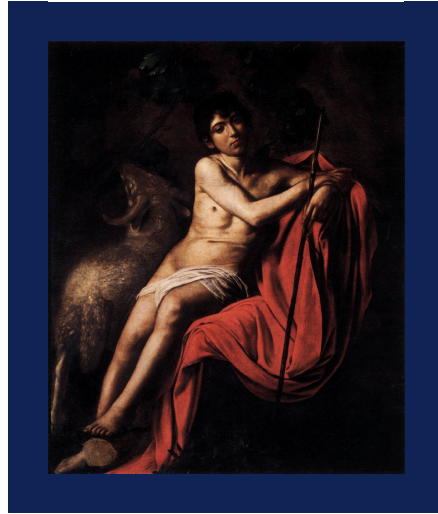


**Above:** St. John Preaching in the Wilderness, Private collection (c. 1600 painting by Jan Brueghel The Elder, Oil on copper, 26 x 35 cm)

oooooooooooooooooooooooo

**10<sup>10</sup>** 1914年以来、エホバの民は、今が真のキリスト教徒の収穫の時であると信じてきた。このため、エホバの王国の良い知らせを信仰に基づいて宣べ伝える世界的な活動が行われています。何百万人もの忠実な者たちがエホバによって教えられています。彼らは、イエスが地上での宣教を開始したときに行ったように、水のバプテスマによってその献身を象徴しています。イエスに信者と迫害者がいたように、今日、真のクリスチャンは邪悪な者たちから迫害を受けています。そのような迫害は、家族や聖職者から受けることが多いです。人生を前向きに変えようと学んでいる人は、他人の目から見た文化的価値観に圧力をかけます。彼らは先祖の伝統から離れることを恐れたり、頑固であったりするため、忠実な

人を辞めさせようと圧力をかけてきます。イエスの真の教えの立派な手本は、多くの人に非常に望ましいものとして評価されるでしょう。誠実さは、それがもたらす多くの「立派な実」の一つに過ぎません。クリスチャンの従業員が嘘をつくように仕向けられないのは事実ですが、雇用者はしばしばこの性質を評価します。正直な心を持つクリスチャンによる窃盗は起こりません。



**Above:** St. John the Baptist, Galleria  
Borghese, Rome

*(1610 painting by Caravaggio, Oil on canvas, 159 x 124  
cm)*

oooooooooooooooooooooooo

**10<sup>11</sup>** 謙虚な人々は、創造物はエホバのものでありと、を認識していますエホバの知恵によって人間が考案するものよりも優れている。人間にできる最善のことは、エホバ

神の強大な御手の下に自分を従わせ、すべての真の教えにできるだけ調和する方法を学ぼうとすることです。人間は人間の体を作ったわけではないので、それを改善することはできません。しかし、体に何か欠けていたり、毒素を大量に摂取していたりする場合には、祈りや勉強を通して神の助けを借りて健康を改善することができます。祈りは食生活の調整を助ける。何を調整すべきかを学ぶためには、謙虚さが必要である。気を配っていれば、体はその要求を伝えてくる。気を配ることは、毎日継続して行わなければならない。人は、自分の体を誰よりもよく知ることができます。だからこそ、自分を知ることがとても大切なことなのです。全く同じ体はありません。ですから、勉強するだけでなく、自分の体



を使って実験することも必要です。人間の生物の複雑さは非常に微妙で、自分の生物を自分以上に研究できる人がいないことを保証すると同時に、様々な問題を抱えていることを意味します。そのため、早く勉強を始めた方がいいのです。



**Above:** Samson Captured by the Philistines, Metropolitan Museum, New York (1619 painting by Guercino (Giovanni Francesco Barbieri))

oooooooooooooooooooo

10<sup>12a</sup> 私たちの体は耕されている畑のようなもので、心も霊的な食べ物を使って耕されています。この2つの耕作地を追求するには、当然のことながら、量よりも質が重要です。栄養素では、体に必要なビタミンやミネラル（および元素）、良質の土壌で育った有機食品、毒素を出さないことなどが考えられます。霊的な問題では、神の言葉を考えます。靈感を受けた聖典に勝る食べ物はありません。不自然で健康に良くない食べ物を食べる人は、神の聖典以外のものから指導を受けるキリスト教界の「不法の者」と同様に、破滅への大きな道を歩むことになります。最終的には、肉体的また

は永遠の死を意味します。肉体的な食べ物は、一般的に死の問題に対する解決策を生み出していませんが、聖書は永遠に続く種類の霊的な食べ物を提供しています。

**10<sup>12b</sup>** イエスが復活してから何世紀もの間、キリスト教の聖職者たちは聖書をアクセスできないようにし、僧職者たちが知っている古代言語でのみ保管していた。そのため、一般の人々は精神的な糧を得ることができませんでした。トロイア戦争が紀元前888年に終わっているのです、ヴァージルの『アエネイド』に出てくる「（アエネアスを）放浪者として産んだ7回目の夏」は、そこから紀元前881年頃にさかのぼり、その年にディドがこの言葉を語ったとされているが、これは1521年の宗教改革の74年前にあ

たる。マルティン・ルターが破門されたのは西暦1521年1月3日（ユリウス暦）で、当時は1440年に印刷機が発明され、聖書の翻訳が現代語で大量に印刷され始めたばかりの頃であった。神の言葉の栄養価の高さから、証人は常に大衆への到達をより良くするために役立つ最新技術に関心を持っています。ウィリアム・ティンデルの英語新約聖書は、西暦1525年に翻訳され、西暦1526年に出版された。史上初の英訳聖書です。1536年、ティンデル氏は絞め殺しられて処刑され、その後、遺体は焼かれた（いずれも公開）。

[1](汝が地と海のすべてを放浪する者として背負われる7回目の夏となるからである。(ヴァージル著『アエニード』1885年版、初出：紀元前29～19年、翻訳：J.W.Mackail) )

## 第10章 結束： 予告されていた普遍的な義への違反



## 第11章： 改革的総年限における歴史

<sup>111</sup> 今日、私たちは、自分の言語で聖書を読むことができるという機会を十分に理解しているでしょうか。印刷機が発明されて技



**Above:**  
Amenemhat III  
(12th Dynasty  
Egypt)

術が変化した宗教改革の時代には、

マルティン・ルター（ドイツ人）やウィリアム・ティンデール（前出、英語）などの信仰深い者たちによって、聖書を当時の庶民の現代語に翻訳するという大規模な翻訳作業が始められましたが、彼らが

**Also, your own servant has been warned by them; In the keeping of them there is a large reward.**

**(Psalms 19:11, New World Translation (1984))**

こうして、あなたに仕える人は警告を受けた。従うなら大きな報いがある。

**(詩編 19:11, 新世界訳聖書 (スタディー版) 2019, 2020)**

行った作業はほとんどの聖職者の承認を得ていませんでした。しかし、この仕事の前例があるとすれば、それはどのようなものだったのでしょうか。また、この「前例」は現代の私たちにどのような影響を与えるのでしょうか。私たちが正直であれば、真実と、他のすべてを犠牲にしてまで真実を愛する人々に感謝します。同じ精神で、私たちは真実ではない悪いものを憎みます [1,2]。同時に、私たちは真実の「敵」を愛さなければなりません [3]。「敵を愛せ」という命令はイエスによって与えられたもので、妥協を意味するものではなく、聖書の原則を用いています。例えば、議論が勃発する前に離れていくことなどです [4]。

[1](アモス 5:15)

[2](詩編 97:10)

[3](ルカ 6:27)

[4](格言 17:14)



**Above:** Martin Luther, Buccleuch Collection, Boughton House, Kettering (*c. 1532 painting by Lucas Cranach The Elder, Watercolour on parchment, 219 x 191 mm*)

oooooooooooooooooooooooo

<sup>112</sup> イエスは、プロテスタントの改革者マル



ティン・ルターがドイツ語で新約聖書を出版する約1500年前に生きていた。この作品は、西暦1522年にラテン語ではなく、主に原語のヘブライ語とギリシャ語に基づいたドイツ語の聖書として初めて出版された。カトリック教会の聖職者によるルターの活動に対する迫害は、教会の反対にもかかわらず成功するために、ルターの聖書翻訳の仕事への取り組みが十分に高いレベルであることを確実にした[1]。ルター氏は、救いには信仰だけが必要であり、その信仰は行いに依存しないと考えており、ローマ法王庁やイスラム教の支持者が自分たちの教えを追求することを止めようとはしなかった[2]。ルター氏が西暦1522年にドイツ語の新約聖書を出版してから数年後、西暦1526年にティンデル氏が英語の新約聖書を初め

て出版した。レオナルド・ダ・ヴィンチが誕生した頃に印刷機が発明されたことで、このような新訳聖書の出版は大きなチャンスとなった。ダ・ヴィンチが誕生した西暦1452年、神聖ローマ皇帝フリードリヒ3世がハプスブルク家という王朝の初代皇帝となった年です。

[1](*cf.* ヘブライ 12:3,8)

[2](ローマ 3:28 *cf.* ヤコブ 2:20)



**Above:** God speaks to Noah after the Flood,

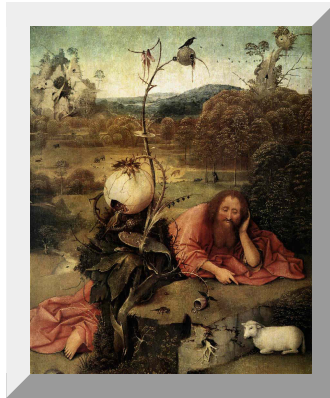
Galleria Palatina (Palazzo Pitti), Florence, Italy  
(c. 1578 painting by Jacopo Bassano, Oil on canvas, 93 x 124  
cm)

oooooooooooooooooooooooo

11<sup>3</sup> イエスが磔刑にされてからフリードリヒ3世の治世が始まるまでの期間は1421年、 $49 \times 29$ 年となり、7の2つの神通力を持つ数字となります ( $7 \times 7 = 49$ )。ルター氏の新約聖書出版 (西暦1522年) をプロテスタント宗教改革の始まりとすると、フレデリックが戴冠してから  $7 \times 10 = 70$ 年、西暦1522年は紀元前6年10月から1526年でもあり (「0」の年はない)、 $2 \times 7 \times 109$ 年 (「7」の係数) となる。ソロモン神殿の完成 (紀元前1007

年) (ソロモン11年の第8月、彼の1年目を紀元前1017年とすると) からイエスの誕生(前6年) まで $1001 = 143 \times 7$ 年が経過している[1]。また、ソロモン神殿(紀元前1007年11月) からルター(西暦1522年9月) まで $2527 = 7 \times 19 \times 19$ 年が経過していることになる。ソロモン神殿が完成した紀元前1006年の新年の始まりから、キリストが誕生した紀元前6年までの1000年は、黙示録第20章に記されている「1000年(の審判)」の典型的な表現と思われる、人類が復活した時の審判の日を意味し、その後、サタンと不信心者が裁かれることになります。つまり、イエスが人類の罪のために生まれて死ぬという型は、後の時代に予め定められているサタンの征服にも適しているということです。

[1](しかし、紀元前1007年の後半から、母マリアがイエスを受胎するまでは、1000年である。)



**Above:** St. John the Baptist in the Wilderness,  
Museo Lazaro Galdiano, Madrid (*Painting by  
Hieronymous Bosch, Oil on panel, 48 x 40 cm*)

oooooooooooooooooooooooo

11<sup>4a</sup> ソロモン王が馬を大量に蓄え、外国から

多くの妻を娶って神の言葉に含まれている信仰から離れ、その行為によってエホバの律法からも離れたとき、彼の後に王国がイスラエルとユダに分かれ、分離して一つにならない状態になった[1-5]。ですから、イスラエルに対する裁きの日は、ソロモンの神殿が完成したときに始まったと測るのが、その後の問題を考えると妥当だと思います。しかし、PhoenixとJoseph and On, Redemption of the Phoenixの記事を読んだ私たちがすでに読んだ1000年という別の期間があり、それは西ローマ帝国の崩壊と呼ばれた西暦452年から1452年までの期間であり、まさにぴったりです。

<sup>114b</sup> 西ローマ帝国が終焉を迎えた西暦1452年に始まったハプスブルク王朝は、第一次

世界大戦が終結した1918年11月11日に、オーストリアのシャルル1世が非退位となったことで終焉を迎えたのである。記事 **Moses** で述べたように、この西暦1452年という日付は、紀元前1452年という鏡のような日付を持っています。イスラエルが荒野をさまよっていた40年数ヶ月は、紀元前1452年と、その40年前の**エジプト脱出**の日である紀元前1493年の日付とを結びつけています[6]。

[1](列王第一 10:26,28)

[2](列王第一 11:1)

[3](申命記 17:16)

[4](申命記 7:3,4)

[5](列王第一 12:16-18)

[6](*Joseph and On (a.k.a. On, a.k.a. Poseidon) (2010), by Ward Green*)

oooooooooooooooooooooooo

115 ソロモンの年代は、（聖書の王の治世によって）紀元前587年のエルサレムの破壊（聖書ではネブカドネザル18年とされている）とリンクしており、1Kings 6:1からは、エジプト脱出の年代とリンクしています。したがって、紀元前1493年（エジプト脱出）は、紀元前1017年（ソロモンの年1）につながり、それは紀元前587年（エルサレムの破壊）につながっています。エジプト脱出よりもさらにさかのぼって、出エジプト記12:40,41には、イスラエルがその430年前にエジプトに「居住」



始めたことが記されています（出エジプト記12:41、「ちょうどその日に」）。エジプト脱出におけるイスラエルの出発の日は、民数記33章3節から直接見ることができます:[1]

イスラエル人は第1の月の15日にラメセスを出発した。過ぎ越しの翌日に、全てのエジプト人が見る中、意気揚々と出ていった。

(民数記 33:3, 新世界訳聖書 (スタディー版) 2019, 2020, Watch Tower Bible and Tract Society of Pennsylvania)[1]

[1](民数記 33:3, 新世界訳聖書 (スタディー版) 2019, 2020, Watch Tower Bible and Tract Society of Pennsylvania)



**Above:** Lot and his Daughters, Museo Thyssen-Bornemisza, Madrid (c. 1621 painting by Orazio Gentileschi, Oil on canvas)

oooooooooooooooooooooooo

<sup>116</sup> エジプト脱出の際にイスラエルが滞在していた場所に近いエジプトのヘリオポリスでは、現代の方法で月が見えるようになる1日目（ユダヤ教の月の1日であると固く信じられている、も）を計算すると、通常、新月の1日後から2日後の間に発生し

(Gautschy女史によると) 第1視認性は紀元前1493年の4月19日とされています[1]。当社のLe-Ap Lunar Ephemeris Access Panelでは、月の合一(つまり新月)は4月18日未明となっています[2]。これらはエジプトの地域性を考慮して調整されていますが、一般的に月の見え方は、必要とされるタイムゾーンの調整を除いては、東西(または経度)にあまり影響されないことに注意してください。ヘリオポリス[Heliopolis]で調整した場合、Le-Ap 15.3.7.1では、紀元前1493年4月18日の早朝の月の合一(コンジャンクション)を00:40:37としています[3]。これはリチャード・パーカーが定義したエジプト暦の月の1日目と呼ばれるもので、ユダヤ暦では既に述べたように第1視認性を使用しており、今議論している特定の月では4月19

日、1日目となります。この日は偶然にも4月19日（金）のユリウス暦である。

[1](<http://www.gautschy.ch/~rita/archast/mond/>)

[2](もちろん、第1視認性は、雲や霞などの大気の状態に左右されます...なお、春分の日は紀元前1493年の4月3日である。)

[3](<http://willofjehovah.com/main.htm>, Le-Ap v. 15.3.7.1, Oct 12, 2020)

oooooooooooooooooooo

<sup>117</sup> この計算を何度も繰り返すと、紀元前1493年のニサン15日にイスラエルが出発したという同じ結果が得られ、これを金曜日と計算します。さて、ヨセフがこの日から430年前にファラオの前に立ったとき、彼は

30歳で（創世記41:46）、牢屋（衛兵長の家）から連れてこられた奴隷でしたので、正式な市民権はありませんでした。ファラオがヨセフをエジプト全土の第二司令官に任命したとき、ヨセフはエジプトに正式に住み始めました。ファラオがヨセフをエジプト全土の第二司令官に任命したとき、ヨセフは正式にエジプトに住むようになりました。30歳の時点で、ヨセフはエジプトに住む市民とみなされていたことは間違いありません。 **Crucible** の記事の第8章では、「Slave Prices In Ancient Times」と題されたグラフで、ヨセフの時代の奴隷は20シェケルで、紀元前1936年に合っているようです [1]。ヨセフが生まれた年は、**Joseph** の記事では、紀元前1954年の後半で、彼の死は紀元前1843年、ファラ

オ・モエリスの治世であると判断されています。このことは特に重要で、ちょうどこの時期（アメンメト3世）にナイル川からモーリス[Moeris]湖に水を供給するためにバールユセフ（ヨセフの運河）が建設されたからです。したがって、創世記に書かれているヨセフの時代の詳細は、エジプトの中王国時代に非常によく当てはまると思われます。

[1](創世記 37:28)



**Above:** Egyptian Pharaoh Senusret I Osiride Pillar, 12th Dynasty Egypt (c. BCE 1950)

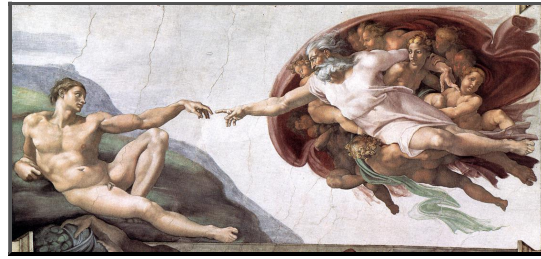
oooooooooooooooooooooooo

<sup>118</sup> ヨセフが全エジプトの第二統治者になった年が紀元前1923年であることから、エジプト脱出にちょうど430年前になります。また、紀元前1923年のユリウス暦4月7日の春分の日は、ニサン15日が5月16日（金）で

あることを意味しているようで、ガウツィー[Gautschy]によると第一視認は5月2日になります。つまり、出エジプト記12章41節が示唆するように、430年離れた日付に二回、**ニサン[Nisan]15日の金曜日**が出現することになります。ヨセフは紀元前1923年に30歳だったので、聖書の家父長制の世代を逆算すると、アブラハムは紀元前2206年、ノアは紀元前3882年に生まれたことになります。アブラハムの人生の年代は、ヤシャー書から導かれたケドルラオメル（創世記14章）の年代と関連しています。ケドルラオメルはエラムを6年目に征服しており、歴史上のグデアと同一人物とされます、もエラムのアンシャンを6年目に征服したと記録されており、BGにおけるアブラハムの年代からすると、ちょうど紀元前2141



年になります。これがアッシリアの始まりであり、ニヌスはチェドルラオメルとグデアの両方、つまり3人とも同一人物であると考えられます。紀元前2141年からのディオドロス・シクルスによるアッシリア王の1360年は、紀元前781年で終わる。紀元前809年にアシェル＝ダン3世[Asher-Dan III]（サルダナパルス[Sardanapalus]）を破ったアルバセス[Arbaces]（エリバ＝マルドゥク[Eriba-Marduk]）の治世の終わりでもあります（によるとBG、**Crucible**で）。紀元前2141年という年代は、アブラハムの年代との整合性が判明する前に独自に導き出したものです。



**Above:** Creation of Adam, Cappella Sistina, Vatican (1510 painting by Michelangelo Buonarroti, Fresco, ceiling)

oooooooooooooooooooooooo

11<sup>9a</sup> ヤスヘル書によれば、CHEDORLAOMERがエラムを征服した時、アブラハムは65歳であったので、その征服の日付は紀元前2141年、創世記14章4節の日付は紀元前2146年であり、（ヤスヘル書より）アブラハムは60歳であったことになる[1]。創世記14章の出来事の後、CHEDORLAOMER

[Chedorlaomer]がシナルの王アムラフェルに反抗したのは、アッシリア王国が始まったアブラハムの人生のまさにその年であり、同じく「6年目」にエラムを征服したグデアの人物像と相まって。両者がアッシリア帝国の創始者「ニヌス」と強く同一視されていることは無視できない[2]。ウォルター・ラレグ卿は、シェドルラオメル [Chedorlaomer]がニヌスであると言っているようだ[3]。

<sup>11</sup><sub>9b</sub> 創世記14章によると、チェドルラオメルはアムラフェルと他の2人の王と共に5人の王との戦いに勝利しました。そのわずか5年後に主であるアムラフェルに反抗してエラムを奪ったチェドルラオメルにとって、この年を彼の1年目とするのはいかにも適切で

す。グデアが自分の6年目にエラムを占領したという偶然は、両者のが年代的に同じ時期であることを考えるとや見過ごすことはできない。見過ごすことはできない、「ナンナ[Nanna]」はグデアが崇拝していた月の神（シン）であること、グデアの妻は「ニナラ[Ninalla]」、息子は「ウル・ニンギルス[Ur-Ningirsu]」、「ニン[Nin]」は「女性[woman]」、「主[lord]」、「**長男[firstborn son]**」を意味する言葉であることなどを考える。アッシリアを建国したニヌスは、ベルス（ベルスは55年間統治し、アッカド人を倒してアッカド王朝を建国したアッカド人の王サルゴン1世とされる）の「息子」とされ、ニヌスはアッカド人を征服してアッシリア王朝を建国したとされる[4-6]。ラッセル氏は、アブラハムはベルスの「息子」

と同時代の人物であるという「古代の年代測定者たちの意見がほぼ一致していたことはよく知られている」と書いている[7,8]。このように、アムラフェルの召使としてのチェドルラオメルは、グデアがアッカド王朝の最後の王（ニムロドと呼ばれる）であるシャル・カリ・シャリ[Shar-kali-sharri]の「王子」であったことを示唆しているようだ[9-11]。

<sup>119c</sup> サルゴン1世とベルスの同一性は、ベルスは「息子」のニヌスが権力を握る前に4人の子孫に引き継がれたというジャクソン氏のコメントとも一致する[6]。これらの記録は、アブラハムがアッカド王ナラム=シン[Naram-Sin]とシャル=カリ=シャリ[Shar-kali-shari]の時代に生きていたこと、そして

彼らの後継者であるニヌスまたはグデア（チェドルラオメル）の時代に生きていたことを証明している。サルゴン1世の時代は、紀元前330年にアレキサンダー大王の召使がバビロンで入手した1903年前の天体観測記録書を用いて独自に決定されており、この重要な天体観測記録の開始時期は紀元前2233年（ $1903 + 330 = 2233$ ）となり、サルゴン1世の治世とほぼ一致しています [12]。サルゴン1世の1年目の日付を紀元前2282年から2281年とした場合でも（以前の記事でサルゴン1世の日付として使用した範囲は紀元前2302年から2268年）、彼の統治年数が50年であったとしても、最後の統治は紀元前2231年、つまり紀元前2233年の2年後となる。 **The Observations of Bel**[9-15]。

11<sup>9d</sup> アブラハムの年代が、アッカドの世俗的な王について知られているものとどれほど一致しているかは、いくら強調してもし過ぎることはありません（隕石落下の日付とも一致しています） [16,12]。このことは、ヨセフの年代を紀元前1923年、エジプトとすることを裏付けています。しかし、それ以上に、ノアの洪水まで遡って計算するための開始日を提供しています。セプトゥアギンタの家長世代を使うと、ノアは紀元前3882年に生まれ、洪水は紀元前3282年でした。ノアの年代は、洪水の後に初期の金属加工が行われた青銅器時代の年代測定によって確認されています。洪水から、セプトゥアギンタの世代を再び使って、アダ

ムの創造までの日付を計算する[17-20]。アダムの創造、つまり1年目は、紀元前5550年 =  $7 \frac{1}{7} \times 777$ 。アダムからイエスが生まれるまで、 $72 \times 77$ 年ある。

[1](*The Ark Of Urartu (2010), Chapter 9 paragraph 3, by Rolf Ward Green and A. R. Rutledge*)

[2](*The History of the World: In Five Books, to which is added Sir Walter Raleigh's Voyages of Discovery to Guiana (1820), in six volumes, Vol. I, Book II, p. 214-5, by Sir Walter Raleigh*)

[3](*The Ark Of Urartu (2010), Chapter 9 paragraph 5, by Rolf Ward Green and A. R. Rutledge*)

[4](*Ibid., Chapter 9 paragraphs 6 and 10*)

[5](*In Hebrew, the name 'Nin' seems to have the meaning of 'posterity, offspring, great-grandson,' as well as 'grace.' From this it seems likely that 'Nin' is the origin of the English name 'Anne,' and the Hebrew name 'Hannah,' which mean 'grace.'*)

[6](*Chronological Antiquities (1752), vol. I, p. 238, by John Jackson*)

[7](*The Ark Of Urartu (2010), Chapter 9 paragraph 6, by Rolf Ward Green and A. R. Rutledge*)

[8](*A Connection of Sacred and Profane History (1865), Vol. I, p. 357, by Michael Russell*)

[9](*Book of Jasher 13:13*)

[10](*Preservation (2019), Chapter 6 paragraph 11, by Ward Green*)



[11](*Wild Road Ahead To History* (2016), Chapter 5 paragraphs 2 and 3, by Ward Green)

[12](*The Ark Of Urartu* (2010), Chapter 3 paragraph 10, by Rolf Ward Green and A. R. Rutledge)

[13](*Ibid.*, Chapter 9 paragraph 2)

[14](*Ibid.*, Chapter 3 paragraph 10)

[15](*Wild Road Ahead To History* (2016), Chapter 5 paragraph 9, by Ward Green)

[16](*The current paragraph 11:9a-c, above*)

[17](*Joseph* (2009), by Rolf Ward Green, "Adam breathes")

[18](*Moses Part 1* (2010), by Rolf Ward Green and A. R. Rutledge:

"(カインンの父であるアルパクシャドは、洪水の2年後、つまり紀元前3280年に生まれています): アルパクシャド (アルパハシャド) の誕生からヨセフの誕生まで。 3280-135-130-134-130-132-130-79-70-100-60-91-6 紀元前 = 紀元前1953年 [アルパクシャド (3280年生まれ)、カインン、シェラハ、エベル、ペレグ、レウ、セルグ、ナホル、テラ、アブラム (アブラハム)、イサク、ヤコブ (イスラエル)、ヨセフ、6年余] となっている。ヨセフ (1954-1843) 紀元前1923年に30歳。 「これらは十分に一致する」としている。"

"(Arpachshad, the father of Cainan, is born 2 years after The Deluge, say, 3280 BCE):

*The birth of Arpachshad (Arphaxad) to the birth of*

*Joseph:*

3280-135-130-130-134-130-132-130-79-70-100-60-91-6 BCE = 1953 BCE

[Arpachshad b. 3280, Cainan, Shelah, Eber, Peleg, Reu, Serug, Nahor, Terah, Abram (Abraham), Isaac, Jacob (Israel), Joseph, 6 extra years]

Joseph (1954-1843) 30 years old in 1923 BCE.

'These agree sufficiently'.")

[19](A Dissertation on Sacred Chronology (1856), by Nathan Rouse, p.8:

"From Adam to the Flood, Septuagint:  
2262 years")

[20](アダムからアルパクシャドまでの11-12世代は、それぞれに半年の余裕または半年を加えて、ラウス氏の2262年に6年を加えて、次のようになります。2262 + 6 = 2268年、アダムから大洪水まで)



**Above:** Construction of the Tower of Babel, Villa Cornaro, Piombino Dese, Italy (1717-1718 painting by Mattia Bortoloni, Fresco)

oooooooooooooooooooooooo

**11<sup>10a</sup>** エジプト古王国の紀元前2686年の開始時期を改善できない場合、トトの1年目を計算すると、トトが27年間支配していたので、 $2686 + 27 =$ 紀元前2713年となり、ユセビウスではメネスが60年間支配していたので、メネスの1年目は $2713 + 60 =$ 紀元前

2773年となり、私たちが発見したソティス周期の開始時期に近い数字となりました。古王国が紀元前2686年に始まったと考えられる理由は、旧年代記の2365年を差し引いても、エジプト以前のシナルのニムロド王であるメストライムの1年目からではなく、紀元前2713年のトトの1年目から始めると、 $2713 - 2365 =$  紀元前348年のネクタネボの治世となり、旧年代記に記載されているアレキサンダーがエジプトを支配する約15年前となり、見事に一致しています。ちなみに、アレキサンダーがエジプトを支配したのは紀元前332年頃です。

**11<sup>10b</sup>** エジプトの始まりであるトト1年からサルゴン1年を計算するには、オールド・クロニクルの「ソティス周期の世代」の443年を

使って、トト1年からこの数字を引き、12年を加えると（ジャクソン氏の327ページによると）、 $2713 - 443 + 12 =$  紀元前2282年、サルゴン1世1年、になります。キタブ・アル・マガルによると、ニムロドは69年間支配した後に死んだとされています。BGでは、セムの死が紀元前2780年であることから、ニムロドの死は紀元前2711年となり、トトの紀元前2713年には遠く及ばず、どちらも我々が以前に使用した紀元前2716年の日付に近いものとなります[1]。シナール王国やエジプト王国の初期に当たるこの時期については、さまざまな確率の高い解答があります[2]。バベルの塔での散らしたまいけれ紀元前2745年とすると、 $2745 - 2686 = 59$ 年となり、エラトステネスがエ

ジプトの「テーベ」の第2代王アソテース [Athothes] に与えた年数（第1代メネス、62年）とぴったり一致する[3,4]。

[1](セムの死は、アブラハムから遡ってセプトゥアギンの家系年号を使って得られる。)

[2](*Wild Road Ahead To History* (2016), Chapter 8 paragraph 12, by Ward Green)

[3](*Manetho, with an English translation* (1940), Appendix II, p. 215, by W. G. Waddell)

[4](*Wild Road Ahead To History* (2016), Chapter 9 paragraph 1, by Ward Green)



**Above:** Djoser, Third Dynasty Egypt (c. 2686 Old Kingdom, limestone)

oooooooooooooooooooooooo

<sup>11</sup><sub>11</sub> 洪水以前の時代は、私たちが想像する以上に高度な技術が発達していたため、ノアは洪水の直後に再現された技術をはるかに超えるリベット用の金属合金を使って、

箱船を作ることができたのです。その技術が失われた理由は、明らかに鉱物を得るための採掘と、それを加工するための精錬工場にあります。ノアとその息子たちは、鉄よりもはるかに低い温度で可能な青銅の加工方法を発見しました。箱船に使われた木材は、地球上に雨が降り、季節ごとの気温の変化で現在のような木の年輪ができる前に育ったものだった。箱船の設計には、船体の中央部に波が作用して船が浮き上がり、安全に波を受け止める場所がなければ真っ二つになってしまうようなストレスを最小限に抑えるために、「取水口ベースン [moon pool]」が設けられていた。古代の人々は原始的ではなく、非常に高度な技術を持っていましたが、多くの人々が亡くなっ



たことで失われてしまいました。ノアとその息子たち、そしてその妻である8人の忠実な人間だけが生き残り、8人の村を作った。この近くには、箱船が上陸する前に投棄されたアンカーストーンが、近くの双子の山である摩周山の近くに置かれている[1]。

[1](*Fourteen anchorstones were found between Kazan and Naxuan, which are respectively the place where Noah began to cut the anchorstones loose and the place they came to inhabit, near where the Ark landed.*)

oooooooooooooooooooooooo

<sup>11</sup><sup>12</sup> もし洪水が紀元前3282年に起こらなかったら、アダムとノアの日付は、紀元前

5550年にアダムが創造された後、第6千年紀にメシアが到着するのに適した時期に来なかったでしょう。これが私たちの祝福された年表であり、エホバを賛美します。アダムから洪水まで2268年、その後、紀元前1014年のソロモン王の神殿まで2268年ということになります。2268という数字は、 $36 \times 63$ 、つまり $6.3 \times 360$ になります。これは、円のラジアン数（約6.3）に円の度数（360）を掛けたもので、6.3を $2 \times \pi$ で割ると360の累乗になり、ファイという値になります。「ファイ」とは「黄金比」のことで、自分自身から1を引いた数の逆数のことで、おおよそファイ = 1.6180340となります。前述の別の方法で得られたファイの値は、 $(6.3 / (2 \times \pi))^{360} = 1.6172499$ 。この値は、大

ピラミッドの高さと底辺の比率で観測されたファイの値とは、16パーツパーミリオン [16ppm]の差があります[1]。

彼らは神の奴隷モーセの歌と子羊の歌を歌っていた。「全能の神エホバ、あなたは壮大で驚くべき事柄を行われます。永遠の王よ、あなたの道は正しく、真実です」。

**(啓示 15:3, 新世界訳聖書 (スタディー版) 2019, 2020, Watch Tower Bible and Tract Society of Pennsylvania)**  
**[1]**

[1](啓示 15:3, 新世界訳聖書 (スタディー版) 2019, 2020, Watch Tower Bible and Tract Society of Pennsylvania)

第11章 結束：改革的総年限における歴史



**Above:** The Holy Night (The Nativity),  
Gemäldegalerie, Dresden (1650s painting by Carlo  
Maratti, Oil on canvas, 99 x 75 cm)

## 第12章： エッセネ派を考える

<sup>121</sup> 福音書の記述を徹底的に検討すると、イエスが磔刑にかけられた重要な一週間の出来事について、明らかに矛盾した状況が浮かび上がってきます。賢明な人は、聖書だけで年代を決めようとはしませんし、創世記1:14に見られるように、エホバはご自分



**Above:** Holy Family, Statens Museum for Kunst, Copenhagen (1618-1620 painting by Giulio Cesare Procaccini, Oil on panel, 145 x 93 cm)

**Mistakes—who can discern? From concealed sins pronounce me innocent.**

**(Psalms 19:12, New World Translation (1984))**

誰が間違いを見分けられるでしょう。気付かずに犯した罪を許してください。

**(詩編 19:12, 新世界訳聖書 (スタディー版) 2019, 2020)**

の言葉で正確な年代を示すことを意図していません。しかし、心の広い忠実な人は、全能の神エホバの靈感による記述が天文学と常に一致すること

を期待するのは当然のことです。そうでなければ、天文学が問題になり、より信頼できる神の靈感を受けた言葉ではなく、天文学が問題になります。私たち人間は、神の心ではなく、キリストの心を持っています [1]。私たちが無視してはならない真実は、客観的な現実によって確認されなければ、予言は全く力を持たないということであり、天文学は最初の客観的な現実の一つです [2]。これは、予言が検証のために年代に依存していると言っているのではありませんが、明らかに、論理的に世俗的な対応関係を持つ人間の関心事が関わっています。年表が違っていても、その預言で具体的に何年と言われていても、預言が実現することは信仰上可能です。エホバにはすべてのことが可能であり、エホバはそれを形にす

るからです。[3-7] 客観的な現実がなければ、預言は存在しないかもしれない[8-10] 預言が靈感を受けたものである場合、証拠が独立してそれを確認するべきであり、それが証拠の意味である[11,12]。

[1](コリント第一 2:16)

[2](創世記 1:1,14,15)

[3](マタイ 19:26)

[4](マルコ 10:27)

[5](ペテロ第二 1:21)

[6](列王第二 19:25)

[7](イザヤ 37:26)

[8](イザヤ 55:11)

[9](ヨシュア 23:14)

[10](イザヤ 45:23)

[11](エゼキエル 33:33)

[12](ガラテア 3:10)

oooooooooooooooooooo

**12<sub>2a</sub>** その年表を勉強していない人が、歴史上の特定の年に言及することは、まともに受け取れません。ネブカドネザルの1年目は紀元前604年であり、これは否定できない現実です。バビロンで成就すると預言されていた70年は、紀元前608年に始まったバビロンの世界支配と関係があり、キュロスの紀元前538年に成就したと発表されました[1-3]。これらの日付は、すでに上で読んだように、ソロモン王の日付やイエスの日付と関連しています。さて、聖書は歴史と一致しているだけでなく、文化や習慣とも一致しています。少なくとも、忠実な人は、文化的な現実が正直な記述の中に現れていることを期待するのが正当です。福音書の作者



は、ユダヤ人の習慣をよく知っていたはず  
です。ファリサイ派はサドカイ派とは異な  
り、エッセネ派とも異なっていました。こ  
れらの宗派は、私たちが信じているよう  
に、互いに激しく対立しており、イエスは  
最初の2つの宗派と議論していました。はっ  
きり言って、福音書にはエッセネ派につい  
て、コメントできるような明確な記述はあ  
りません。このことは、イエスがエッセネ  
派であったことを意味するのか、あるいは  
イエスがエッセネ派と信仰の一部を共有し  
ていたことを意味するのか？ 私たちは疑問  
に思うかもしれません。

**12<sup>2b</sup>** 怠慢だと非難されるかもしれませんが、  
ここでは、私たちのテーマである磔刑を照  
らすことのない、これらの宗派間の違いは

無視すべきです。もっと具体的に言えば、私たちが興味を持っているのは、「キリストの受難」と磔刑の週の関係です。これは、受難が1週間の長さであることを意味しているのではなく、この期間が発生した週は、おそらく一意に決定できる可能性があるということです。私たちがこのことに興味を持ったのは、もしこの週が実際に一意に決定できるのであれば、嬉しいことに、磔刑の年を一意に正確に特定することができるからです。このことについては、すでに十分に検討したので、私は自分が信じる答えをすでに知っており、ただ「喜ばれりと正確真実の言葉」[4]。世俗的な歴史から年表を作成するときに年表学者の助言を求めるように、ユダヤ教の宗派の詳細、

この場合は「過ぎ越し」の詳細を読み解くときには、ユダヤ人の洞察を求めるのが適切です。

[1](エレミヤ 25:1-13; 27:1-8; 29:1-13)

[2](歴代第二 36:21,22)

[3](エズラ 1:1-4)

[4](伝道の書 12:10)



**Above:** Christ at the Sea of Galilee  
(Painting by Jacopo Tintoretto)

oooooooooooooooooooooooo

12<sup>3a</sup> ネット上の文献を徹底的に調査した結果、様々な意見があり、その中から非常に選択的に結果を導き出さなければなりませんでした[1-3]。非常に少ない資料から導き出されたのは、これらの宗派がそれぞれ異なる過ぎ越し祭を行っていたという事実です。その結果が、私たちが以前に行った年代測定（上記参照）を裏付けるものであれば、これらのいくつかの資料は真実であると考えられます。最も重要なことは、聖書が靈感を受けたものとして保存されていることです[4]。このことを理解するには多くの課題があるかもしれませんが、説明のシンプルさには説得力があるかもしれませ

ん。西暦30年、私たちのLe-Apアプリの春分の日はユリウス暦3月23日で、午前0時から5時間後でしたが、Solex 12.0では、3月23日の午前0時から30分以内という結果が出ています、そしてEquation of TimeのJohnson 03:28 3月23日。しかし、ソレックス12.0による平均的な春分点は、西暦25-36年では、3月23日の午前0時から約17分後である。この数字は現地時間（エルサレム）でのものです。この計算はあまり正確ではないと思われるので、3月22日という日付も同じように考えられるだろう[5]。

<sup>123b</sup> また、春分の日が新月と重なった時にニッサンの月が始まったのか、第1視認性と重なった時に始まったのか、その判断のルールはどうなっていたのかはわかりませ

ん。西暦30年には、3月22日の月の新月が春分の日に近かったという特徴がありました。西暦30年の月の第1視程（Gautschyによる）は3月24日で、新月の2日後であり、この年の二サン月が3月に始まったことを保証しているようです。このような境界線上のケースでは、説得力のある証拠が得られないように思われるかもしれません。しかし、エホバはすべてのことを知っておられ、その聖なる言葉こそが、ある議論が正しいかどうかを決定するのです。今のところ、西暦30年には十分な自信があります。私は、これらのことは後になって明らかになると信じています。

[1](格言 15:22)

[2](格言 11:14)

[3](格言 24:6)

[4](テモテ第二 3:16)

[5](NASAは、西暦25年から36年までの春分の日を3月20日としています。春分の日を計算するのは簡単ではありません。なぜならば、その時間、つまり日付は、正確には知られていない地球の自転の減速に依存するからです。しかし、何世紀にもわたって行われているこれらのイベントの時間帯に関しては、日食の報告に基づいて十分に正確であると考えられており、デルタTが正しくなければ一致しません（デルタTは減速の推定値です）。)

oooooooooooooooooooo

**124** 西暦30年の3月24日をニサン1日とすると、3月31日はニサン8日で、ニサン13日はその5日後の4月5日(水)でした。モザイク法とサドカイ派では、過ぎ越しの夕べはニサン13日の終わりに始まり、過ぎ越しの安息

日はニサン14日で、西暦30年では4月6日（木）だったことがわかります。ファリサイ派の人々は、過ぎ越し祭を二三月一五日（金曜日）から始めたので、四月五日よりも一日遅くなりました。ユダヤ人は、ある日の日没が次の日の始まりとなります。ファリサイ派は日没の瞬間を使い、サドカイ派は完全な暗闇や夕暮れを一日の終わりとしたため、「二つの夕べの間」という概念に次のような1日の違いが生じました。ファリサイ派の人々は、太陽が完全に消えた瞬間を一日の終わり（「第二の夕べ」とも呼ばれる）とし、太陽が初めて地平線に触れた時を「第一の夕べ」としたので、彼らにとって「二つの夕べの間」の意味は一日の終わりであった。一方、サドカイ派は聖書に基づいていたので、「第1の夕べ」を



日没と見なして一日の終わりとし、「第2の夕べ」を夕暮れ（すでに翌日の一部）と見なしていたので、サドカイ派にとっての「2つの夕べの間」は一日の始まりでした。つまり、「2つの夕べの間のニサン14日」は、ファリサイ派ではニサン14日の終わり、サドカイ派ではニサン14日の始まりとなり、1日違いとなったのです。過ぎ越しの祭りはどちらの宗派にとっても聖なる日であり、過ぎ越しの祭りは宗派によってニサン14日またはニサン15日に行われました。

oooooooooooooooooooooooo

**12<sup>5</sup>** エルサレムの神殿で司会をしていたユダヤ人にとっては、4月6日（木）と4月7日（金）の2回、連続した過ぎ越しの日がありました（西暦30年）。過ぎ越しの祭りは、ユダヤ人にとって聖なる日であり、祭りの日、あるいは特別な「安息日」として大切にされていた。レビ記23:11にあるように、「安息日の翌日」に与えられる「束の献げ物」も特別な日であった。ファリサイ派の人々は「安息日の翌日」をどの曜日であっても「過ぎ越し祭の翌日」と考えていましたが、サドカイ派の人々は「安息日の翌日」を「週の安息日の翌日」、つまり過ぎ越し祭の次の日曜日と考えていました。サドカイ派によれば、「束の献げ物」は土曜日にはできないことになりますが、ファリサイ派の人々は過ぎ越し祭が金曜日に行わ

れた年には、翌日か土曜日に「東の献げ物」を捧げて、印象的なショーを行ったことが記録されています。聖書には、イエスが死んだ磔刑の翌日は「大安息日」であったと書かれていますが、これをある解説者は一方的に解釈し、他の解説者は別の解釈をしています（過ぎ越し祭の後に週に一度の安息日がある、あるいはその両方が同じ日にある）。しかし、西暦30年には、4月6日木曜日がサドカイ派の過ぎ越しの日であり（ニサンー日が正しいとすると）、その翌日の4月7日金曜日がパリサイ派の過ぎ越しの日、そして3日目の4月8日土曜日が両派の週休日となっており、西暦30年には明らかに3つの連続した「安息日」があったことになります。

oooooooooooooooooooooooo



**Above:** Virgin of Humility, Fondazione Magnani Rocca, Mamiano di Traversetolo (1435-1440 painting by Pietro Di Giovanni D'Ambrogio, Tempera on panel)

<sup>126a</sup> イエスの復活後の日曜日の朝、弟子たちは復活したイエスを（墓の近くで）発見した[1-4]。マタイ28:1で言及されている安息日は、指定されている「週の初めの日」

（日曜日）の前日である。その日曜日は、磔刑にかけられた一週間のうち、福音書の記述で提供されている唯一の曜日です。もし私たちが西暦30年という正しい年の中で見ているのであれば、知られている事実のどれにも矛盾がないはずです[5]。そのような事実の一つは、ヨハネ19:14が磔刑の日を過ぎ越し祭の準備の日としていることで、イエスが前夜に12人の使徒たちと一緒に過ぎ越し祭を食べたことと一見矛盾しているように見えますが、これは発生した年に依存するものではなく、聖書に基づいています。一つの説明は、上で見たように、異なる宗派の過ぎ越し祭は異なる日に祝われていたということです[6-11]。マルコは磔刑を「安息日」の前日としていますが、すでに上で見たように、過ぎ越し祭は「安息日」

です[12]。

<sup>126b</sup> ルカ23:54-56によると、イエスの弟子たちは、磔刑にかけられたその日に香辛料を用意することができたので、先の過ぎ越し祭だけを祝ったことがわかります[13]。しかし、もしイエスが磔刑にかけられる前の夜に本当に過ぎ越し祭を祝っていたのであれば、磔刑にかけられた日は同じ日であり、ユダヤ教の一日の夕方が次の一日の始まりとなるため、過ぎ越し祭の日となります。ですから、弟子たちはスパイスの準備をしていなかったはずで、これは明らかに深刻な問題です。なぜなら、過ぎ越し祭という行事では、この香辛料を用意する作業が禁止されており、弟子たちは香辛料を用意したので、イエスは前夜に過ぎ越し祭を食

べなかったことになります（それでも食べたのですが）。ヨハネ19:31は、磔刑にかけられた翌日が単に週に一度の安息日ではなかったことを示しています（ヨハネ19:14、42も）。

[1](マタイ 28:1)

[2](マルコ 16:2,9)

[3](ルカ 24:1)

[4](ルカ 20:1)

[5](アモス 5:15)

[6](ルカ 19:14)

[7](ルカ 18:28)

[8](ルカ 22:15)

[9](マルコ 14:14,18)

[10](マタイ 26:17,20)

[11](cf. ルカ 13:1,2)

[12](マルコ 15:42)

[13](安息日や過ぎ越し祭などの祭日には、多くの労働が禁じられていましたが、後者は「高安息日」または「大安息日」と呼ばれていました。)

oooooooooooooooooooooooo

12<sup>7a</sup> 実際、ヨハネの福音書19章14節を見ると、磔刑にかけられた翌日は過ぎ越し祭の日で、ユダヤ人たちは準備をしていました。もし、磔刑の翌日がファリサイ派の過ぎ越しの日だったとすれば、それはニサン15日となり、結果的に磔刑の日はニサン14日となりますが、西暦30年当時は木曜日で、サドカイ派の過ぎ越しの日でした。多くの人々は、ニサン14日の木曜日を磔刑の日としています。問題は、イエス様が磔刑にかけられる前夜に弟子たちと一緒に過ぎ越し祭を祝われたことです。この見解では、弟子たちは二日目の15日に働くことが許されましたが、ルカ23:54-56とは一致しませ



ん。

12<sup>7b</sup> 磔刑の翌日が何らかの過ぎ越し祭でなければなりませんでした。[1]もし、磔刑の翌日がサドカイ派の過ぎ越し祭であったとすれば、西暦30年には木曜日だったので、磔刑自体はニサン十三日で水曜日であり、主の晩餐はニサン十二日の火曜日の終業後に始まったことになります。イエスの弟子たちは、水曜日ニサン13日の磔刑の後、木曜日に過ぎ越しを祝います。サドカイ派にとっての過ぎ越しは、ニサン一四日の木曜日で、これがイエスの弟子たちの過ぎ越しとなります。この場合、香辛料は水曜日に準備されます。主の晩餐は、ユリウス暦では4月4日の火曜日の夜に行われたことになります。これはうまくいきそうですが、少

# し説明が必要です。

[1](ルカ 19:14)



**Above:** Madonna and Child, Gemäldegalerie, Dresden, Germany (c. 1670 painting by Bartolomeo Esteban Murillo, Oil on canvas, 166 x 115 cm)

oooooooooooooooooooooooo

**12<sup>8a</sup>** 磔刑にされた日を決定する論理的な方法の一つは、ニサン17日（4月9日）の日曜日から逆算することです。イエスが墓の中で過ごした日数は、1日半、2日半、あるいはあまり多くはありませんが、**3日3晩**と表現されており、これはヨナやイエスが預言していたことです[1,2]。日曜の朝よりも3日早い木曜日、つまり水曜の午後は、死から復活まで丸3日（木曜から土曜まで）を過ごすことができます。ですから、水曜日の磔刑は予言によく合っています。

**12<sup>8b</sup>** イエスが墓の中で過ごした時間に関する予言が成就したことで得られる励ましは、理想的な水曜日の磔刑に対する私たちの信仰を高めるものです。福音書にはその週の月の曜日が明示されていないことを知って

いれば、このことは補強されます。しかし、ニサン十三日の磔刑の意味を解釈する際に、いくつかの疑問が生じるのは当然のことかもしれません。なぜなら、もしイエスがその犠牲を二日目の14日、つまり過ぎ越しの夕べに捧げなかったとしたら、その犠牲が、罪のために捧げられた過ぎ越しの犠牲の代わりになるという目的を果たすことができるでしょうか？ この質問に答えようとする前に、いくつかの支持的な視点を考慮することで、啓発されるかもしれません。

[1](ヨナ 1:17)

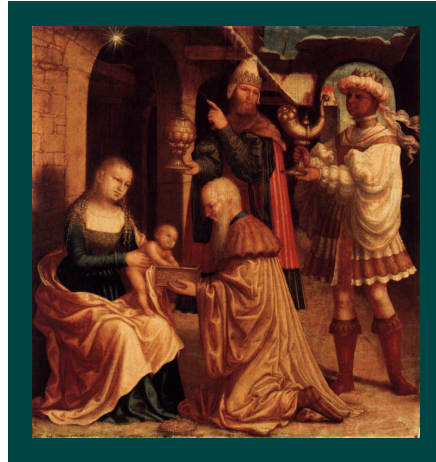
[2](マタイ 12:40)

oooooooooooooooooooo

**12<sup>9a</sup>** 興味深いことに、福音書には、磔刑にかかる前のこのような重要な一連の出来事について、カレンダーの日付が記載されていません。もし、磔刑にかけられた週の一日でも、曜日とカレンダーの日付があれば、それが起こった年を正確に示すことができるはずです。これは、月の軌道が徐々に遅くなる以外に変化していないことを前提としています。地球上の観測者が見る月の位相は、コンピュータプログラムを使ってシミュレーションすることができ、歴史上の既知の日食を使ってタイミングを調整することができます。月の軌道が遅くなることを考慮しています。

**12<sup>9b</sup>** 福音書の記述に太陰暦の日付が含まれていない理由は、上で述べたような宗派間の

問題を抱えた複雑な状況によるものかもしれません。それぞれの宗派の視点から物語を語ることの難しさが、特定の太陰暦の日付がない理由を説明するかもしれませんし、そうでないかもしれません。このことを念頭に置いて発見を進めていくことが賢明であろう。信仰では、事実と理論の整合性を求めます。西暦30年に水曜日に磔刑が行われたという証拠はあるのか？



**Above:** The Adoration of the Magi,  
Gemäldegalerie, Dresden, Germany  
(c. 1530 painting by Master of AB Monogram, Oil on lime  
wood panel, 42 x 39 cm)

oooooooooooooooooooooooooooo

**12<sup>10a</sup>** エッセネ派を見てみると、非常に興味深いことがわかります。それは、エッセネ派のニサン1日は、毎年、春分の日にリセットされていたと考えられていることです。西暦30年の春分の日が3月23日だった場合の

結果は、西暦30年になって初めて、天文学的な太陰暦よりも正確に1日早くなるように旧暦の日をずらすことができました、最も注目すべき性質を持っています。そのため、旧暦のニサン14は木曜日ではなく水曜日となります。西暦26年から35年までの他の年は、太陰暦のニサン14日は、エッセネのニサン14日に近くないか、それよりも前になっており、この範囲では4月4日か5日になります。このことは、イエスがエッセネ人であったことを意味するのではなく、イエスが西暦30年にエッセネ人と過ぎ越しの日を共有していたことを意味することに注意してください。西暦30年、4月5日（水）の磔刑の直前の主の晩餐は4月4日（火）の夕方で、エッ



セネ派の過ぎ越しは4月5日（水）ですから、4月6日（木）のサドカイ派の過ぎ越しの単純に1日前です。これは、磔刑が行われた西暦30年と一致しています。

**12<sup>10b</sup>** また、上述したように、磔刑の年を西暦30年とする説が多数を占めています[1]。

[1](*Paragraphs 7-5a, 7-5b, and 7-5c, above*)

oooooooooooooooooooo

**12<sup>11a</sup>** エッセネ派がエルサレムに存在していたことが記録されているので、弟子たちが西暦30年にユダヤ教の過ぎ越しをより簡単に実行するのに役立っただろう。これによ

り、イエスが行った犠牲は、予言されたユダヤ教の過ぎ越しの日に行われた可能性がありました。まるで奇跡のように、西暦30年にこのような可能性があったことは、私たちの年代を確認する可能性を秘めています。つまり、この発見によって、西暦30年が磔刑の年であるという確信がより確かなものとなったのです。身代金である御子イエスの名において、エホバを称えよう!

**12<sup>11b</sup>** イエスの誕生日を紀元前6年とすることも、今回の発見によって同様に確認されたと考えることができます。また、西暦後26年に行われたバプテスマで、イエスは30歳になっています。これらのことは、この記事の中で先に述べましたが、エッセネの過ぎ越しはそれを独立して確認しているようで

す。また、イエスはファリサイ派やサドカイ派の人々とは考え方に大きな違いがあり、聖書の中で何度も彼らを非難したり教えたりしていたことがわかっています。学者の間では、より純粹なユダヤ教を実践していたと考えられているエッセネ派と、彼がそのような違いを持っていたと考える理由はありません。このようにして、ケースはより強固なものになったと思われる。このようなことに少しでもお役に立てたことを、大変光栄に思います。

oooooooooooooooooooooooo



**Above:** Christ in the Garden of Gethsemane,  
Pinacoteca, Vatican

(c. 1650 painting by Giacinto Brandi, Oil on canvas, 99 x  
75 cm)

**12<sup>12</sup>** ソロモンの神殿が完成してから1000年後にイエスがキリスト（ヘブライ語で「メシア」）として到着したことは、すべての信者にとって歴史上最も重要な出来事であり、私たちの利益のために多くの予言が成就することにつながりました。彼が到着した時期は、現在の歴史的伝統に加えて、天

文学によってここに確立されています。イエスが地上での奉仕活動で果たした預言は、ここでは評価できないほどたくさんあります。これは、十分に説得力のある方法で書くことができる作家としての私の能力よりも、このような膨大な量の情報を吸収する人の能力に起因する現実です。また、時系列に沿った内容についても同様である。しかし、私は意図的にこの章を終えることにしました、それは、BG年表が真実と一致していることを、読者がはっきりと確信できるような形で示すためです。なぜなら、実際に真実でありながら、同じように信じられるからです。しかし、それは熱心な祈りなしには実現しなかったと信じています[1]。祈りと愛で支援してくれた皆さんに感謝します。

[1](伝道の書 12:10)

第12章 結束：エッセネ派を考える

生まれて、求められて。  
メシア

Rolf Ward Green

ROLF WARD GREEN



Rolf Ward Green



ROLF WARD GREEN



**Historical Notes:**

一部の画像は修復されている場合

があります。

HN<sub>1</sub> ダリウスの第2年（紀元前520年、第1年は紀元前522/521年）が、エルサレムの町にエホバの怒りが向けられてから70年後となるのはなぜでしょうか[1]。  $520 + 70 =$  紀元前590年であり、紀元前588年の町の包囲は紀元前587年に終わり、20ヶ月の期間がありました[2]。ここでは69年が包括的なものとなっています。  $588 - 520 + 1 = 69$ 。しかし、ユダヤ暦には外国の支配者の日付を示す世俗的な年号があり、この暦に基づいて、エルサレム包囲戦は紀元前589年（秋）から始まる暦年内に開始されました。そのため、69年ではなく、70年という包括的な年数に

なります。つまり、ゼカリヤ書は、エルサレムが紀元前590年頃に何らかのトラブルに見舞われたことを裏付けています。この時期は、ネブカドネザル王によるエルサレム包囲戦の開始時期と非常に近いので、エルサレムが破壊されたのは紀元前587年であることが確認されました。

[1](ゼカリヤ 1:7,12)

[2](列王第二 25:1,2)

HN<sup>2</sup> ダリウスの第6年（紀元前517年）、イスラエルはエルサレムに第2神殿（ソロモンの第1神殿）を完成させ、その破壊から70年の期間が成就しました[1,2]。



[1](エズラ 6:15)

[2](その破壊は紀元前587年のことで、この記事に記されている通り、聖典と完全に一致しています。)

HN<sup>3a</sup> ダニエル9:24-27の預言によれば、メシアはいつ到着する予定だったのか、それは彼のバプテスマと死のどちらだったのか。彼の死だけが、彼がメシアであることを実際に証明しました。エルサレムを回復・再建するために御言葉が発せられたのは、アルタクセルクセスの第20年と一致すると考える人たちは、アルタクセルクセスの第1年を紀元前475～474年とすることがあります。その結果、彼の第20年は紀元前455年となり、ダニエル書の69週は西暦30年に終わります (69×7 =

483) 。 ネヘミヤ記2:1の出来事がニサン13日以降に起こったと仮定すると、紀元前455年から西暦30年まで483年あることになります（その合計は、485年から年「0」を差し引いて、1を差し引くと483年になります）[1]。ダニエルのメシアの死は「週の半分」であり、この場合、西暦30年とは異なる磔刑を必要としていると考えられるため、それはうまくいきません。週の半分」が、すべての国の人々がユダヤ人信者と一緒に新約に入れられた西暦33年でなければ、犠牲の終わりはイエス・キリストが磔刑につけられたニサン西暦30年であり、70週の予言の最後の週の終わりは、すべての他の国の

人々が新約に迎えられた西暦33年に当たります[2]。

HN<sup>3b</sup> 今回の記事（上）では、歴史的・文化的な証拠に基づいて、**西暦30年**がイエス・キリストが磔刑にかけられた**本当の年**であり、それによって**預言の成就を確認**できることを示しました。磔刑の年は、「予言に適応しています」ことはできず、むしろ予言を確認したり否定したりする役割を果たします。

[1](紀元前475年がアルタクセルクセスの第1年目ではないことは、カール・オロフ・ヨンソン[Carl Olof Jonsson]の1989年(1999年、2003年に改訂)の論文、*"The 20th Year of Artaxerxes and the 'Seventy Weeks' of Daniel"*にはっきりと示されています。その

論文では、紀元前465年がアルタクセルクセスの第1年目であることも示されています。ここでは、ダニエルについてのヨンソン氏の見解は採用しない。)

[2](Paragraphs 2-9 through 2-12, above)

HN<sup>4</sup> 国勢調査の年である**西暦6年**が、それ以前の年である**紀元前6年**と数字（「6」）が一致していることの問題点は、これらの出来事が起こったときに、これらの日付の間に何らかの相関関係があるかどうかについて、非常に注意しなければならないことです。というのも、西暦1年が始まる時点は、その出来事からかなりの世紀を経て決定された、完全に恣意的なものだからである[1,2]。

[1](Paragraphs 5-4 through 5-12, above)

[2](Paragraphs 7-3a and 7-8, above)

**HN<sup>5a</sup>** ファリサイ派もサドカイ派も、過ぎ越しの日に人を処刑することはなかったと信じるに足る理由があります（マルコ14:2）と考えると、西暦30年のニサン14日と15日、つまり4月6日（木）と7日（金）は除外されます。彼らは安息日や過ぎ越しに働くことは許されませんでした。しかし、この日は神聖な日であり、処刑のための日ではありませんでした。

**HN<sup>5b</sup>** また、ガリラヤ人は「最後の晚餐」と呼ばれる過ぎ越しの前日に食事をする習慣があったとする説もあります[1]。これは、イエスとその弟子たちが、通常、サドカイ派の人々と同じように過ぎ越しを食べる習慣があったこ

とを示唆しており、エッセネ派の過ぎ越しがガリラヤ人が食べたこの食事と西暦30年に一致するという上述の議論と一致します（4月4日（火） / ニサン12日の終わり）。

[1](ミシュナー・ペサヒム4:5にはこうある。"...そして、ラビは言う。ユダヤでは、人々は過ぎ越しの前夜に真昼まで労働を行い、ガリラヤでは、人々は過ぎ越しの前夜に労働を全く行わなかった...)

## Table Supplementary: Proposed Titles For This Article

(Feb 19, 2021 — Feb 27, 2021 CE) Note 39 p. 244 — Note 39 p. 247		
1.	Vindication	Vigilance
3.	Crucifixion	Dating Jesus
5.	Convergence	Thirty
7.	Holding Pattern	Conviction
9.	Convenience	Proof

11.	Preponderance	Providence
13.	Realization	Prophecy
15.	Determination	Observation
17.	Manifestation	Perfection
19.	Qualification	Propitiation
21.	Reconciliation	Resurrection
23.	Outcome	Period
25.	Glory	Provision
27.	Punctuality	Reality
29.	Foreordination	Destiny
31.	Protection	Glory (2Co 3:11)
33.	Collateral	Way
35.	Path	Narrow Path
37.	Exceptional	Jesus is Lord
39.	Culmination	Messiah
41.	Saviour	Absolution
43.	Moment	Exultation
45.	Precedent	Possibility
47.	Born and Raised	
48.	<b>Born And Raised</b> <b>—Messiah</b>	

# RECENT ARTICLES:

Now in PDF Format (Web versions in REFERENCES: below):  
The order of the articles written by Rolf Ward Green is:

## 1. Harald



## 2. Skjold



## 3. Valdr



## 4. Smith



## 5. Green



## 6. Joseph



## 7. On

## 8. Phoenix

## 9. Moses





10.  
Ark



13.  
Trojan War



16.  
True



11.  
Crucible



14.  
Wild Road



17.  
Be



12.  
B4



15.  
Uncut Tut



18.  
Messiah



**1. Harald Hildetand and Rollo in the Trojan House of Charlemagne (Dec 25, 2007)**



**2. Skjöldings (Sep 17, 2008)**



**3. Valdr (Oct 09, 2008)**



**4. Smith (Nov 1-6, 2008)**



**5. Green (Nov 23, 2009) (Easter calculator first used and cited) (mod. Mar 02, 2010 Title illus., Hippocrates)**



**6. Joseph (Dec 24-29, 2009) (Easter calculator used) (mod. Mar 02, 2010 Title illus.) (Easter calculator used and stopped working before Feb 28, 2010)**



**7. On (Feb 28-Mar 05, 2010)**



**8. Phoenix (with A. R. Rutledge; Apr 01-06, 2010)**



**9. Moses (with A. R. Rutledge; Jul 31-Sep 23, 2010)**



**10. The Ark of Urartu (with A. R. Rutledge; Dec 24, 2010–Jul 11, 2011)**



**11. The Crucible of Credible Creed (with R. E. Green and A. R. Rutledge; Apr 07, 2012–Jun 20, 2013)**



**12. B4 Chronology (with R. E. Green, M. F. Green (Skanes), and A. R. Rutledge; Jan 01, 2015–Nov 12, 2015)**



**13. Trojan War (with R. E. Green, M. F. Green (Skanes), and A. R. Rutledge; Dec 25, 2015–Jan 14, 2016)**



**14. Wild Road Ahead To History (with R. E. Green, M. F. Green (Skanes), and A. R. Rutledge; May 18, 2016–Sep 27, 2016)**



**15. The Uncut Tut (with R. E. Green, M. F. Green (Skanes), and A. R. Rutledge; Dec 05, 2016–Jan 02, 2017) (Dedicated To A. R. Rutledge (1924-2016)) [She is the late wife of Rolf Ward Green and coauthor]**



## 16. True-- May 22, 2018–May 22, 2018)



## 17. Be. Oct 25, 2019–Aug 28, 2020)

## 18.

Feb 28, 2021–Jun 06, 2021)

(the present article, 'Born And Raised—Messiah')

Date of first publication: Feb 28, 2021

- Mar 01, 2021 2-7a [14 + 17 - 1 = 30 CE (Baptism...)] to correct word [[14 + 17 - 1 = 30 CE (Crucifixion...)]]; 3-12a [preach, ... Jesus...] [[preach ... Jesus'...]]; 4-4 verse [... of Daniel 9:26] [[... of Daniel 9:25]].
- Mar 02, 2021 3-9a 'celestial': [brightest celestial] fixed spelling and punctuat.

- [[brightest, celestial]]; 6-2a Mr. Nelson Glueck appeared on the cover of *Time* [ Magazine in 1963 as a world-famous archaeologist, said in his book, *Rivers in the Desert* (1959) p. 31: ] [[ Magazine in 1963 as the world-famous archaeologist who stated in his book *Rivers in the Desert* (1959): ]] 7-1 s7 start of sentence 7 'it' [it also] [[It also]]; 8-12d footnote numbers [8] and [9] fixed after quotes.
- Mar 03, 2021 12-4 [ For the Mosaic Law and the Sadducees, Passover evening began at the end of Nisan 13, and Passover Sabbath was Nisan 15, which in 30 CE was a Friday, Apr 07, we see. ] [[ For the Mosaic Law and the Sadducees, Passover evening began at the end of Nisan 13, and Passover Sabbath was Nisan 14, which in 30 CE was Thursday, Apr 06, we see. ]]
  - Mar 04, 2021 6-5a fix gram. [his Reign as the] [[whose example is]]; better [and

being imbued as theirs would also be] [[the Emperor being after this time imbued]].

- Mar 06, 2021 9-6 [as the left Egypt... destruction, in BCE] now [[as they left Egypt... destruction in BCE]].
- Mar 08, 2021 2-11b edit: 'before' into 'after' [and... years before BCE 458] [[thus... years after BCE 458]]; 5-2 [M. R. S... was almost] [[R. S... was virtually]]; 5-1 footnote [2] corrected: [Luke 2:2] [[Luke 2:1-4]].
- Mar 09, 2021 9-2a [1914... the Israel's Declaration in 1948] to [[1914... Israel's own Declaration in 1948]]; 9-7 edit: "between" [the very Year 1 of Nebuchadnezzar to the Year 1 of King Darius] fix grammar [[the Year 1 of Nebuchadnezzar and Year 1 of Persian King Darius]]; 2-8b fix grammatical [reminiscent or similar to Daniel 7:25] to be [[reminiscent of or akin to Daniel

7:25]]; 2:2 [it being when they] to be [[which is when they]]; 2:4a footnote [1] added Acts 13:9 reference Paul=Saul; 4-3 added footnotes [1] and [2] for 69 weeks, baptism.

- Mar 10, 2021 1-7 sp. [small utility] [[small utility]]; 1-7 + [[pipes for easy inter-process communication,]].
- Mar 11, 2021 1-2 fix gram. [has] [[had]]; 3-10a [could noted just after sunset, near the] [[could be observed after sunset near the]]; 10-2b add footnote [2], as #; 3-8a insert a new footnote [1], re the death of Herod.
- Mar 12, 2021 3-12a [five or six months younger] [[five (or six) months older]], John being born before Jesus; 5-1 " ["Was... Bethlehem?: ...Luke (by... Ramsay)] : [[Was... Bethlehem?-- ... Luke, by... Ramsay,]]; 5-3 in: [thus we... in BCE 6] [[so we... near BCE 6]]; 1-1 to 12-12 fixed sp. as to "millennial,

- millennium".
- Mar 13, 2021 5-8 added footnote [3], regarding Strabo; add Hist Notes par. #'s, add HN 5-b footnote [1] about Galileans (Mishnah Pesachim 4:5) not working Pass Eve.
  - Mar 14, 2021 4-4 Hebrew anglicized to read: [{"krt"}].
  - Mar 15, 1-12b caption [Metrololitan] [{"Metropolitan"}].
  - Mar 17, 7-9b footnote [7]: [Dec 15,] [{"Dec 15 1982,}]; 8-11a footnote [1] p. [(2014) p. 13] [{"(2014) p. 15}]; 11-9 remove footnote [18], renumber [17] through [20]; 3-8a footnote [1] start sentence: [it was] [{"It was}]; 4-4 add footnote [3] to ref. back to 2-9 footnote [1].
  - Mar 18, 2021 HN-3a footnote [1]: fix: quotation marks.
  - Mar 19, 2021 1-3 illustr. caption: ["Nazca] [{"Nazca}]; 2-10a grammar [Mr. Jones in the] [{"Mr. Jones in his}].



- Mar 24, 2021 10-7b gr. [after Jesus']  
[[after Jesus]].
- Apr 03, 2021 3-4a: footnotes reference:  
[1-3] [[1,2]].
- Apr 04, 2021 5-11b: added missing 'b'  
index to "5-11".
- Apr 05, 2021 9-5 gr. [whom we noted]  
[[who we noted]].
- Apr 06, 2021 12-7b [end of...  
Wednesday, Nisan 12] fix day of week as  
Julian [[end of... Tuesday, Nisan 12]].
- Apr 15, 2021 4-6 footnote [2] label  
corrected to: [2].
- Apr 20, 2021 12-6 fix footnote [3]-[13] left  
brackets; 12-10a-s3 correct meaning:  
[after the Essene Nisan 14] now is most  
accurately [[before the Essene Nisan  
14]].
- Apr 28, 2021 1-10-s3: footnote [1] added  
(sentence 3).
- May 10, 2021 8-11b, 11-5, HN1: sp:  
Ne[[bu]]chadnezzar.

- May 25, 2021 Japanese translation begun.
- Jun 06, 2021 Completed 1st Japanese version 1st Draft, and 1st published Japanese translation of 1st Edition.

---

## REFERENCES:

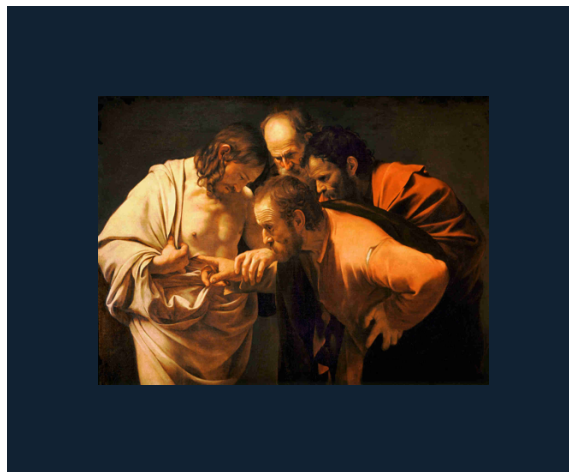
### Own Work:

- (17) ('Be', by Rolf Ward Green)
- (16) ('True', by Rolf Ward Green)
- (15) ('The Uncut Tut', by Rolf Ward Green, Ralph Ellis Green, Anne Ruth Rutledge and Flora Marie Green)
- (14) ('Wild Road Ahead To History', by Rolf Ward Green, Ralph Ellis Green, Anne Ruth Rutledge and Flora Marie Green)
- (13) ('Trojan War', by Rolf Ward Green, Ralph Ellis Green, Anne Ruth Rutledge and Flora Marie Green)
- (12) ('B4 Chronology', by Rolf Ward Green, Ralph Ellis Green, Anne Ruth Rutledge and Flora Marie Green)
- (11) ('The Crucible of Credible Creed', by Rolf Ward Green, Ralph Ellis Green, and Anne Ruth Rutledge)
- (10) ('The Ark of Urartu', by Rolf Ward Green and Anne Ruth Rutledge)
- (9) ('Moses', by Rolf Ward Green and Anne Ruth Rutledge)
- (8) ('Phoenix', by Rolf Ward Green and Anne Ruth Rutledge)
- (7) ('On', by Rolf Ward Green)
- (6) ('Joseph', by Rolf Ward Green)

- (5) ('Green', by Rolf Ward Green)
- (4) ('Smith', by Rolf Ward Green)
- (3) ('Valdr', by Rolf Ward Green)
- (2) ('Skjöldings', by Rolf Ward Green)
- (1) ('Harald Hildetand', by Rolf Ward Green)

## Unique Source Material:

- (4) (The chronology of the Old Testament, by Fotheringham)
- (3) (Manetho, with an English translation by W.G. Waddell)
- (2) (Ancient Egyptian Chronology, 2006, ed. by Erik Hornung, Rolf Krauss and David A. Warburton)
- (1) (Synchronology, 1839, Cambridge University Press, by Charles Crosthwaite)



**The Incredulity of Saint Thomas (Caravaggio, 1601-2)**

ば、存続するものの栄光はなおさら大きいはずです。  
(コリント第二 3:11)

# 生まれて、求められて。 メシア

**Rolf Ward Green**

**Chapter 1: Astronomical Dating And  
True Earth**

**Chapter 2: Back-dating Yesterdays**

**Chapter 3: Tiberius, Herod,  
Astronomy, Testimony**

**Chapter 4: Daniel As Numerically**

# **Internal Endpoints Learned**

**Chapter 5: Principled Ramsay Offers Very Encouraging Story**

**Chapter 6: Roman Enrolments, Augustus, Luke**

**Chapter 7: Christians Handle Rome In Secure Testimony**

**Chapter 8: God Reprieves Abraham's Newborn To Everlasting Days**

**Chapter 9: Gentile Observed Dating Summarized**

**Chapter 10: Foretold A Violation Of Universal Righteousness**

**Chapter 11: The History In Reformative Total Years**

**Chapter 12: Considering Essenes**

第1章：天文年代測定と真の地球

第2章：昨日のことを振り返る

第3章：ティベリウス、ヘロデ、天文学、証言

第4章：数値的に内部の端点として発見されたダニエル

第5章：公明正大なラムジーが勇気づけられる話をしてくれた

第6章：ローマ人定期的な登録、アウグストゥス、ルカ

第7章：確実な証しでローマを耐えるクリスチャンたち

第8章：神はアブラハムの新生児を永遠の日に救い出される

**第9章：異邦人の観察された年代測定  
のまとめ**

**第10章：予告されていた普遍的な義  
への違反**

**第11章：改革的総年限における歴史**

**第12章：エッセネ派を考える**